

---

# 令和 3 年男女共同参画意識調査アンケート クロス集計報告書

---

**聖籠町総務課**

# 調査の概要

## 1 調査の目的

計画に基づく取り組みにより、男女共同参画の理念に関し、町民の皆様にどのように理解されているか、あるいはどのように意識が変化しているかを把握し、今後の計画推進の参考とすることを目的にアンケートを実施した。

## 2 調査対象

令和3年11月1日現在、18歳以上の町内在住者のうち500人を無作為に抽出した。

なお、町計画の理念を踏まえて、女性ばかりではなくLGBT、障がい者、外国人などその他の社会的少数者も含むため全町民を対象とする。

## 3 調査方法

- ・ 郵送による配票及び回収
- ・ 広報せいらう11月号にアンケート回答フォームを掲載し、無作為抽出した500人以外もインターネットによる回答可能としている

## 4 調査期間

令和3年11月15日～12月13日

## 5 調査内容

男女共同参画の理念の浸透度、意識の変化等

## 6 回収状況

標本数： 500人

回収数： 184人（回収率 36.8%）

## 7 集計・分析の方法

- ・ 比率は百分率で示しており、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、個別データの比率を足しても合計比が100%にならない場合がある。

# アンケート結果の概要（男女共同参画意識調査アンケートから抜粋）

問1 あなた（回答者）の性自認（性別）をお答えください。  
（○を1つ付けてください）

1	男性	91
2	女性	92
3	その他	0
4	無回答	1

問2 あなたの年代をお答えください。  
（○を1つ付けてください）

1	10歳代	2
2	20歳代	15
3	30歳代	23
4	40歳代	35
5	50歳代	27
6	60歳代	39
7	70歳代	28
8	80歳以上	15
9	無回答	0

問3 あなたの婚姻状況をお答えください。  
（○を1つ付けてください）

1	未婚	24
2	結婚している（事実婚含む）	129
3	離婚	15
4	死別	16
5	無回答	0

問4 お住まいの地区は次の学区のうちどれですか。  
（○を1つ付けてください）

1	蓮野学区	62
2	山倉学区	67
3	亀代学区	54
4	わからない	1
5	無回答	0

問5 あなたの職業等をお答えください。  
（○を1つ付けてください）

1	農林漁業	11
2	会社員	59
3	公務員・団体職員	14
4	自営業	11
5	パート・アルバイト	19
6	専業主婦・専業主夫	17
7	学生	7
8	無職	38
9	その他	7
10	無回答	0

# 男女共同参画意識調査アンケート結果の概要

問6 あなたは「男女共同参画」という言葉を知っていますか。  
(○を1つ付けてください)

1 知っている	91
2 知らない	88
3 無回答	5

問7 聖籠町で男女共同参画計画が実施されていたことを知っていますか。  
(○を1つ付けてください)

1 知っている	37
2 知らない	143
3 無回答	4

問7-1 <問7で1を回答した方だけ>  
“知っている”と答えた方はどこで知りましたか。  
(自由記述)

15ページ参照

問7-2 <問7で2を回答した方だけ>  
“知らない”と答えた方は、どのような方法で知らせて欲しいですか。  
(自由記述)

16ページ参照

問8 性のあり方は、出生時に決められた男女の性別よりさらに多様で複雑であることを知っていますか。  
(○を1つ付けてください)

1 知っている	125
2 知らない	54
3 無回答	5

問9 聖籠町において、女性は男性よりも地位が低い、または立場が弱いと思いますか。  
(○を1つ付けてください)

1 思う	48
2 思わない	86
3 わからない	49
4 無回答	1

問10 生活をする上で、貧困などの様々な困難に直面していますか。  
(○を1つ付けてください)

1 している	43
2 していない	137
3 無回答	4

問11 配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃を受けたことがありますか。  
(○を1つ付けてください)

1 ある	19
2 ない	162
3 無回答	3

問12 配偶者や恋人から暴力を受けた場合、相談のための窓口があることを知っていますか。  
(○を1つ付けてください)

1 知っている	119
2 知らない	61
3 無回答	4

問13 あなたは、「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方について、賛成ですか、反対ですか。  
(○を1つ付けてください)

1 賛成	5
2 どちらかといえば賛成	32
3 どちらかといえば反対	73
4 反対	40
5 わからない	31
6 無回答	3

# 男女共同参画意識調査アンケート結果の概要

問13-1 <問13で1、2を回答した方だけ>

その理由について、あてはまる番号を次の中からお選びください。  
(○を2つまで付けてください)

1	男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから	17
2	家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから	5
3	女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしつかえるから	7
4	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	17
6	家庭で子どものころからそうした教育がされているから	6
7	女性が外に働きに出るのは男性と比べると不利だから	4
8	その他	3

問13-2 <問13で3、4を回答した方だけ>

その理由について、あてはまる番号を次の中からお選びください。  
(○を2つまで付けてください)

1	男女ともに仕事をもつ方がよいから（生きがいや経済的な面で）	56
2	家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから	60
3	仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから	22
4	男(夫)が仕事だけしている、女(妻)が家庭だけにいると家族の視野が狭くなるから	8
6	夫婦ともに、働いて能力を発揮した方が、社会にとって良いと思うから	15
7	誰もが、家庭と仕事とを両立できるような働き方ができる社会の実現を目指すべきだから	59
8	その他	4

問14 男性が育児、炊事などの家事の役割を主体的に行うことに抵抗感がありますか。

(○を1つ付けてください)

1	ある	23
2	ない	134
3	わからない	18
4	無回答	9

問15 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮できていますか。

(○を1つ付けてください)

1	できている	77
2	できていない	16
3	わからない	89
4	無回答	2

問16 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力をより一層発揮できるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要だと思うものを3つまで選んでください。

(3つまでに○を付けてください)

	男性や女性といった性別に基づくさまざまな固定的な社会通念、	
1	偏見、しきたりなどを改めること	104
2	女性が経済力をつけること	28
3	家事・育児に、パートナー双方が積極的に関わること	89
4	学校で性別に基づく固定的な社会通念、偏見、しきたりなどの是非について教育を進めること	54
5	家庭での性別に基づく固定的な社会通念、偏見、しきたりなどの是非について教育を進めること	32
6	学校及び家庭で性的マイノリティに対する理解を進めるような教育を進めること	39
7	役場や企業などで重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用すること	39
8	仕事と生活との調和がとれるように、長時間労働などの働き方が改善されること	78
9	その他	5

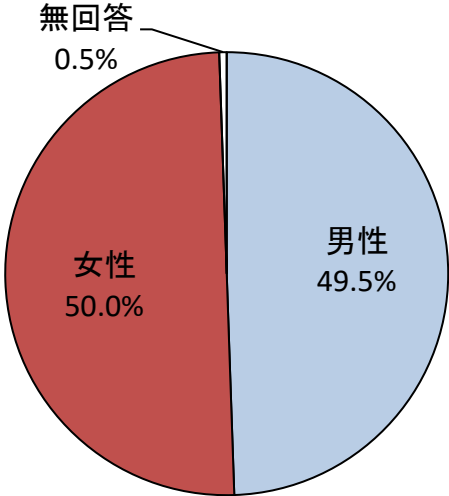
問17 聖籠町は、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、個人がその個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に力を入れていると思いますか。

(○を1つ付けてください)

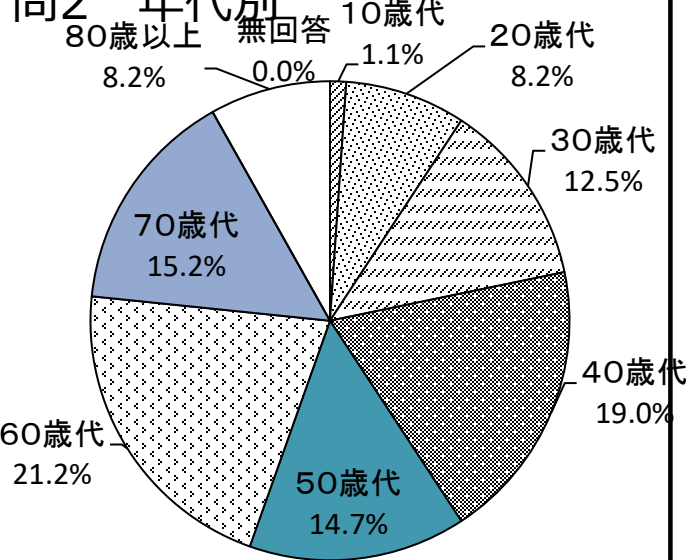
1	思う	19
2	思わない	26
3	わからない	133
4	無回答	6

# 1 回答者のこと

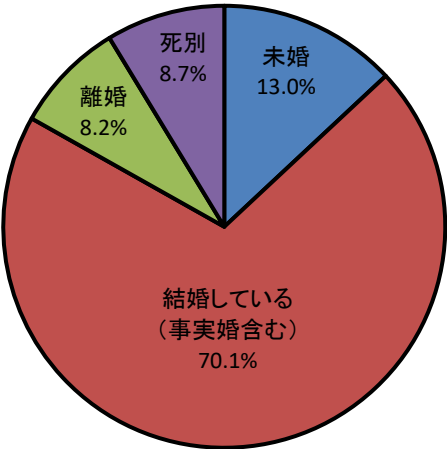
問1 性別



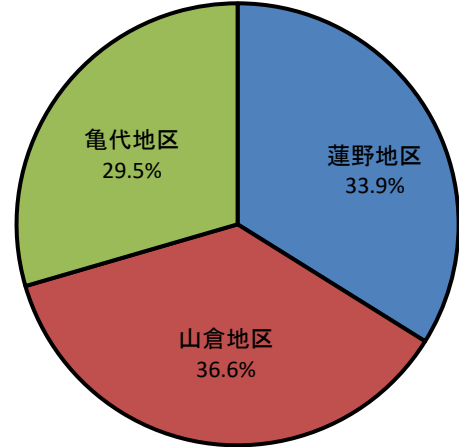
問2 年代別



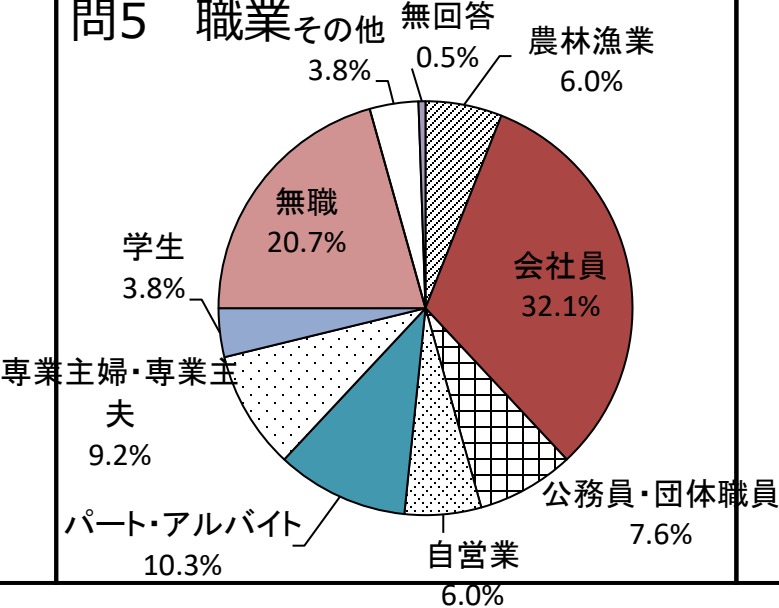
問3 婚姻状況



問4 地区別



問5 職業

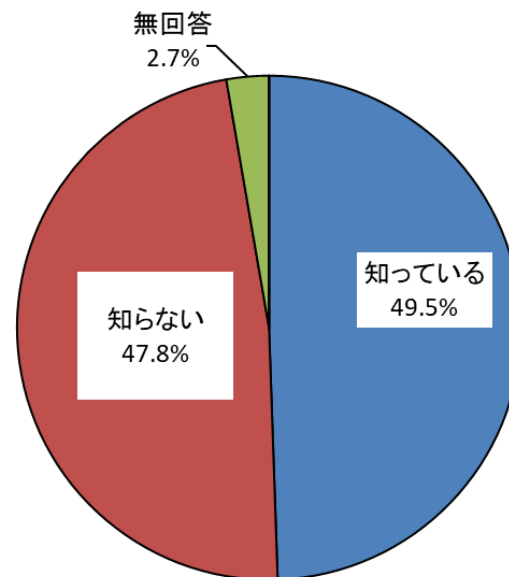


## 2 クロス集計結果

問6 あなたは、男女共同参画という言葉を知っていますか。 【目標値（R4年度末）：70%以上】

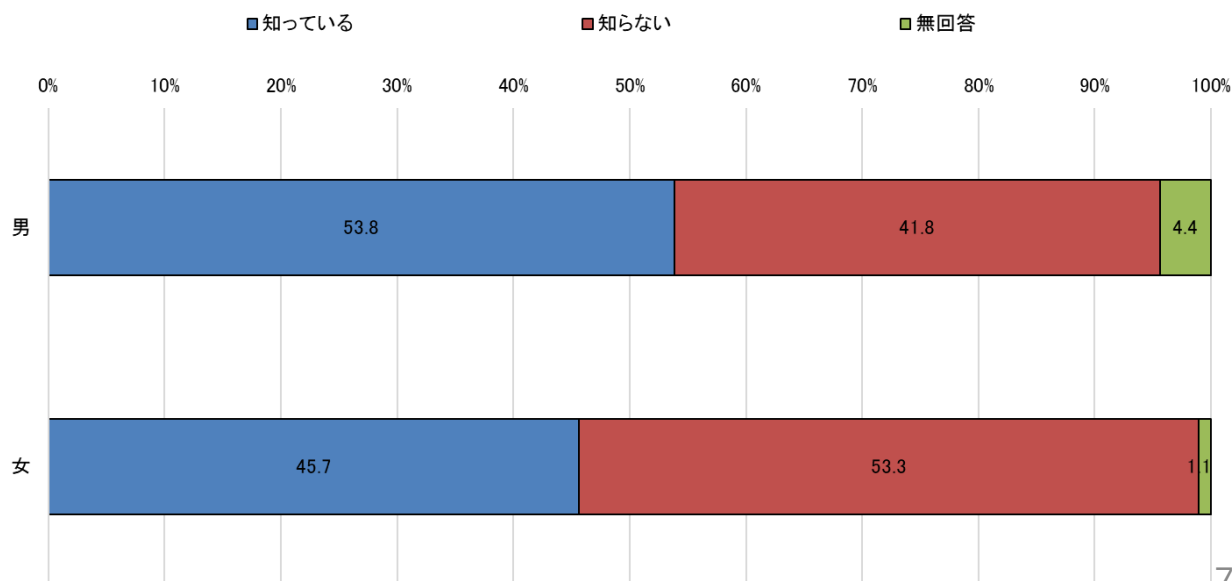
### ① 全 体

「知っている」が49.5%で過半数をわずかに下回っており、聖籠町男女共同参画計画の指標である70%以上を大きく下回っている。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると女性の方が、男女共同参画の認知度が低くなっている。

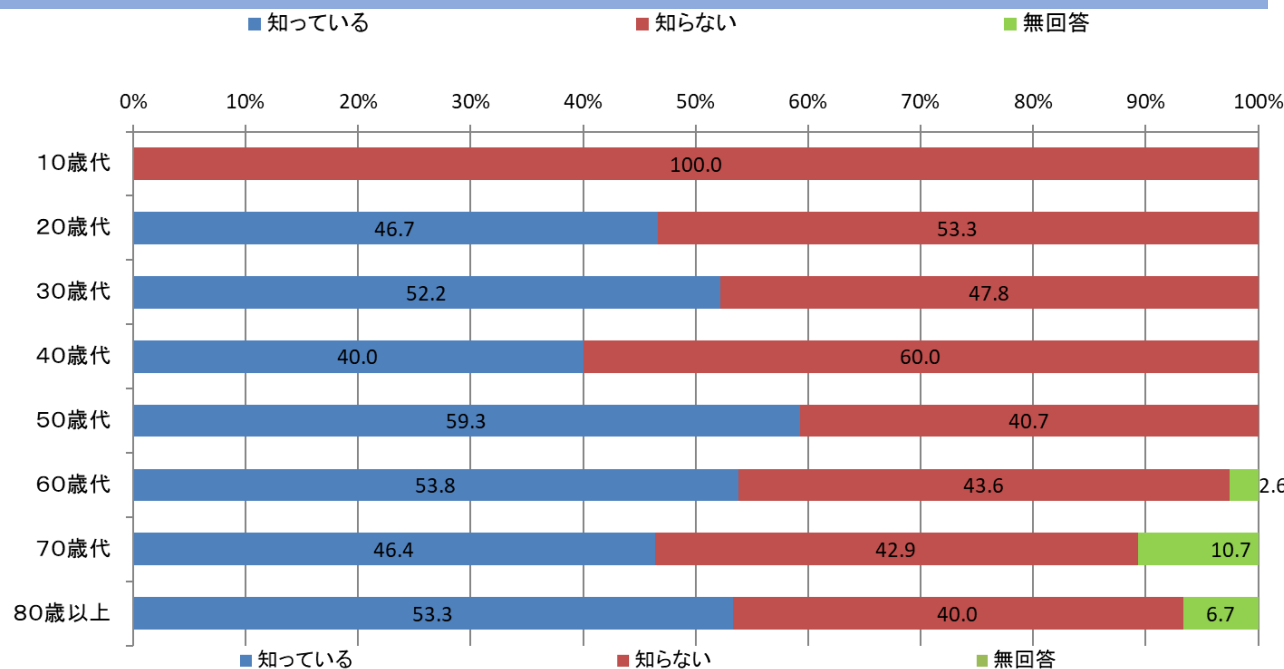


## 2 クロス集計結果

問6 あなたは、男女共同参画という言葉を知っていますか。 【目標値（R4年度末）：70%以上】

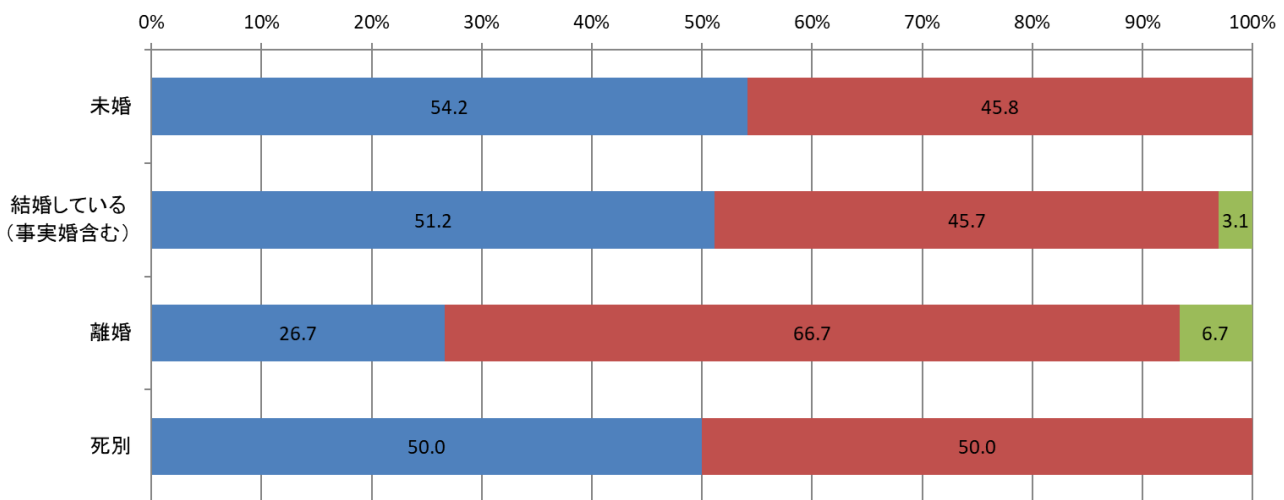
### ③ 年代別

「10歳代」は男女共同参画という言葉の認知度がもっとも低くなっており、次いで「40歳代」で認知度が低くなっている。一方で、「50歳代」～「60歳代」での認知度が高くなっている



### ④ 婚姻状況別

「離婚」は男女共同参画の認知度がもっとも低くなっており、「未婚」、「結婚している（事実婚を含む）」、「死別」は同程度の認知度となっている。



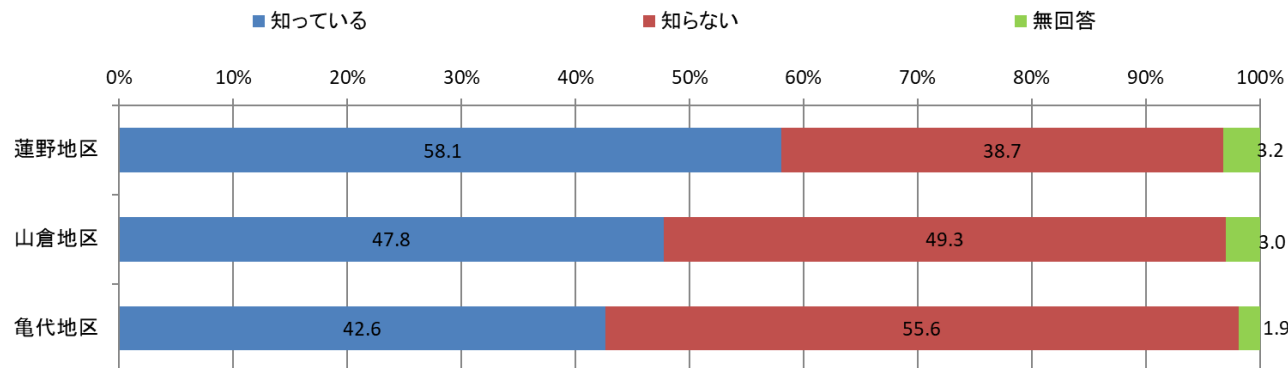


## 2 クロス集計結果

問6 あなたは、男女共同参画という言葉を知っていますか。 【目標値（R4年度末）：70%以上】

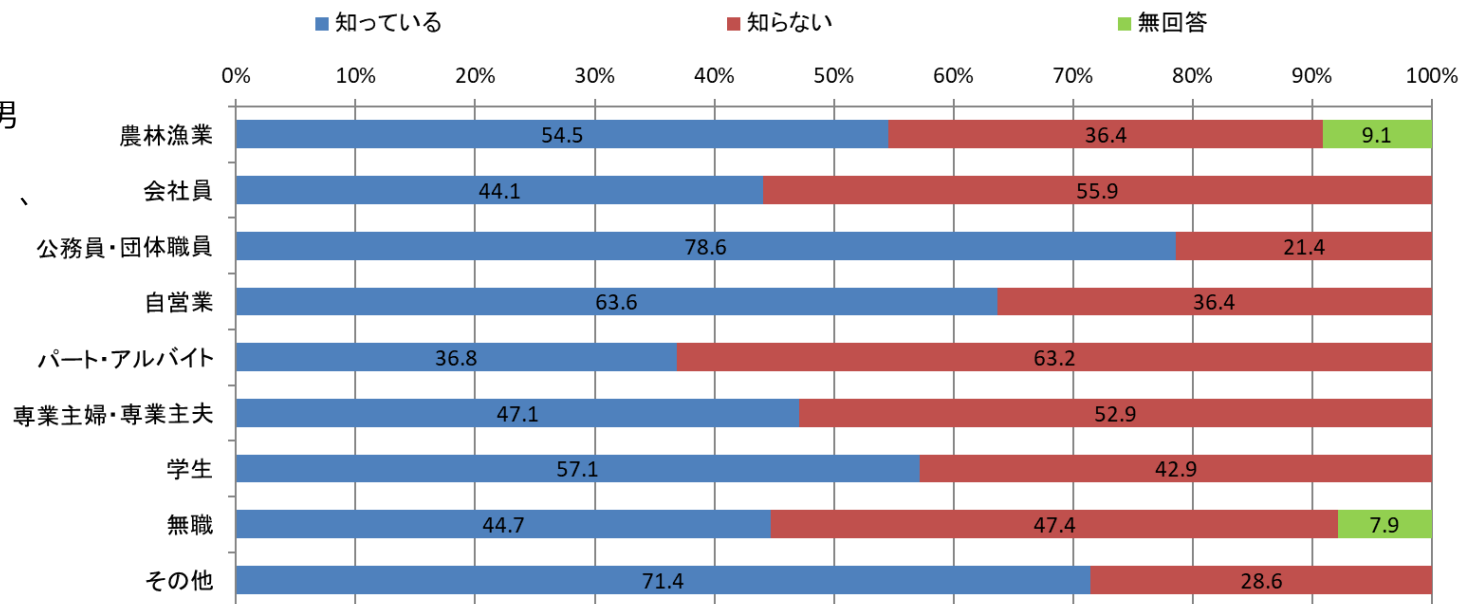
### ⑤ 地区別

「蓮野地区」での男女共同参画という言葉の認知度は高くなっている。  
一方で、「亀代地区」での認知度は低くなっている。



### ⑥ 職業別

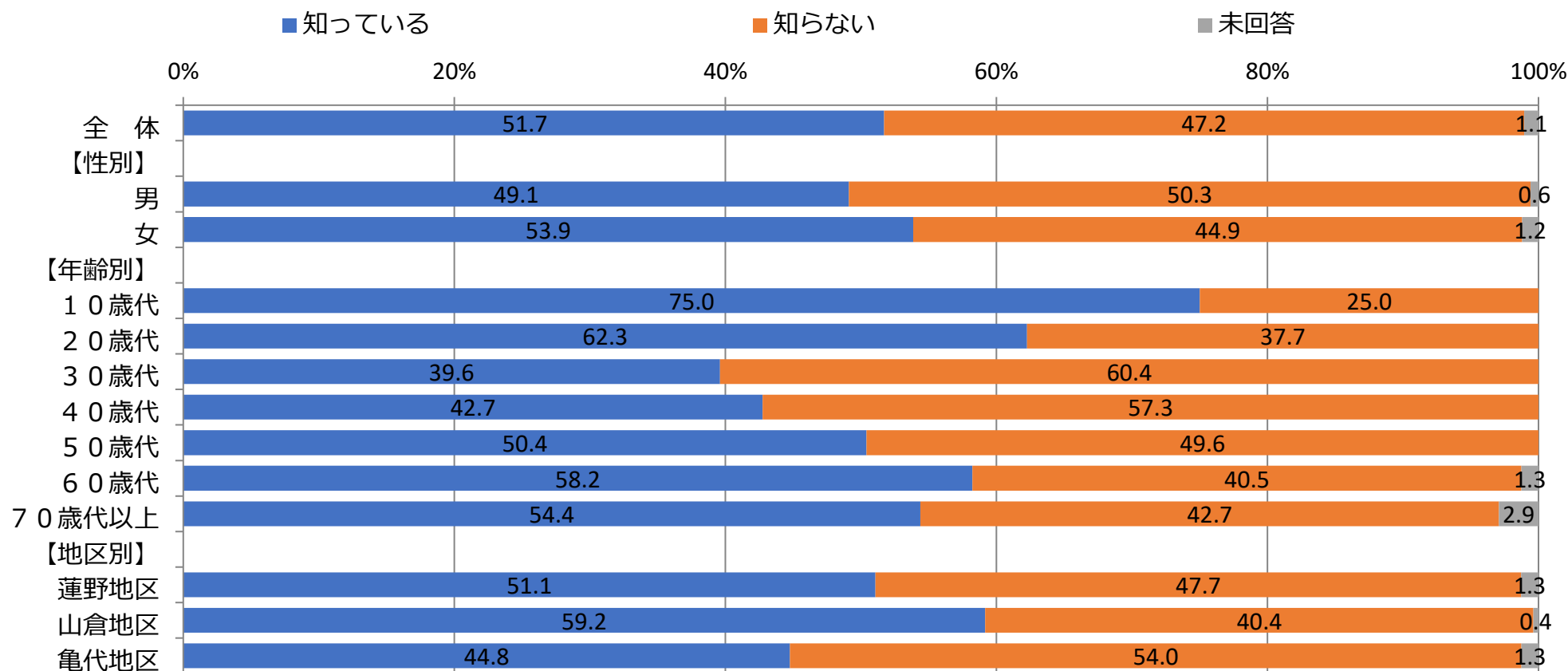
「公務員・団体職員」、「自営業」の男女共同参画という言葉の認知度は高くなっているが、「パート・アルバイト」、「会社員」、「無職」の認知度は低くなっている。



## 2 クロス集計結果

問6 あなたは、男女共同参画という言葉を知っていますか。 【目標値（R4年度末）：70%以上】

### （参考）前回調査比較(R元)



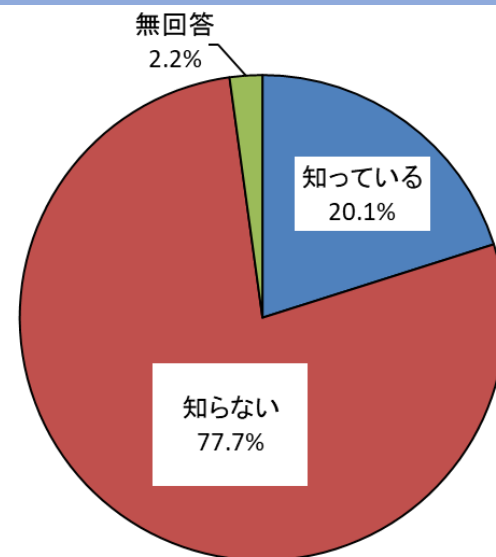
## 2 クロス集計結果

問7 聖籠町で男女共同参画計画が実施されていたことを知っていますか。

【目標値（R4 年度末）：35%以上】

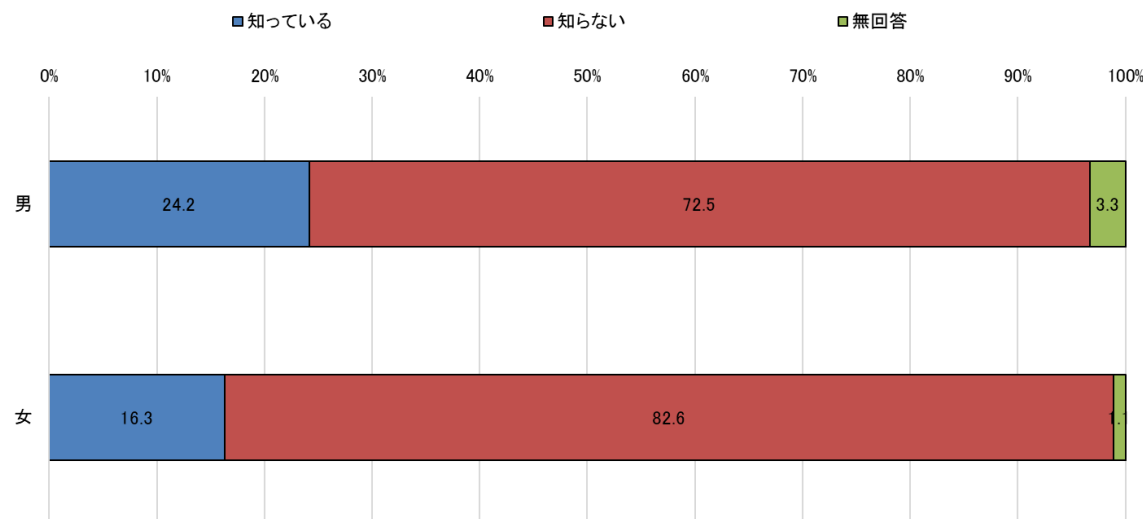
### ① 全 体

「知らない」が77.7%であり、過半数となっている。よって、町男女施策の認知度は低いことがわかる。しかし、前回調査（R元）は「知らない」が82.2%であったことから少しずつではあるが、町男女施策は認知されていると考える。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると女性の方が、町男女施策の認知度が低くなっている。



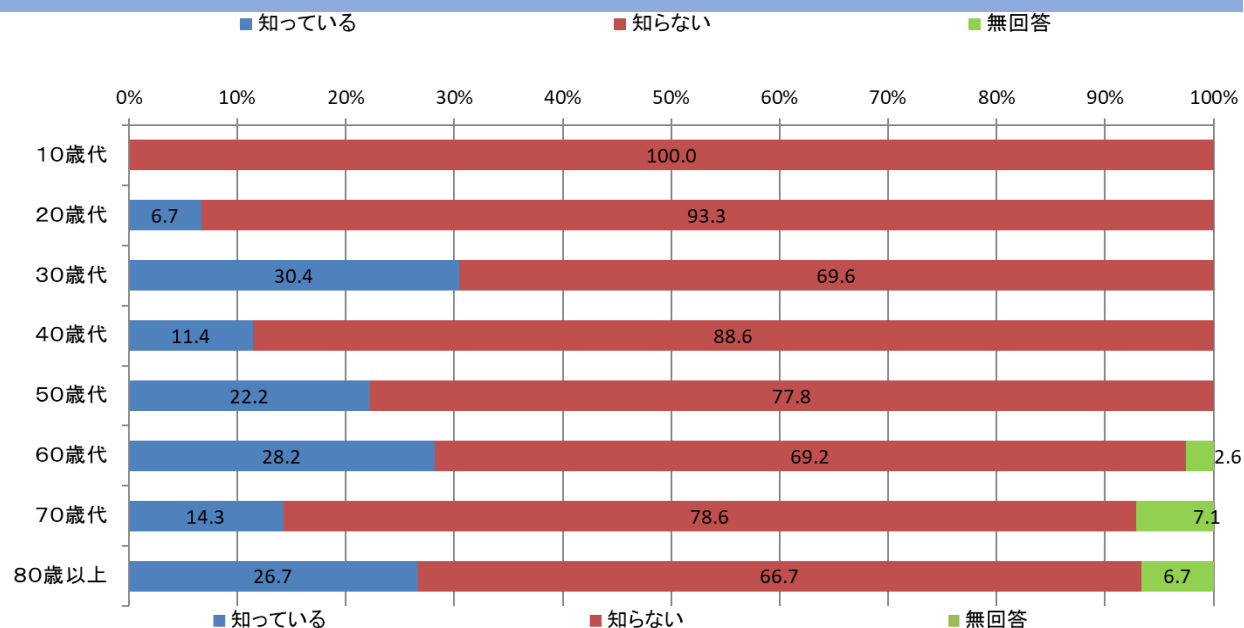
## 2 クロス集計結果

問7 聖籠町で男女共同参画計画が実施されていたことを知っていますか。

【目標値（R4 年度末）：35%以上】

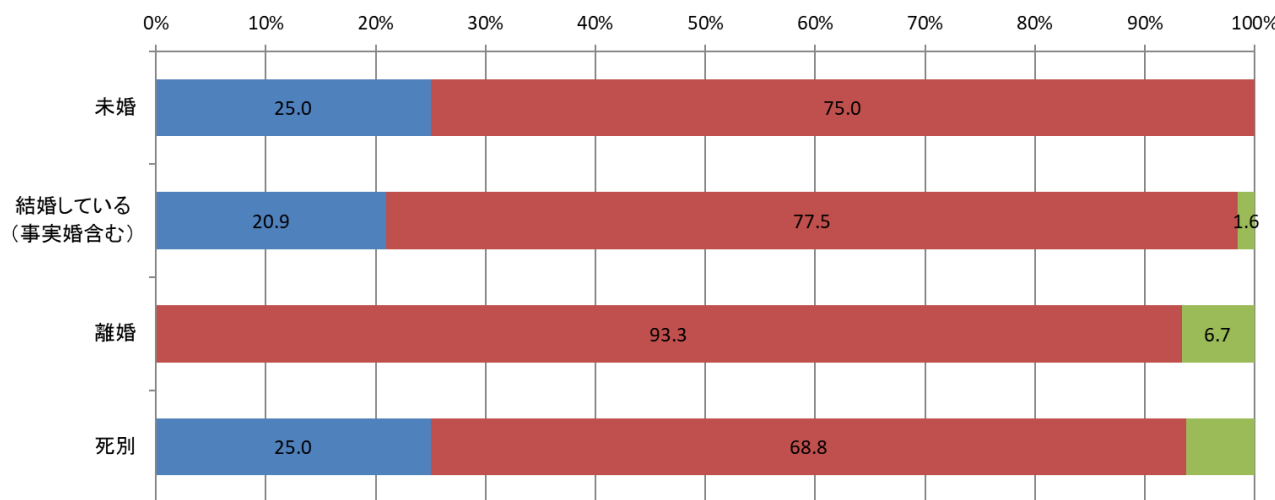
### ③ 年代別

「10歳代」は町男女施策の認知度がもっとも低くなっており、「40歳代」、「70歳代」で低くなっている。  
一方で、「30歳代」、「60歳代」の認知度が高くなっている



### ④ 婚姻状況別

「離婚」は町男女施策の認知度がもっとも低く、知っている町民がいないという結果である。  
しかし、「未婚」、「死別」はわずかではあるが認知度が高くなっている。



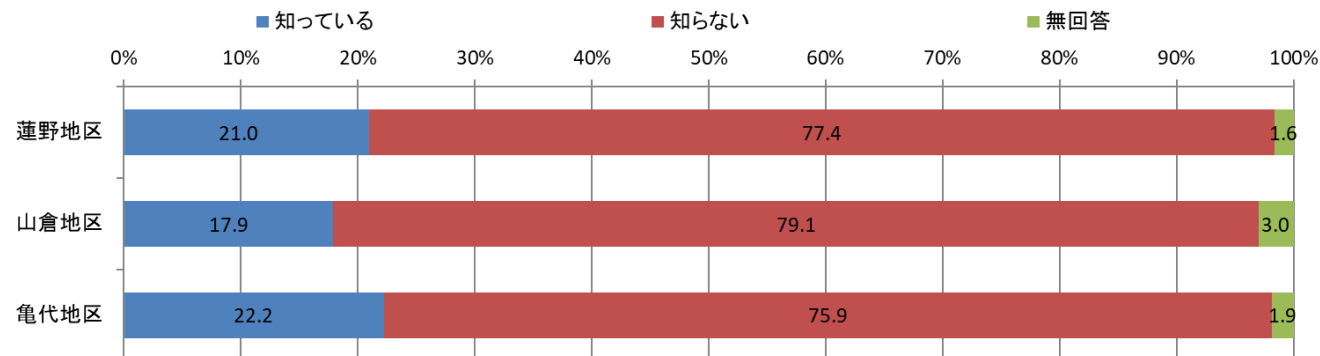
## 2 クロス集計結果

問7 聖籠町で男女共同参画計画が実施されていたことを知っていますか。

【目標値（R4 年度末）：35%以上】

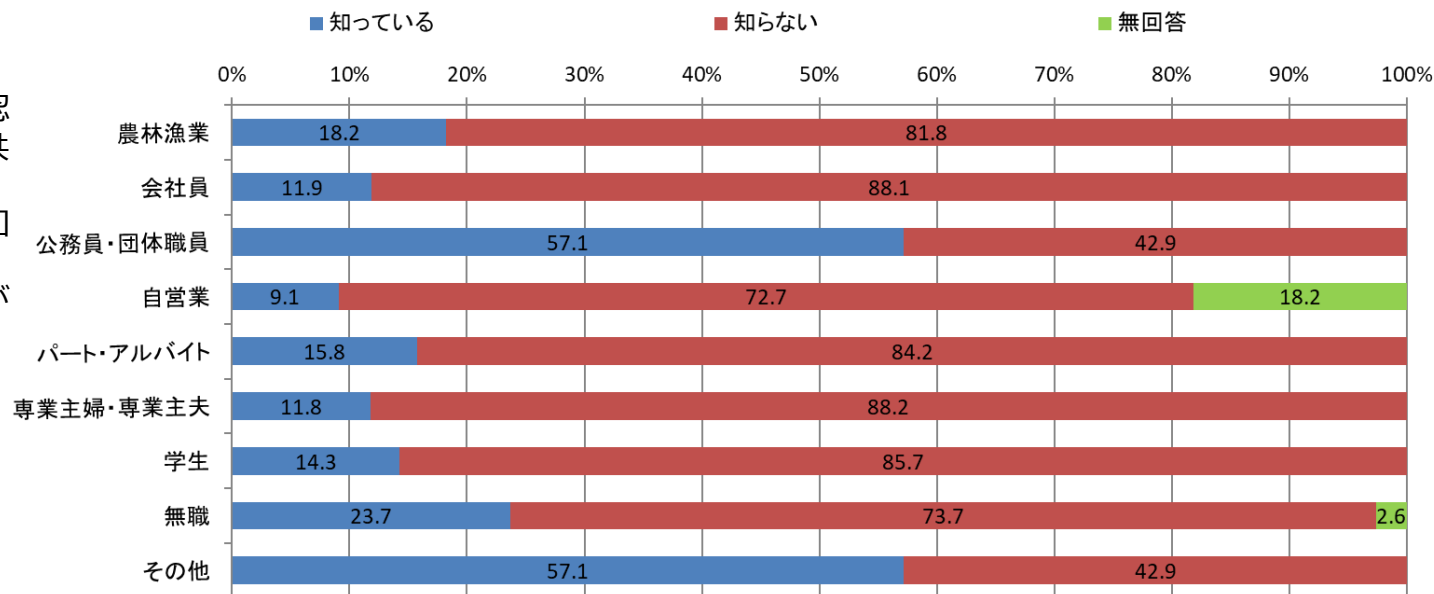
### ⑤ 地区別

「亀代地区」では男女共同参画という言葉の認知度はもっとも低かったが、町男女施策の認知度はもっとも高くなっている。  
一方で、「山倉地区」で町男女施策の認知度は低くなっている。



### ⑥ 職業別

「公務員・団体職員」の町男女施策の認知度は高くなっている。しかし、男女共同参画という言葉の認知度が高かった「自営業」がもっとも町男女施策の認知度が低くあり、次いで「専業主婦・専業主夫」、「会社員」の認知度が低くなっている。

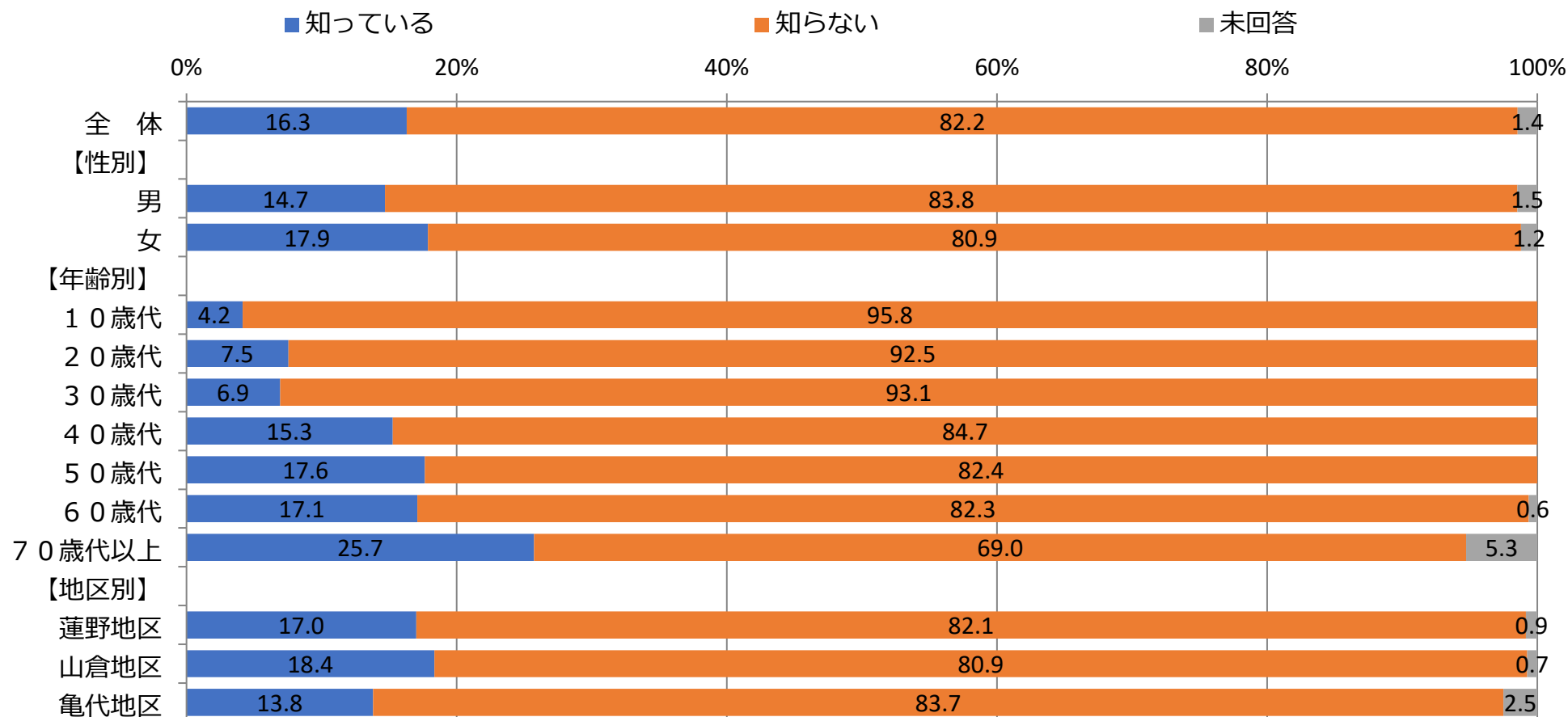


## 2 クロス集計結果

問7 聖籠町で男女共同参画計画が実施されていたことを知っていますか。

【目標値（R4 年度末）：35%以上】

### （参考）前回調査比較(R元)



## 2 クロス集計結果

### 問7-1 “知っている”と答えた方はどこで知りましたか。（自由記述）

自由記述
広報せいらう
広報せいらう、町防災無線
広報、ネット、回覧に大きく、わかりやすく
広報せいらう
広報せいらうでいいと思う。よく読んでいなかったため知らなかった。
広報せいらうで具体的例を付帯に説明されたら
この計画が実施されていることを知らなかったので、広報や別紙にてくわしく、主張されていれば目を通したと思う。
L I N E
S N S
回覧板
テレビ・ラジオ・広報せいらう
テレビや記事、町内への呼びかけ
お手紙やハガキなど
いろいろな方法、手段で知らせる。ネット、広報、チラシ
学校、コンビニ、スーパー等、インパクトのある張り紙
個別ヘチラシ

### ○分析

「広報せいらう」で知った町民が多くなっている。当町では、広報せいらう、ホームページ、チラシやリーフレットの配布等以外での啓発活動は行っていないため、意見を参考にしながら今後はさまざまな媒体を活用して啓発方法を検討する必要があると考える。

## 2 クロス集計結果

問7-2 “知らない”と答えた方は、どのような方法で知らせて欲しいですか。（自由記述）

### 自由記述

広報せいろうをお願いします。

広報せいろうなどが良いです

町のホームページは、あまり見ません

広報など

広報にて

広報にのせてほしい

広報やホームページ

広報や町のホームページ

広報誌

広報等

広報等で何度も

聖籠広報とかで

聖籠広報など

聖籠町広報

町の広報

私自身、広報をみることがあまりないので、知る機会も少ないと思います。今はコロナで難しいですが、町でのイベントが増えれば、もっと関心を持ち、町民自らが町について知ろうとする機会も増えると思います。

社会教育だより

地域のお店や図書館などの行く機会がある施設で張り紙などを用いて知らせてほしい。

町のホームページで通知がくるような感じだとわかりやすいなと思います。

町ホームページ

文章で掲げてても一部の人しか見ないと思います。

実際に見ても分からない人の方が多数だと思います。

各地区の公会堂や体育館で説明してみてはいかがでしょうか？

### ○分析

知らせてほしい方法は「広報せいろう」が最も多くなっており、次いで「ホームページ」となっている。現在も2つの媒体は活用しているため、引き続き啓発を行っていく予定。

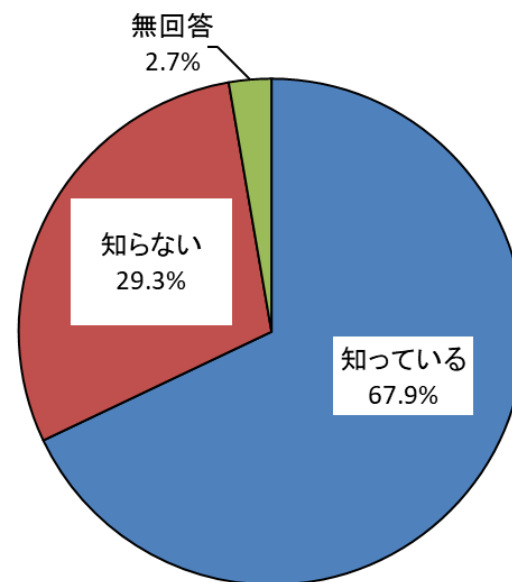


## 2 クロス集計結果

問8 性のあり方は、出生時に決められた男女の性別よりさらに多様で複雑であることを知っていますか。

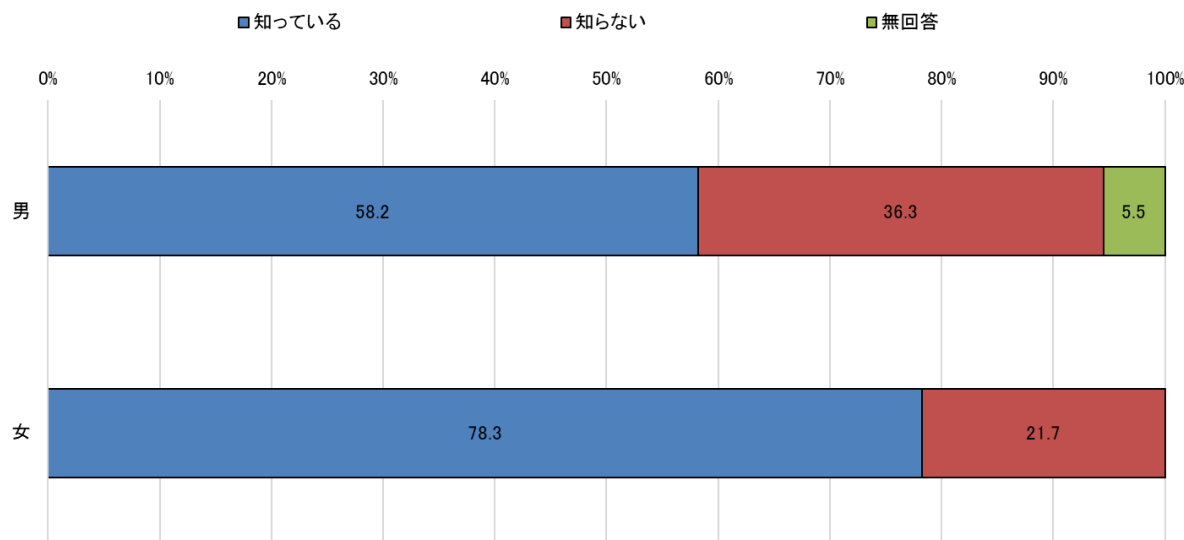
### ① 全 体

「知っている」が67.9%であり、過半数を超えている。よって、町ではLGBTへの認知は高くなっているということが考える。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると女性の方が、LGBTへの認知度が高くなっており、男女ともに認知度は高い結果となっている。

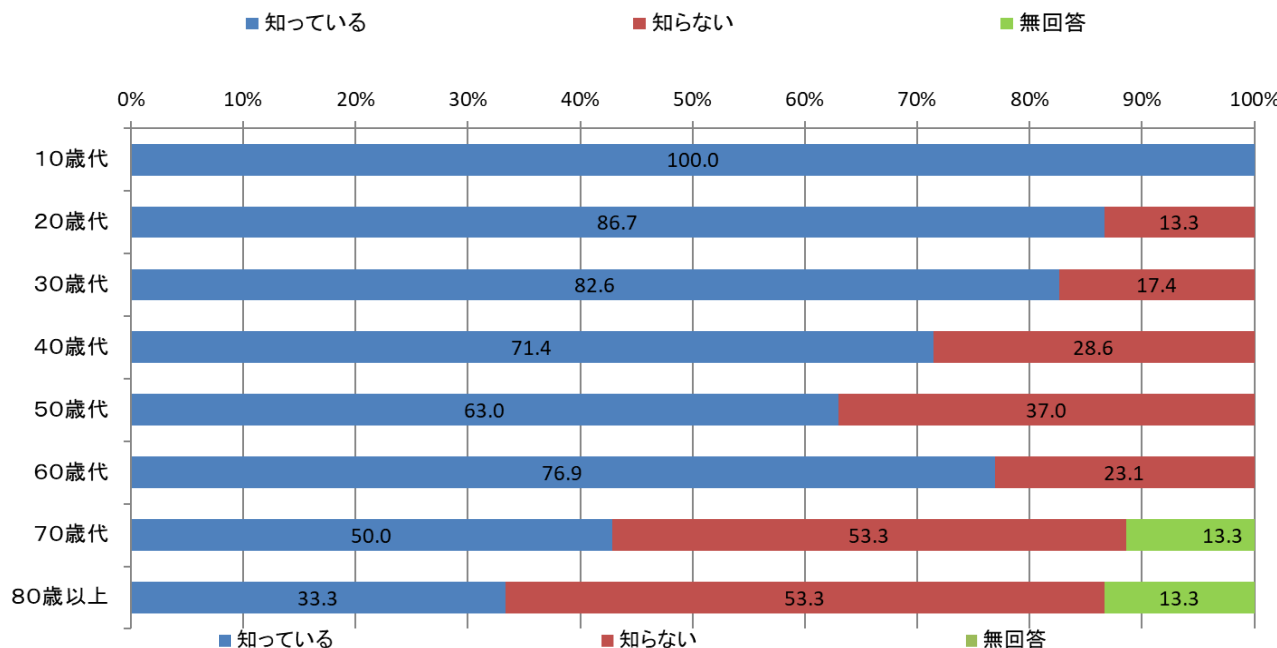


## 2 クロス集計結果

問8 性のあり方は、出生時に決められた男女の性別よりさらに多様で複雑であることを知っていますか。

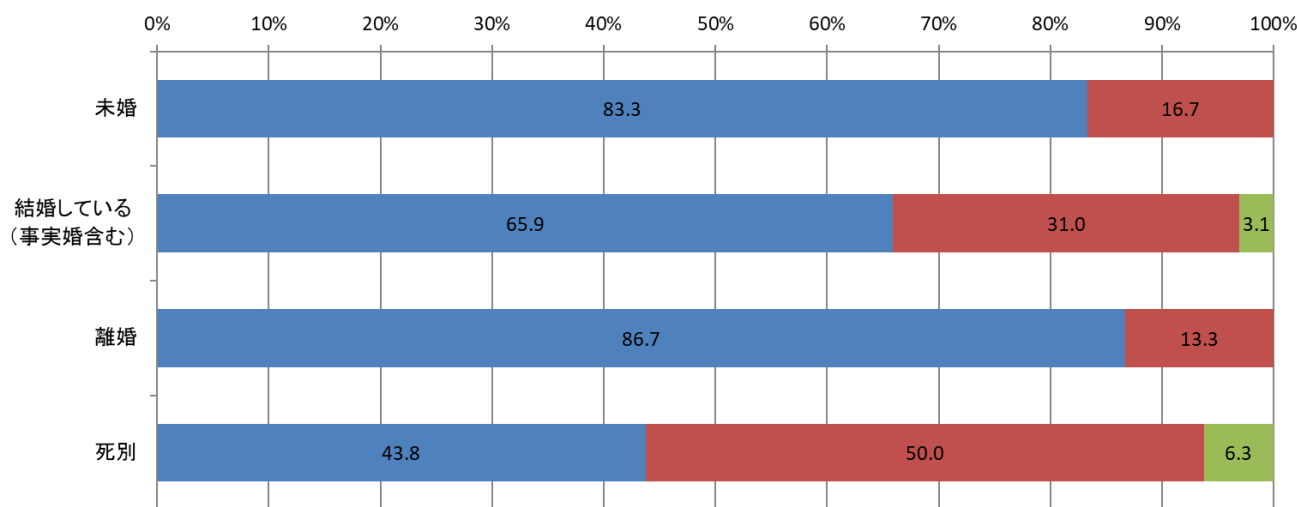
### ③ 年代別

「10歳代」の認知度がもっとも高くなっており、次いで、「20歳代」、「30歳代」、「40歳代」となっていることから若い世代での認知度が高くなっている。



### ④ 婚姻状況別

「未婚」、「離婚」での認知度が高くなっており、次いで、「結婚している（事実婚を含む）」の認知度が高くなっている。

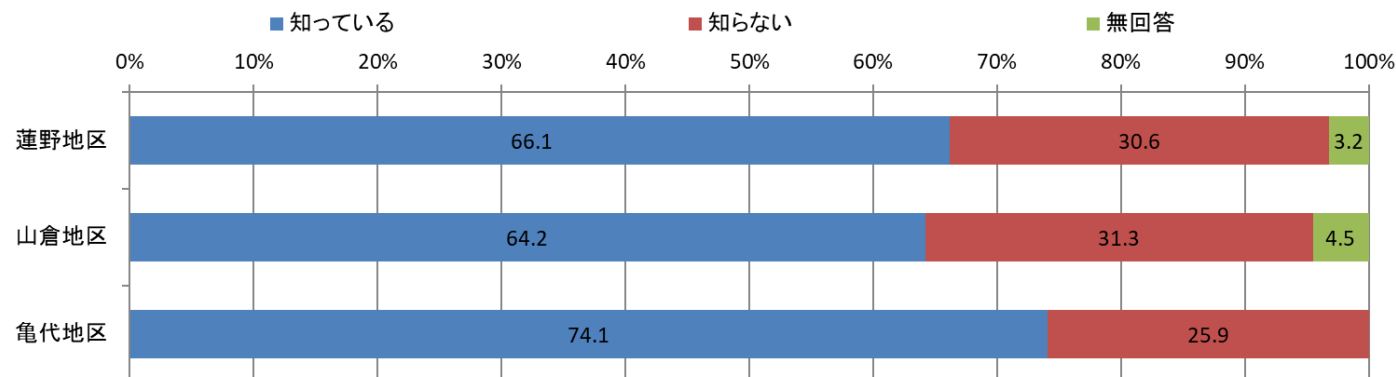


## 2 クロス集計結果

問8 性のあり方は、出生時に決められた男女の性別よりさらに多様で複雑であることを知っていますか。

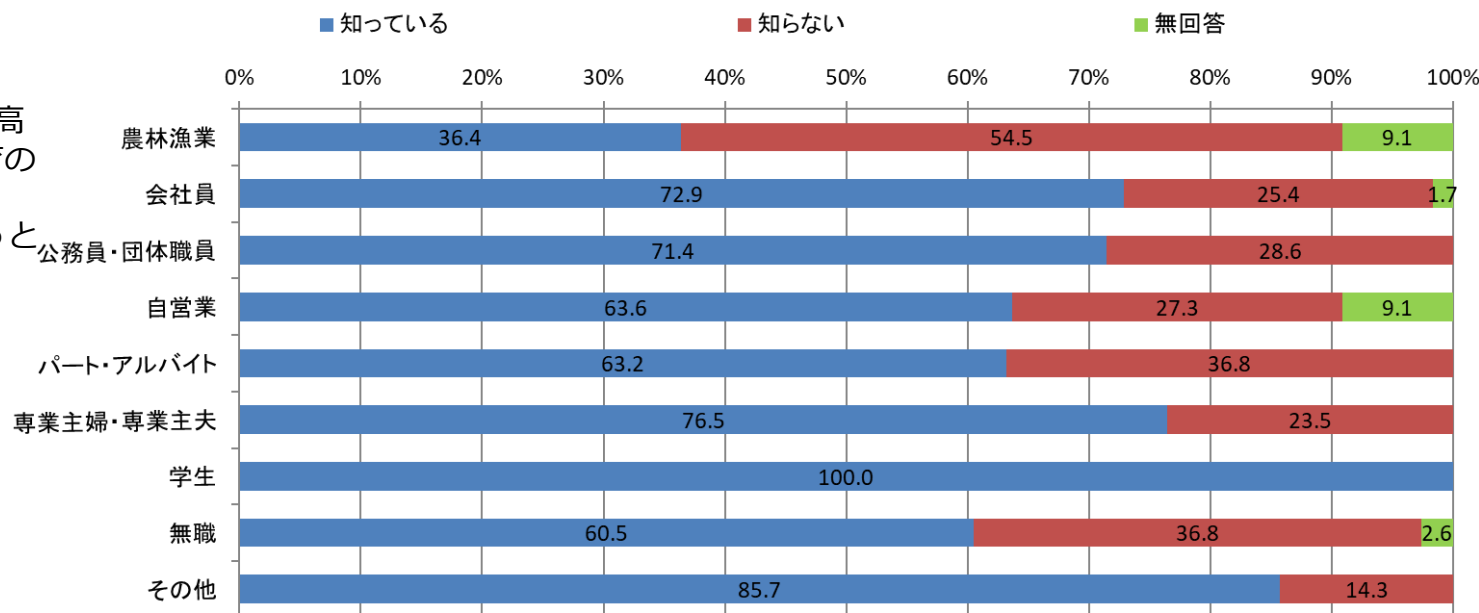
### ⑤ 地区別

「亀代地区」での認知度がもっとも高くなっており、「蓮野地区」、「山倉地区」での認知度も高くなっている。



### ⑥ 職業別

「学生」のLGBTの認知度がもっとも高くなっており、LGBTについての教育の影響があるのではないかと考える。一方で、「農林漁業」の認知度がもっとも低くなっている。



問8 性のあり方は、出生時に決められた男女の性別よりさらに多様で複雑であることを知っていますか。

(参考) 前回調査比較(R元)

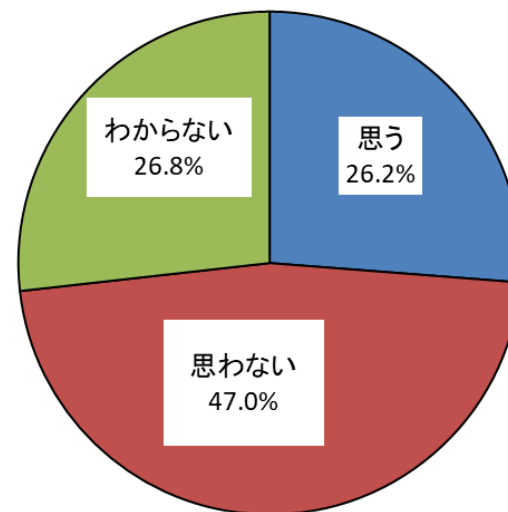
**新規の設問のため、前回データ無し**

## 2 クロス集計結果

問9 聖籠町において、女性は男性よりも地位が低い、または立場が弱いと思いますか。  
【目標値（R4 年度末）：基準値(29.1%)より減少させる】

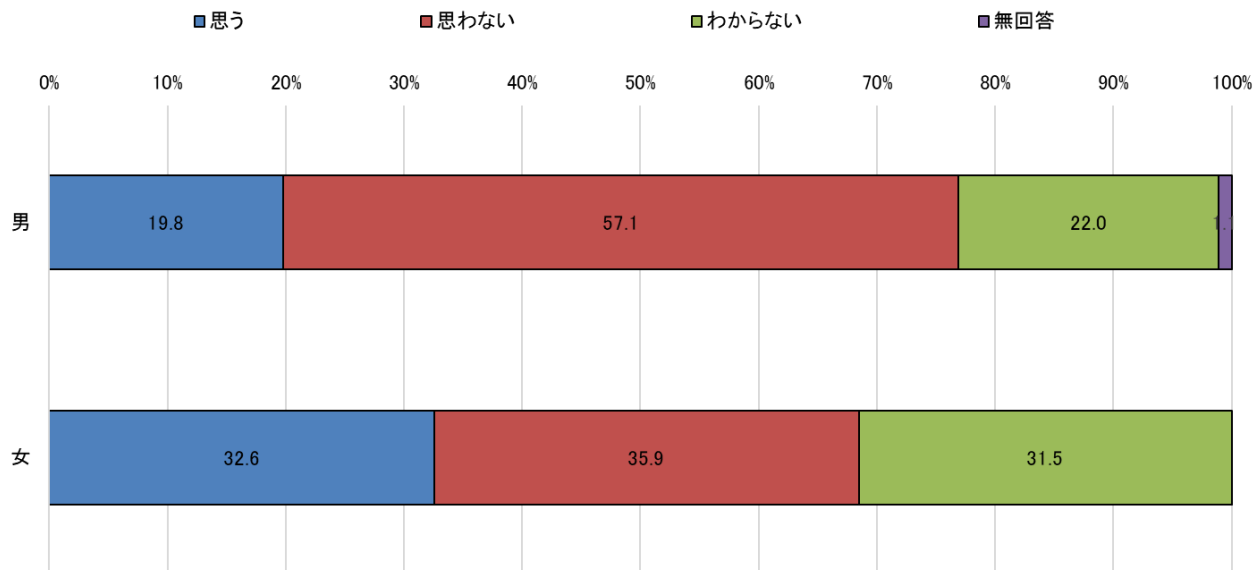
### ① 全 体

「思わない」が47.0%であり、前回調査時（R元）の43.7%より微増している。  
しかし、「思う」が全体の4分の1以上の26.2%となっている。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると女性の方が、地位が低いと感じている人が10%以上多い結果となっていることから、男女間での意識の違いがあることがわかる。

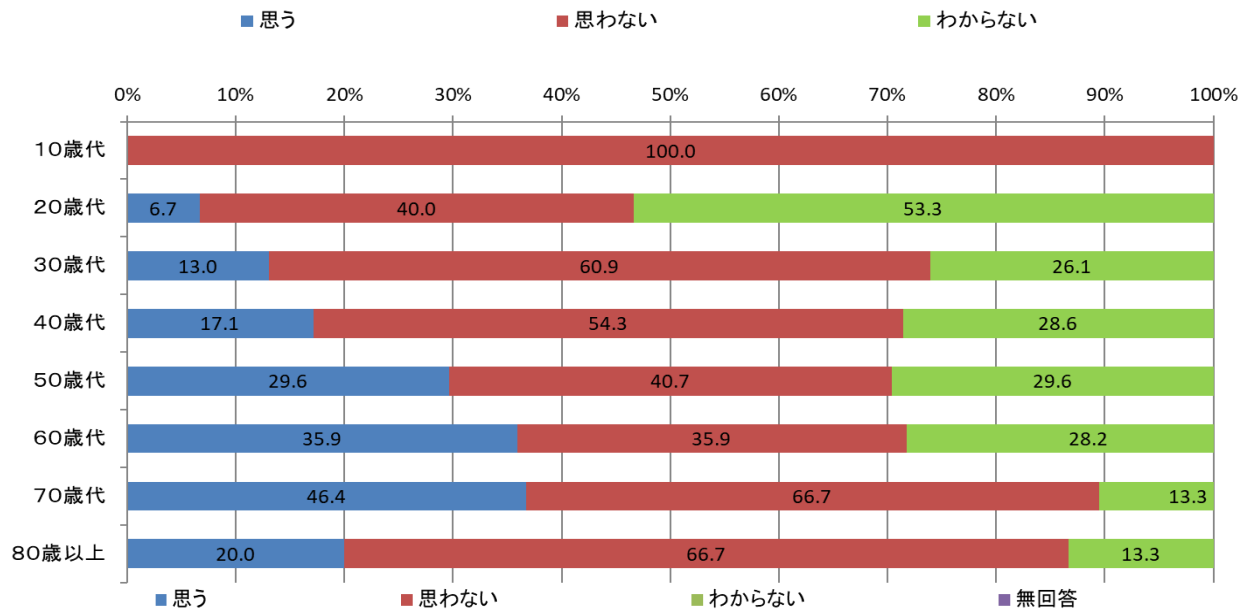


## 2 クロス集計結果

問9 聖籠町において、女性は男性よりも地位が低い、または立場が弱いと思いますか。  
【目標値（R4 年度末）：基準値(29.1%)より減少させる】

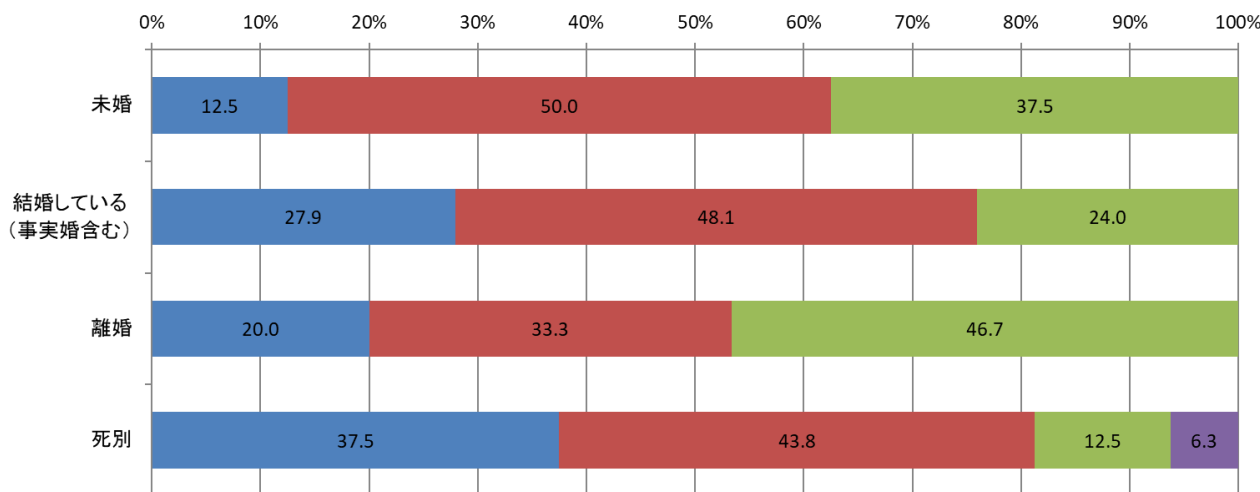
### ③ 年代別

「70歳代」がもっとも女性は男性よりも地位が低いと感じている町民が多い。  
次いで、「60歳代」、「50歳代」となっていることから高齢の世代の方が女性は男性よりも地位が低いと感じている町民が多い。



### ④ 婚姻状況別

「死別」がもっとも女性は男性よりも地位が低いと感じている町民が多い。  
「死別」の構成割合は高齢の町民が多いと考えられることから高齢の世代で女性は男性よりも地位が低いと感じている町民が多いことが考えられる。

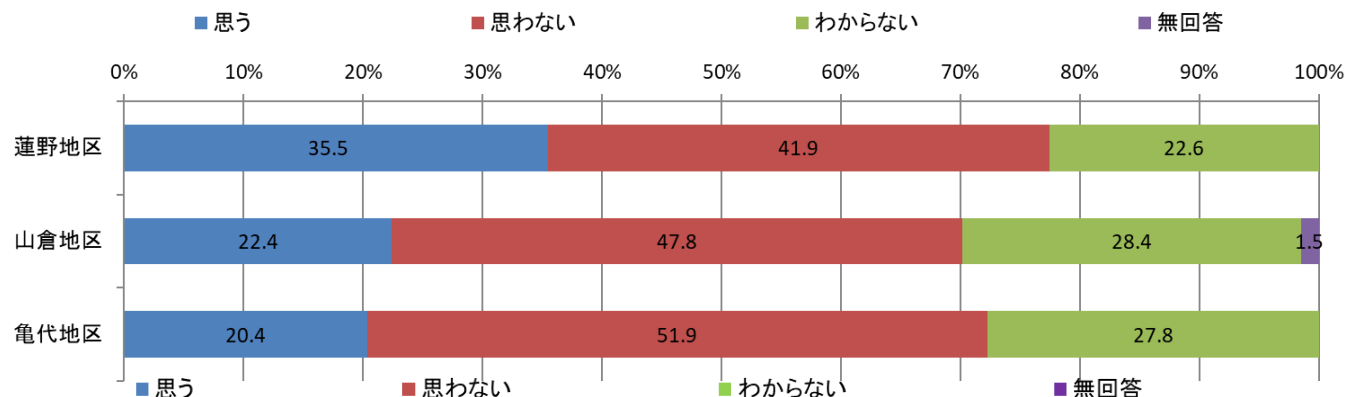


## 2 クロス集計結果

問9 聖籠町において、女性は男性よりも地位が低い、または立場が弱いと思いますか。  
【目標値（R4 年度末）：基準値(29.1%)より減少させる】

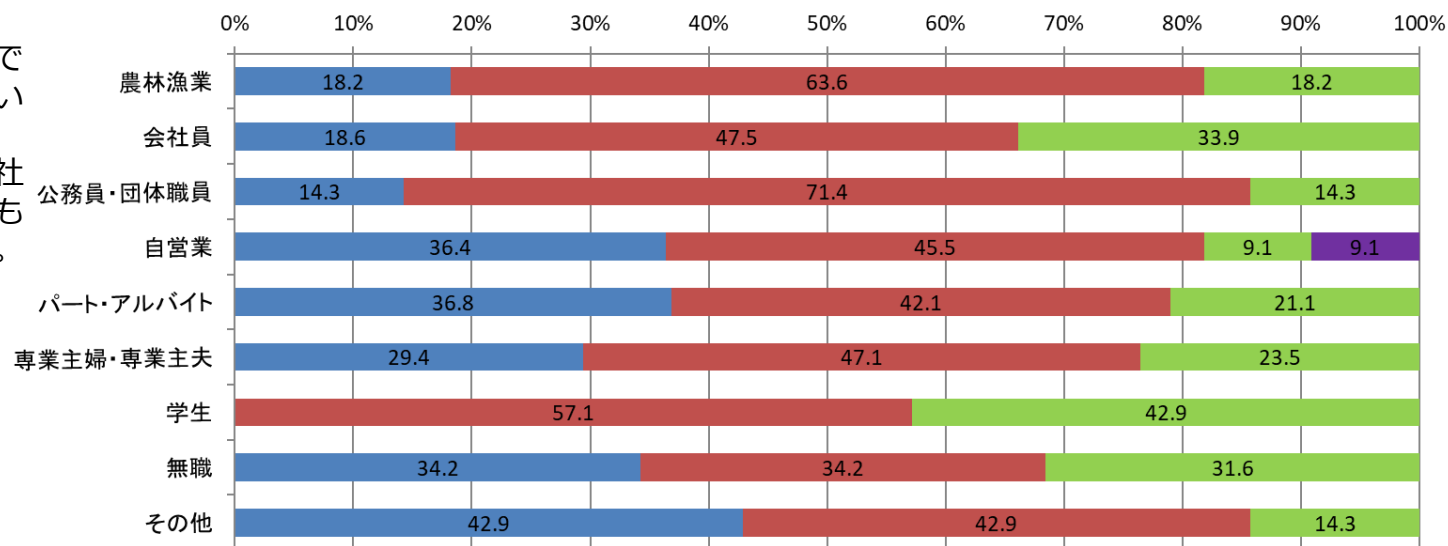
### ⑤ 地区別

「蓮野地区」がもっとも女性は男性よりも地位が低いと感じている町民が多い。一方で、「亀代地区」はもっとも女性は男性よりも地位が低いと感じている町民が少ない。



### ⑥ 職業別

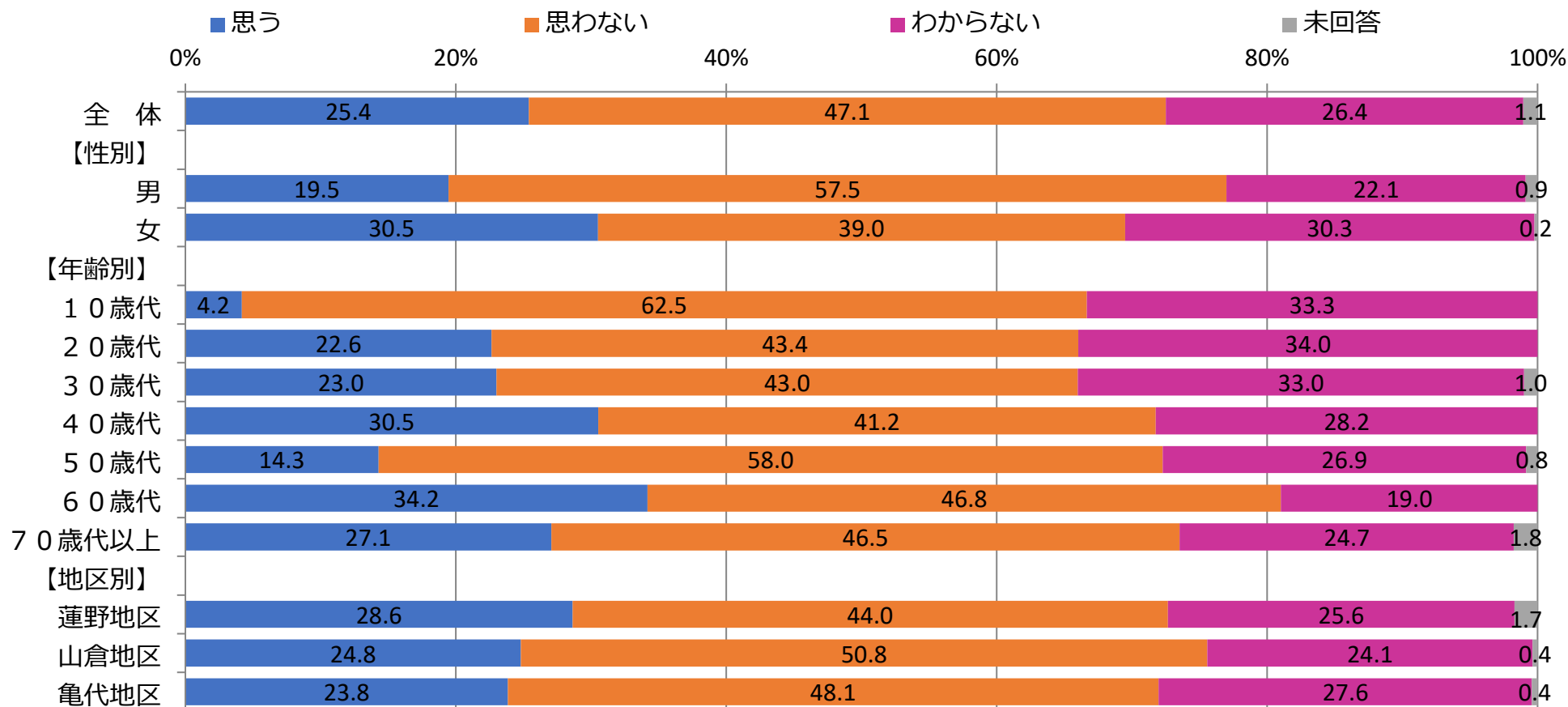
「パート・アルバイト」、「自営業」で女性は男性よりも地位が低いと感じている町民が多い。一方で、「公務員・団体職員」、「会社員」、「農林漁業」は女性は男性よりも地位が低いと感じている町民が少ない。



## 2 クロス集計結果

問9 聖籠町において、女性は男性よりも地位が低い、または立場が弱いと思いますか。  
【目標値（R4 年度末）：基準値(29.1%)より減少させる】

### (参考) 前回調査比較(H26)





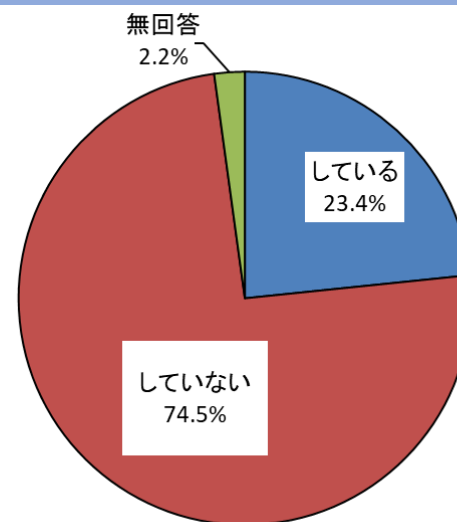
## 2 クロス集計結果

問10 生活をする上で、貧困など様々な課題に直面していますか。

【目標値（R4年度末）：基準値(25.9%)より減少させる】

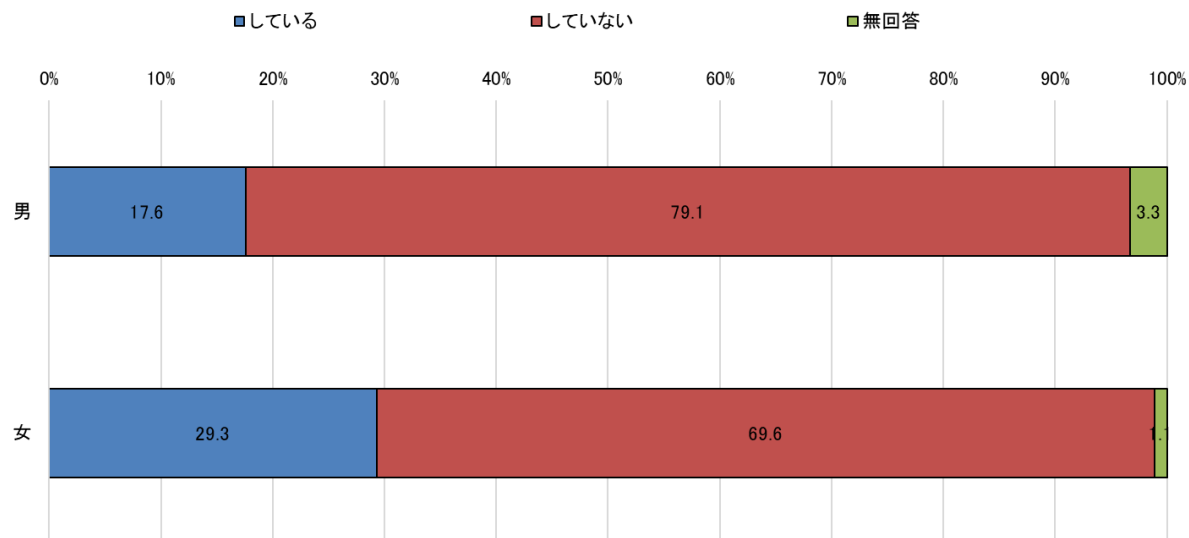
### ① 全 体

「している」が23.4%であり、約4分の1の町民が生活をする上で貧困など様々な課題に直面していることがわかる。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると女性の方が、生活をする上で貧困など様々な課題に直面しており、約3分の1の女性が貧困などの課題に直面していることがわかる。



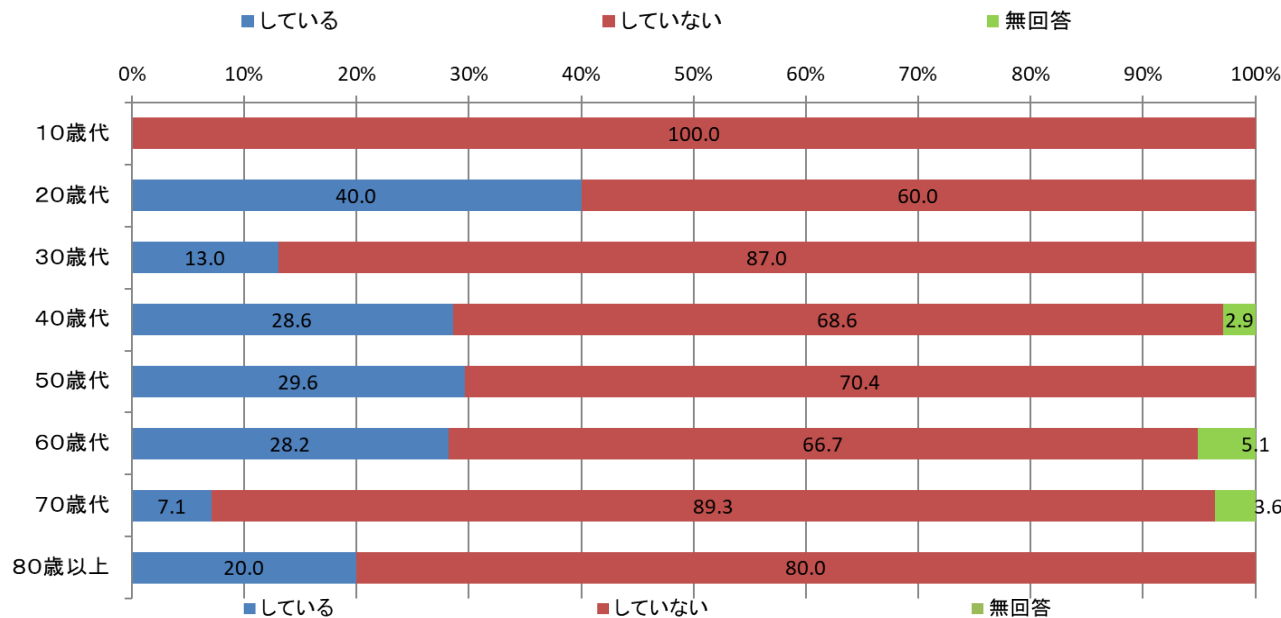
## 2 クロス集計結果

問10 生活をする上で、貧困など様々な課題に直面していますか。

【目標値（R4年度末）：基準値(25.9%)より減少させる】

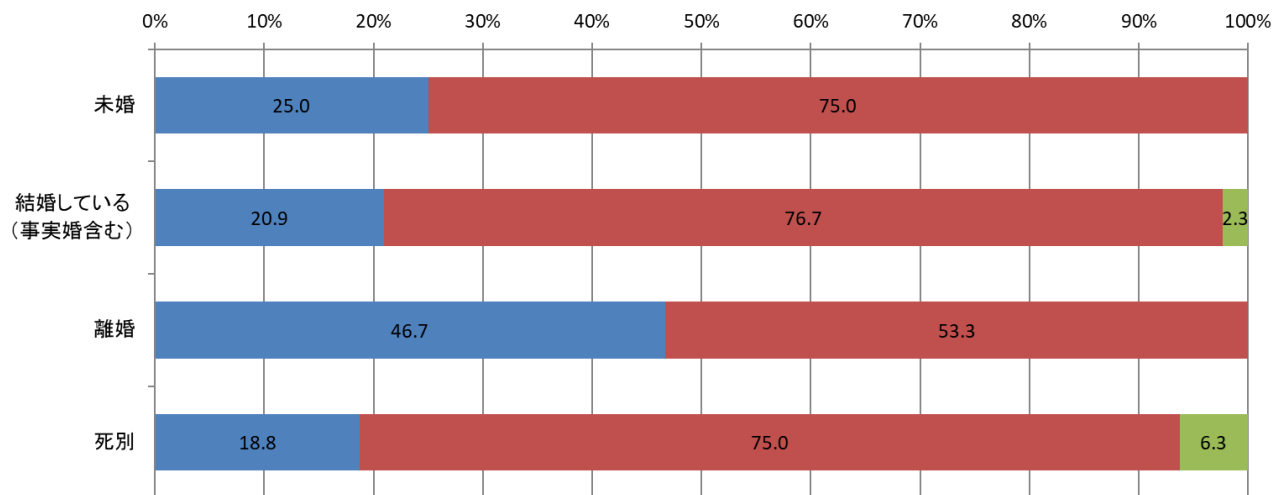
### ③ 年代別

「20歳代」がもっとも生活をする上で貧困など様々な課題に直面しており、「40歳代」～「60歳代」では約3分の1が貧困など様々な課題に直面している。



### ④ 婚姻状況別

「離婚」がもっとも生活をする上で貧困など様々な課題に直面している。  
「未婚」「結婚している（事実婚を含む）」、「死別」が同程度の割合となっている。



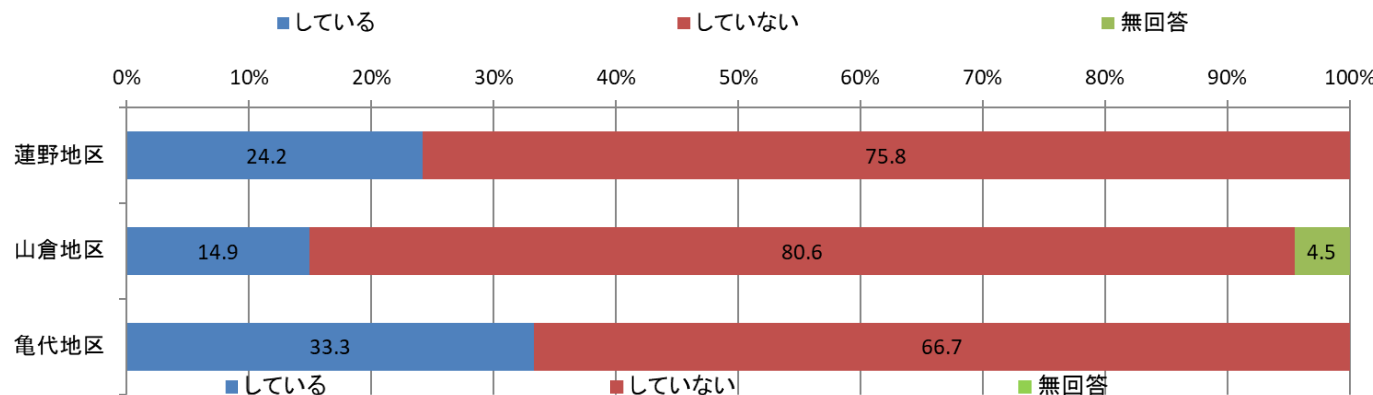
## 2 クロス集計結果

問10 生活をする上で、貧困など様々な課題に直面していますか。

【目標値（R4年度末）：基準値(25.9%)より減少させる】

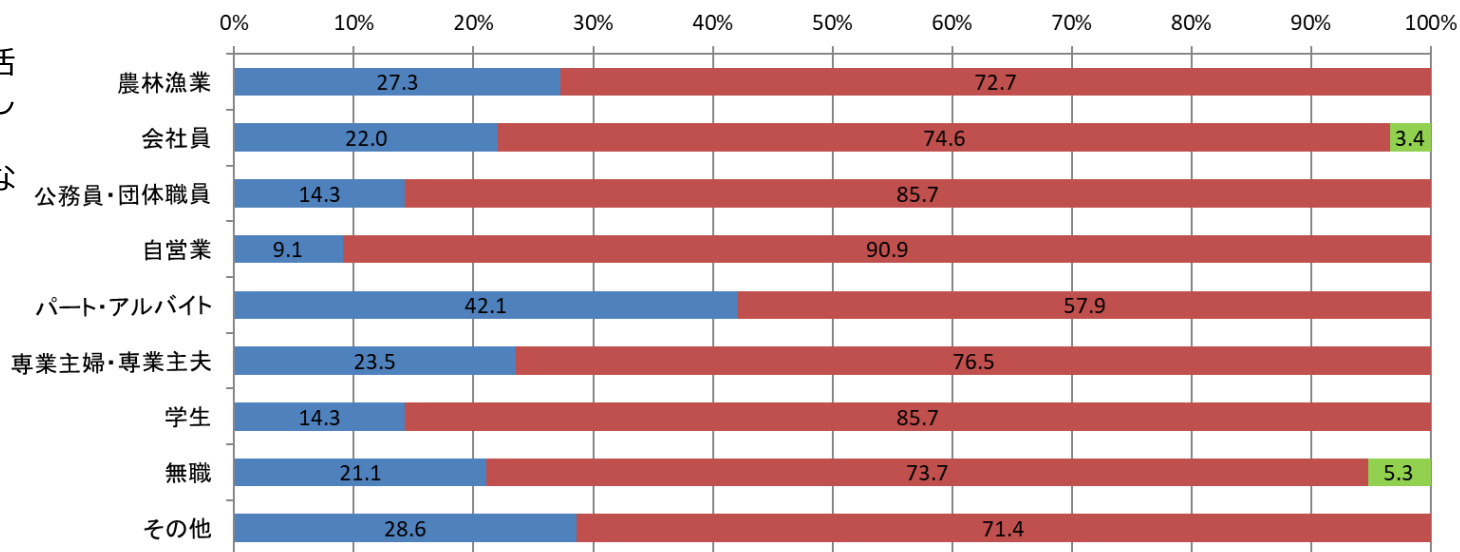
### ⑤ 地区別

「亀代地区」で生活をする上で貧困など様々な課題に直面している町民が多い。一方で、「山倉地区」はもっとも貧困など様々な課題に直面している町民が少ない。



### ⑥ 職業別

「パート・アルバイト」がもっとも生活をする上で貧困など様々な課題に直面している町民が多い。次いで、「農林漁業」が貧困など様々な課題に直面しているが多くなっている。

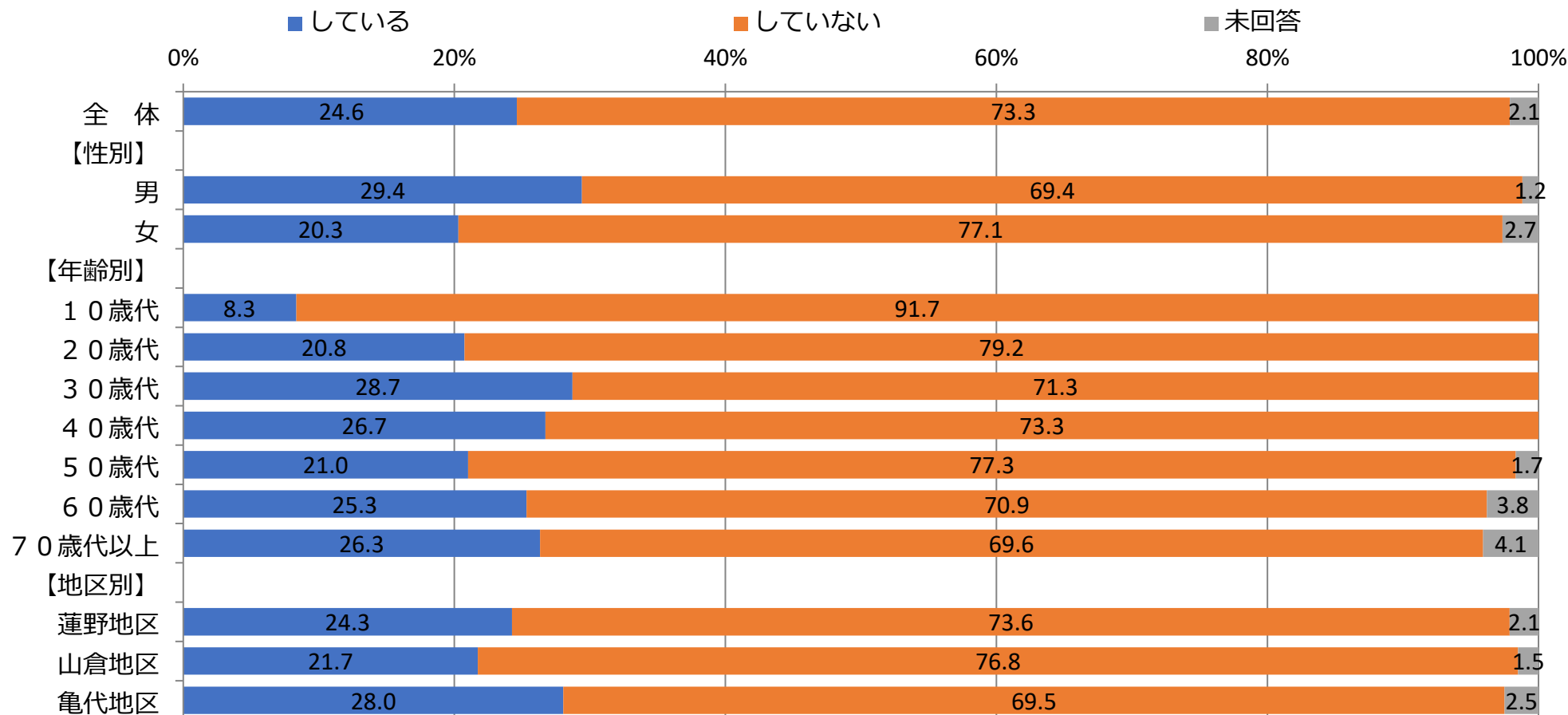


## 2 クロス集計結果

問10 生活をする上で、貧困など様々な課題に直面していますか。

【目標値（R4年度末）：基準値(25.9%)より減少させる】

### （参考）前回調査比較(H26)

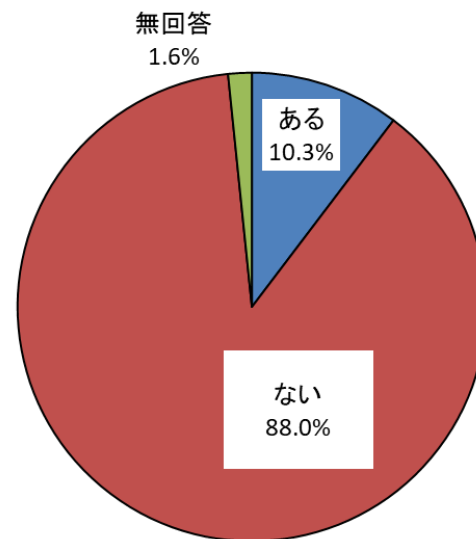


## 2 クロス集計結果

問11 配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃(H26実施時:暴力)を受けたことがありますか。

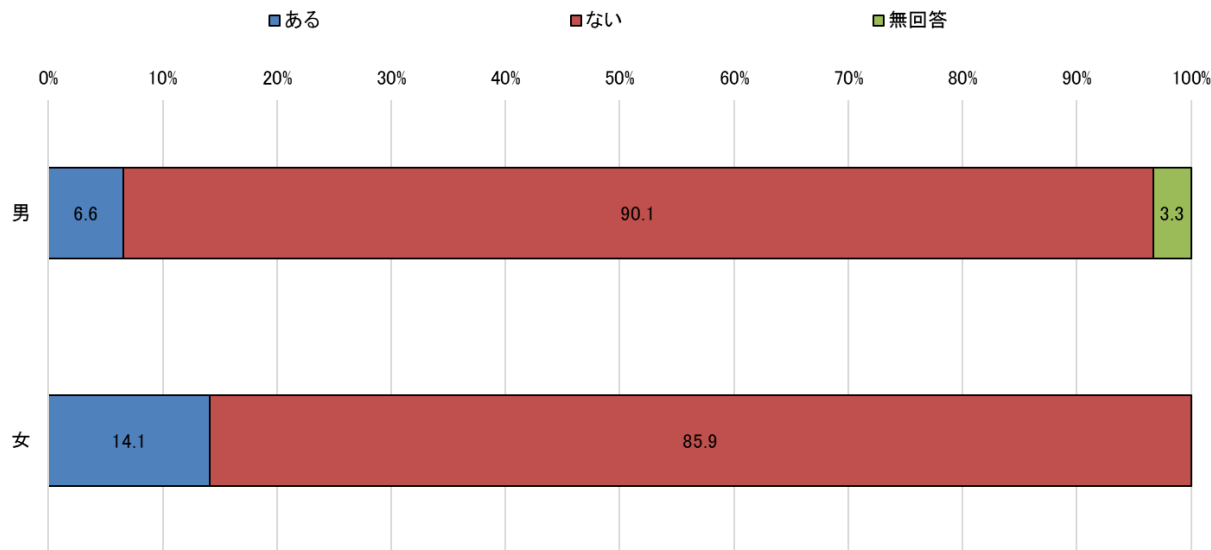
### ① 全 体

「ある」が10.1%であり、10人に1人の町民が配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃を受けたことがあることがわかる。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると女性の方が、配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃を受けている割合が多いことがわかる。しかし、男性も6.6%の町民が攻撃を受けたことがあることがわかる。

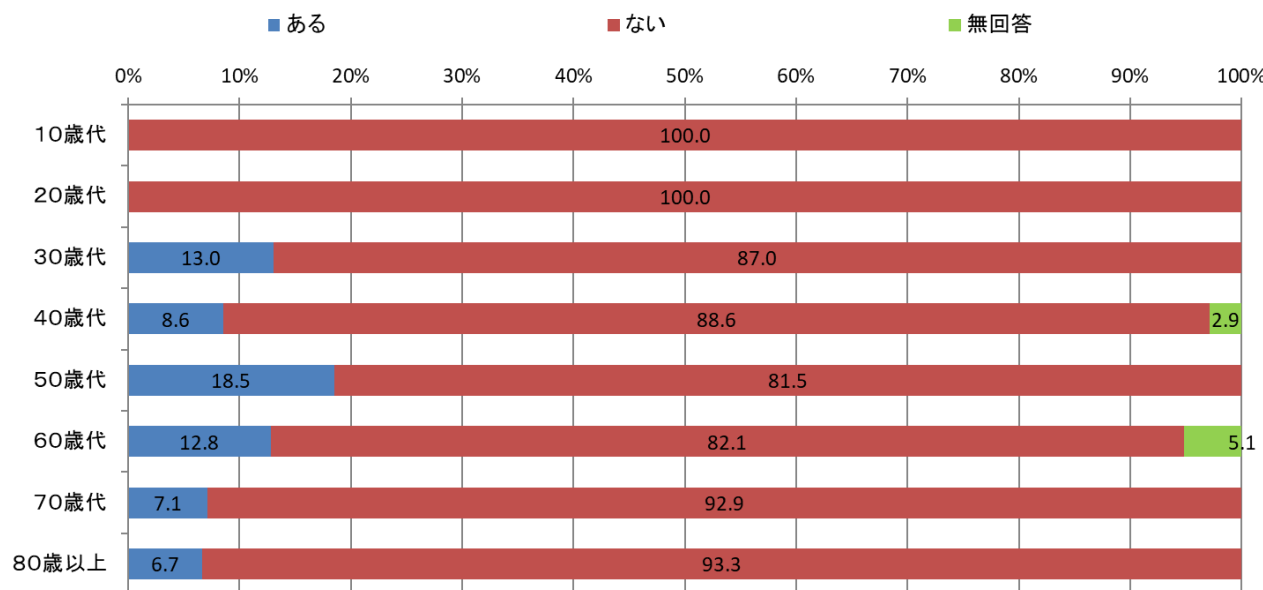


## 2 クロス集計結果

問11 配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃(H26実施時:暴力)を受けたことがありますか。

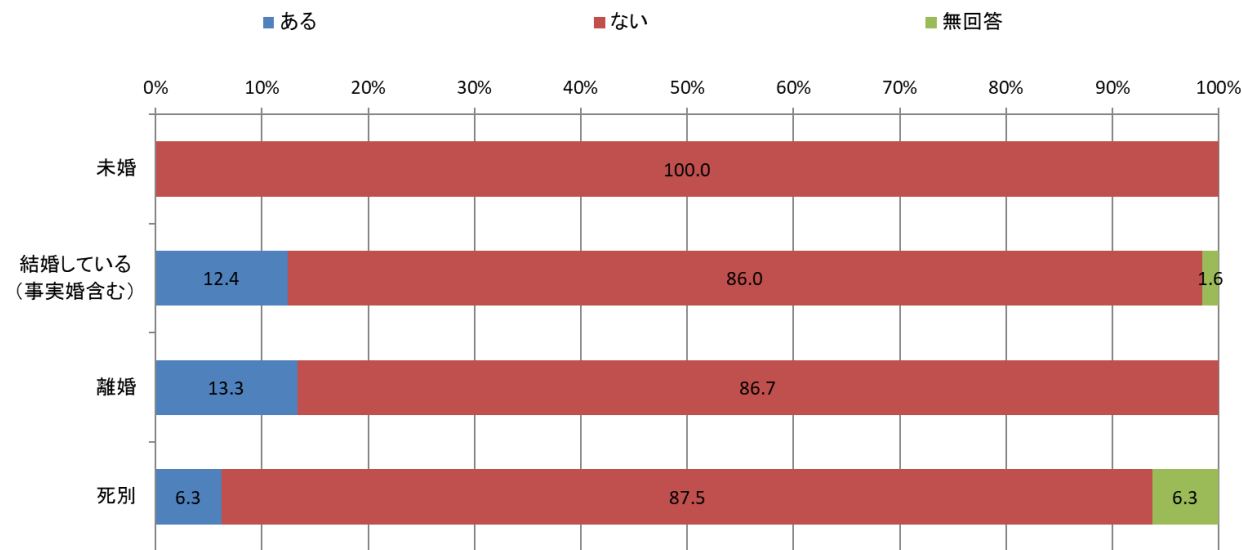
### ③ 年代別

「50歳代」がもっとも配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃を受けた割合が多くなっている。  
しかし、「70歳代」～「80歳以上」の高齢世代の町民は割合が低くなっている。



### ④ 婚姻状況別

「離婚」がもっとも配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃を受けた割合が多くなっている。  
ついで、「結婚している（事実婚を含む）」が攻撃を受けた割合が多くなっている。

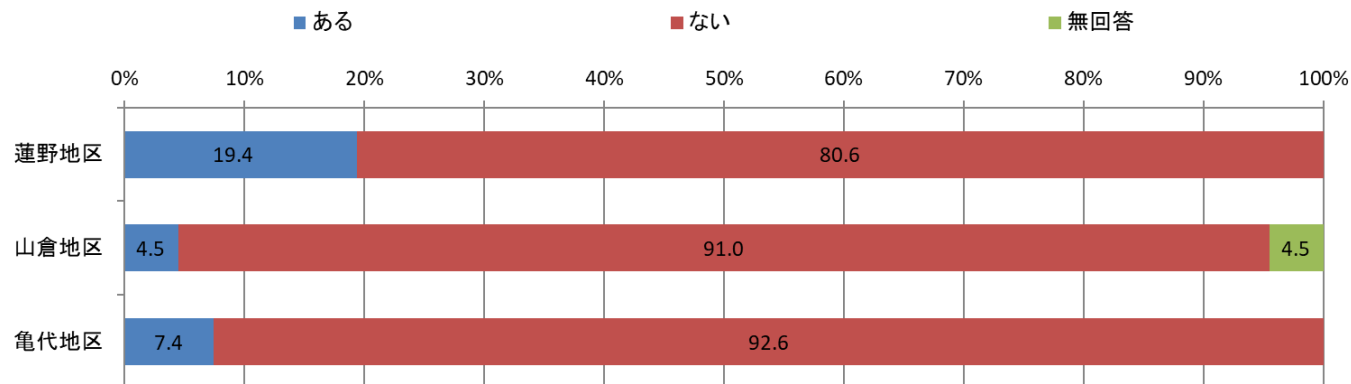


## 2 クロス集計結果

問11 配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃(H26実施時:暴力)を受けたことがありますか。

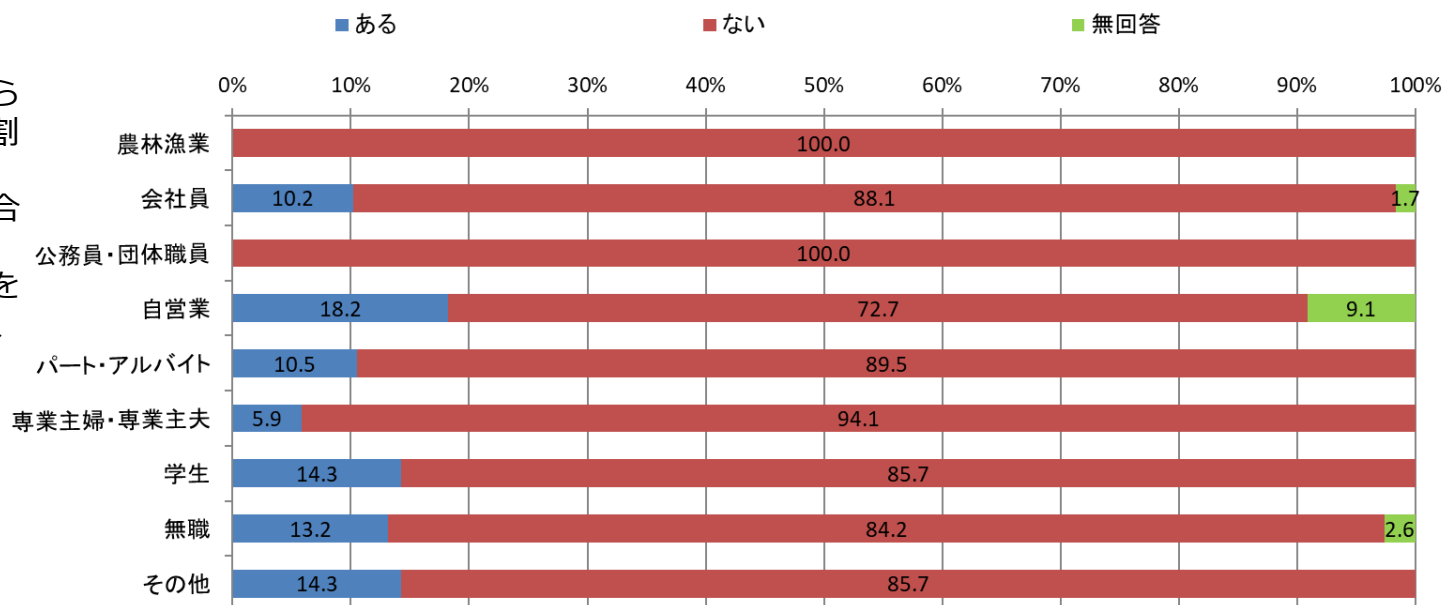
### ⑤ 地区別

「蓮野地区」で配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃を受けた割合が突出して高くなっている。  
一方で、「山倉地区」はもっとも攻撃を受けた割合が低くなっている。



### ⑥ 職業別

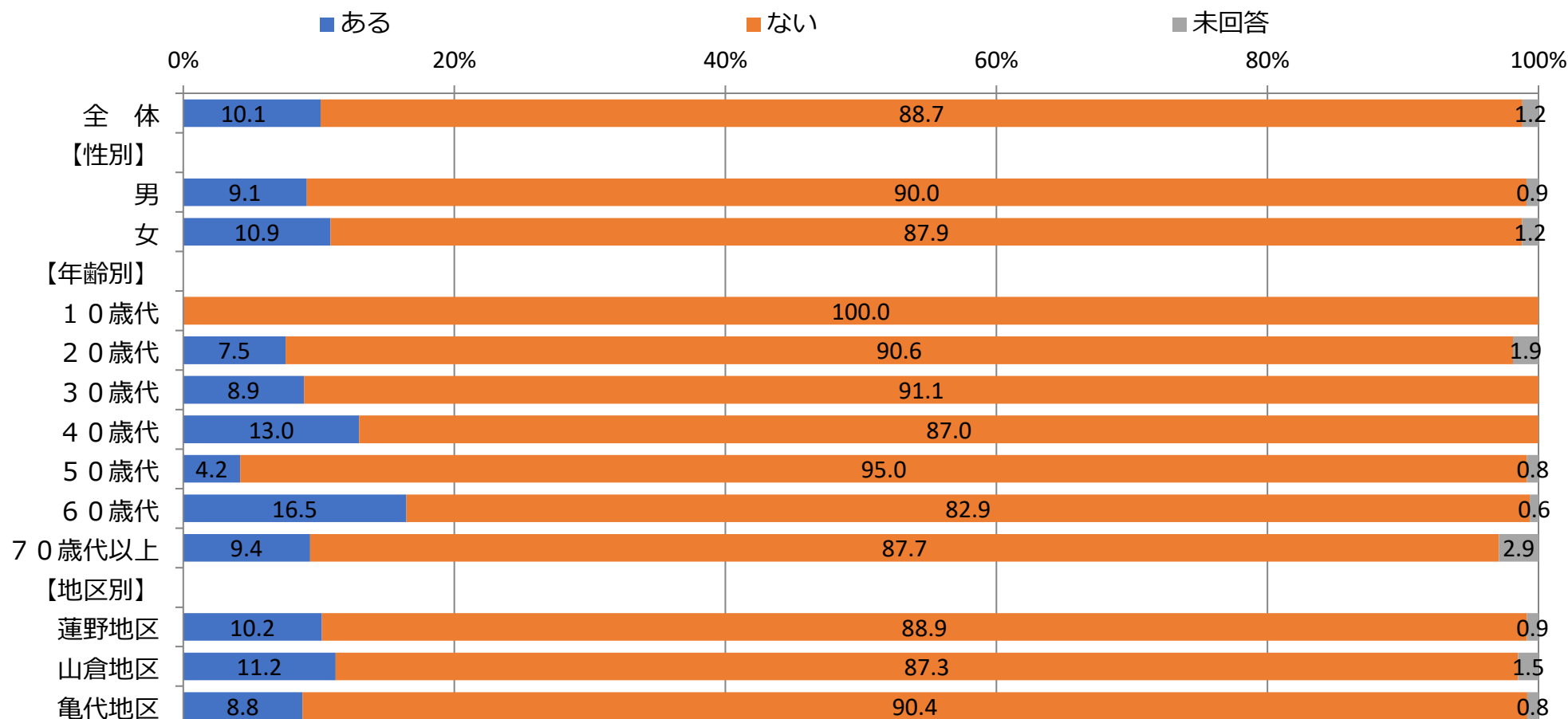
「自営業」がもっとも配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃を受けた割合が突出して高くなっている。  
次いで、「学生」でも攻撃を受けた割合が多いことがわかる。  
一方で、「公務員・団体職員」で攻撃を受けた町民の割合は0%と限りなく低くなっている。



## 2 クロス集計結果

問11 配偶者や恋人から身体的、または精神的な攻撃(H26実施時:暴力)を受けたことがありますか。

### (参考) 前回調査比較(H26)



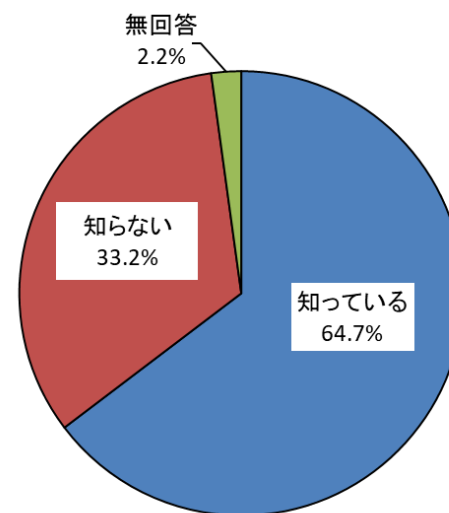


## 2 クロス集計結果

問12 配偶者や恋人から暴力を受けた場合、相談のための窓口があることを知っていますか。  
【目標値（R4年度末）：基準値(49.4%)より増加させる】

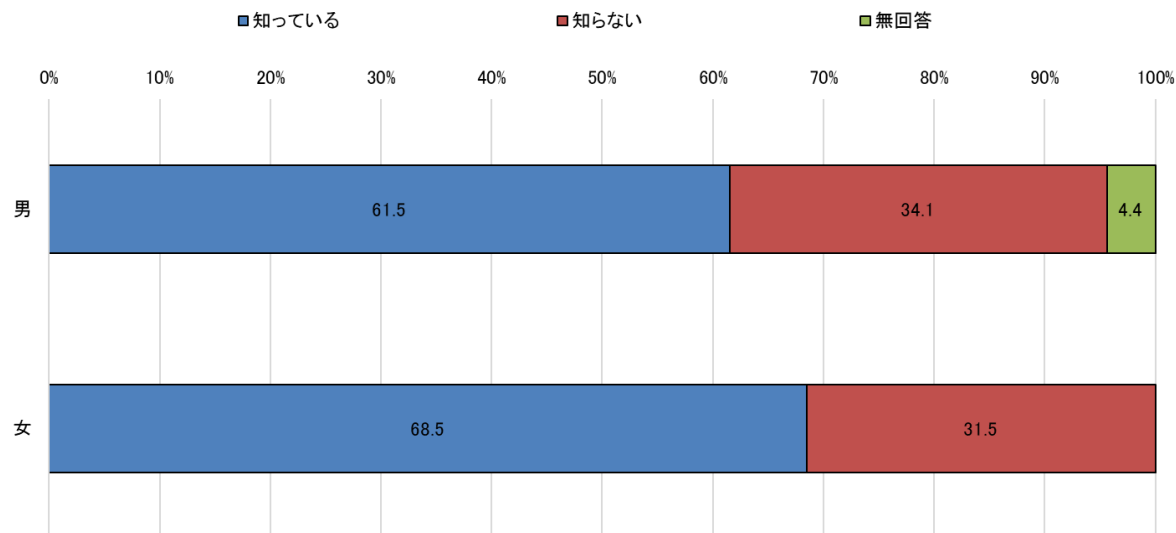
### ① 全 体

「知っている」が64.7%であり、前回調査時（R元）の43.6%と比較すると20.6%の増となっている。  
一方で、「知らない」が33.2%で3割を超えていることがわかる。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると大きな差はないものの、男性の方が相談のための窓口があることを知っている割合はわずかに低くなっている。

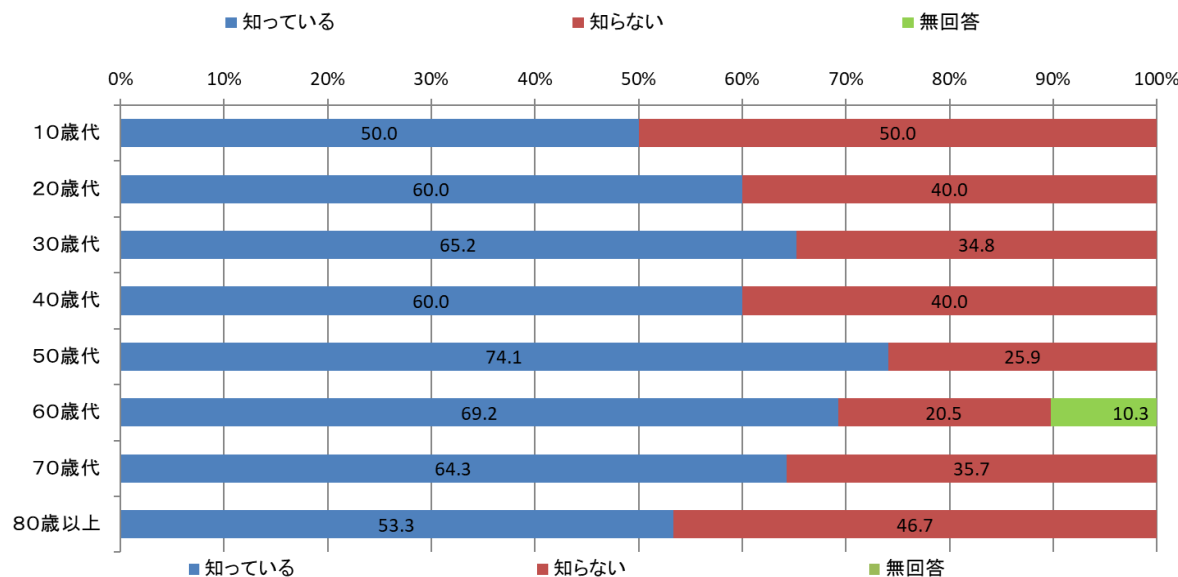


## 2 クロス集計結果

問12 配偶者や恋人から暴力を受けた場合、相談のための窓口があることを知っていますか。  
【目標値（R4年度末）：基準値(49.4%)より増加させる】

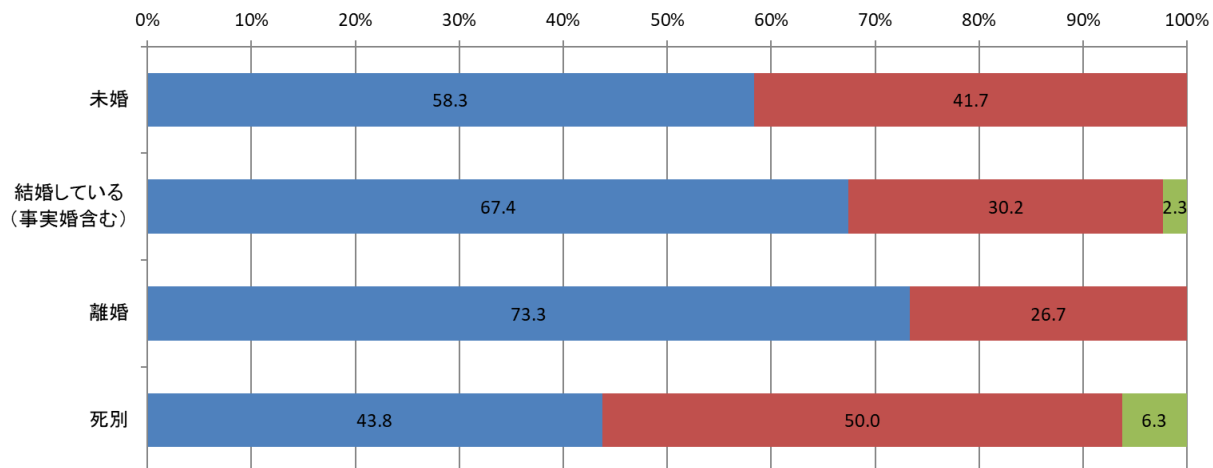
### ③ 年代別

「10歳代」がもっとも相談窓口があることを知っている割合が低くなっており、次いで「80歳代以上」の割合が低くなっている。一方で、「50歳代」は相談窓口があることを知っている割合がもっとも高くなっている。



### ④ 婚姻状況別

「離婚」がもっとも相談窓口があることを知っている割合が高くなっている。一方で、「死別」がもっとも相談窓口があることを知っている割合が低くなっている。

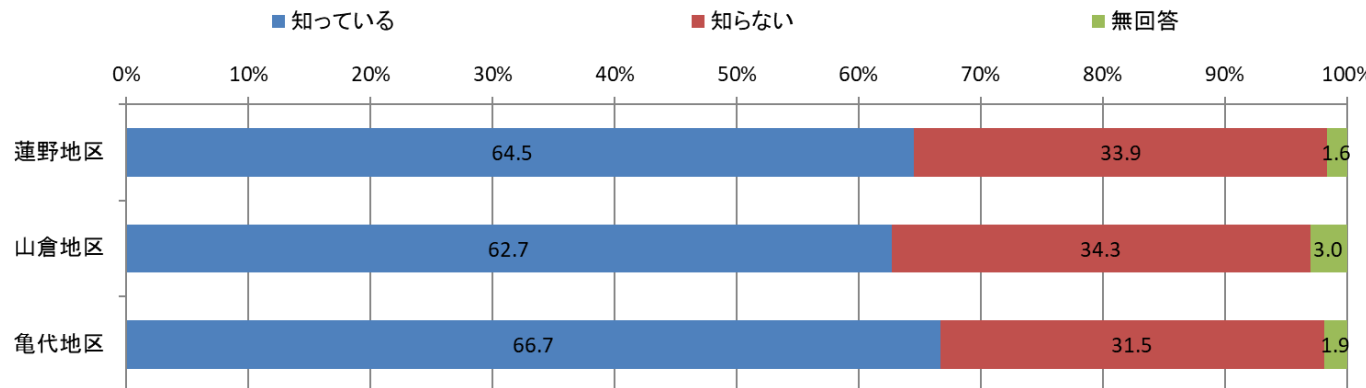


## 2 クロス集計結果

問12 配偶者や恋人から暴力を受けた場合、相談のための窓口があることを知っていますか。  
【目標値（R4年度末）：基準値(49.4%)より増加させる】

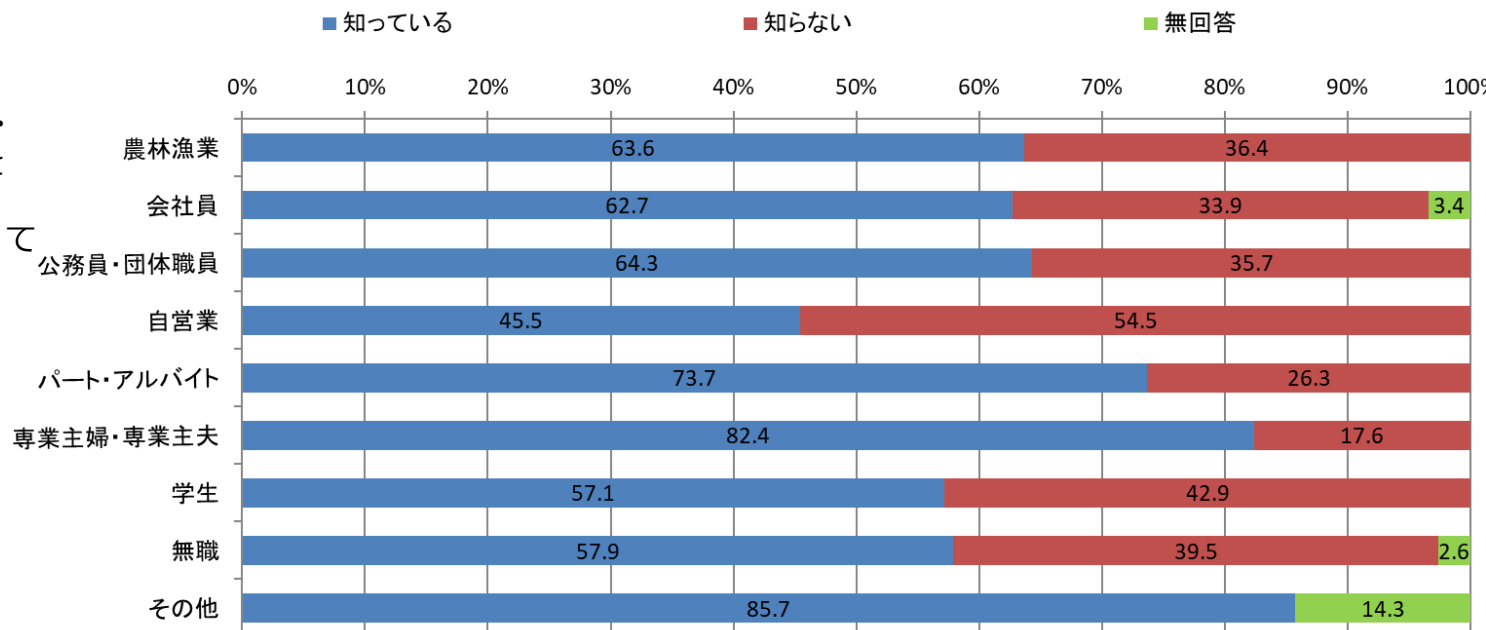
### ⑤ 地区別

「蓮野地区」、「山倉地区」、「亀代地区」で相談窓口があることを知っている割合の違いはあまりないことがわかる。



### ⑥ 職業別

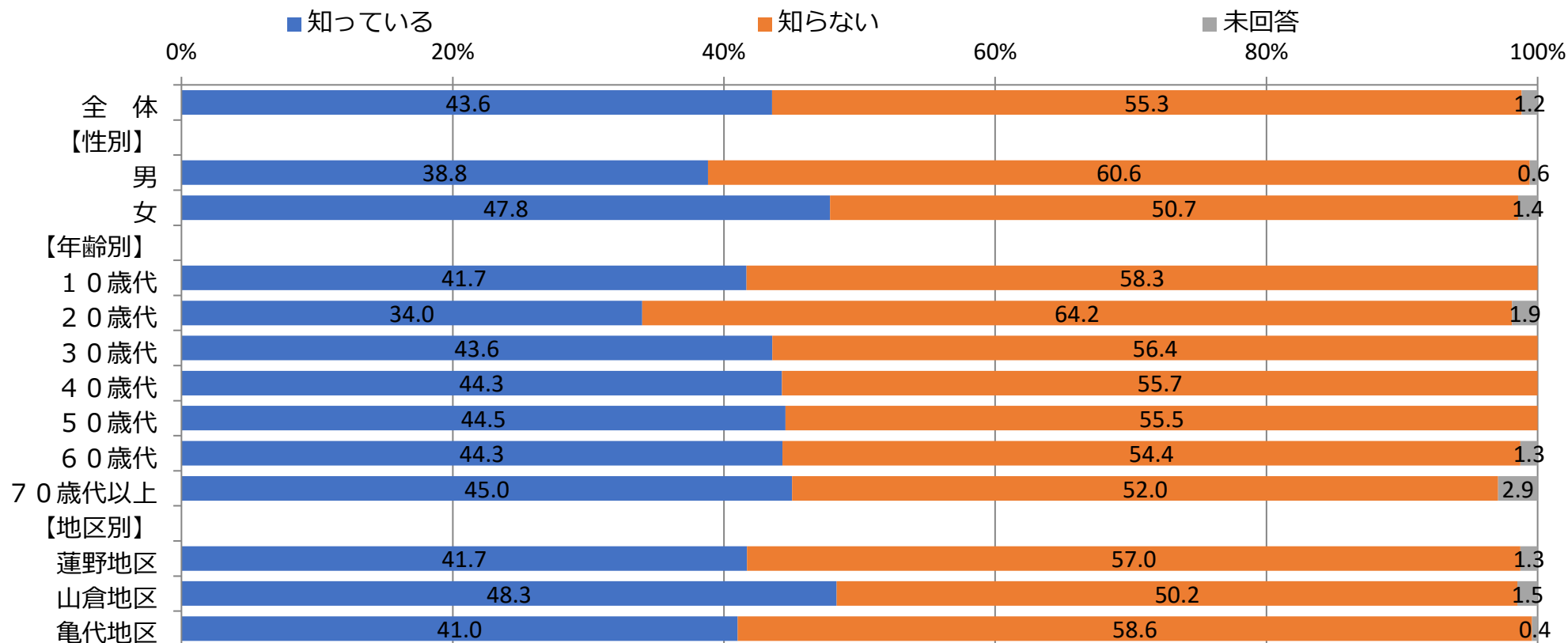
「専業主婦・専業主夫」、「パート・アルバイト」が相談窓口があることを知っている割合が高くなっている。一方で、「自営業」の相談窓口を知っている割合は低くなっている。



## 2 クロス集計結果

問12 配偶者や恋人から暴力を受けた場合、相談のための窓口があることを知っていますか。  
【目標値（R4年度末）：基準値(49.4%)より増加させる】

### （参考）前回調査比較(H26)

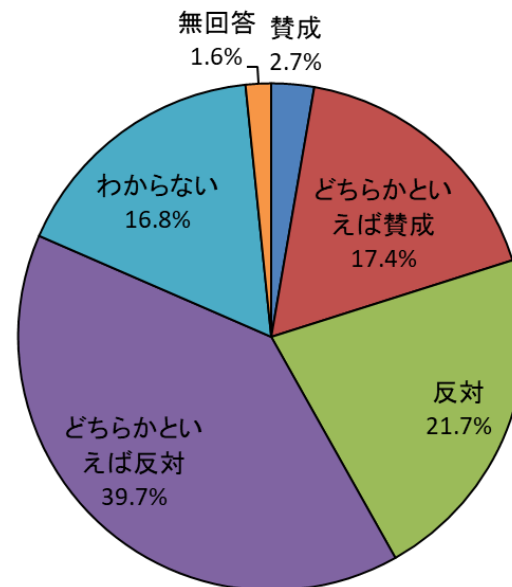


## 2 クロス集計結果

問13 あなたは、「男(夫)は仕事、女(妻)は家庭」という考え方について、賛成ですか、反対ですか。

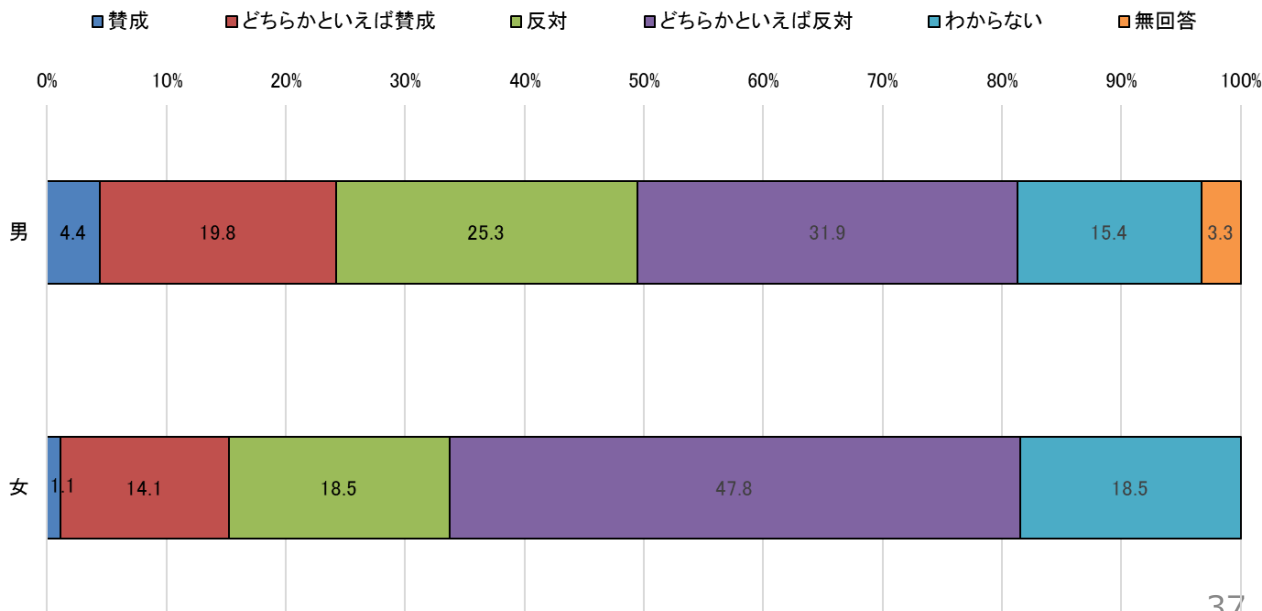
### ① 全 体

「反対」、「どちらかといえば反対」の『反対層』が約50%である。  
一方で、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の『賛成層』は約20%となっており、5人に1人は「男(夫)は仕事、女(妻)は家庭」という考え方に賛成という結果になっている。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると女性は『反対層』が約65%であるが、男性は約55%となっている。また、『賛成層』は女性は約15%となっているが、男性は約25%となっている。よって、男女間で「男(夫)は仕事、女(妻)は家庭」という考え方に対して意識の違いがあることがわかる。

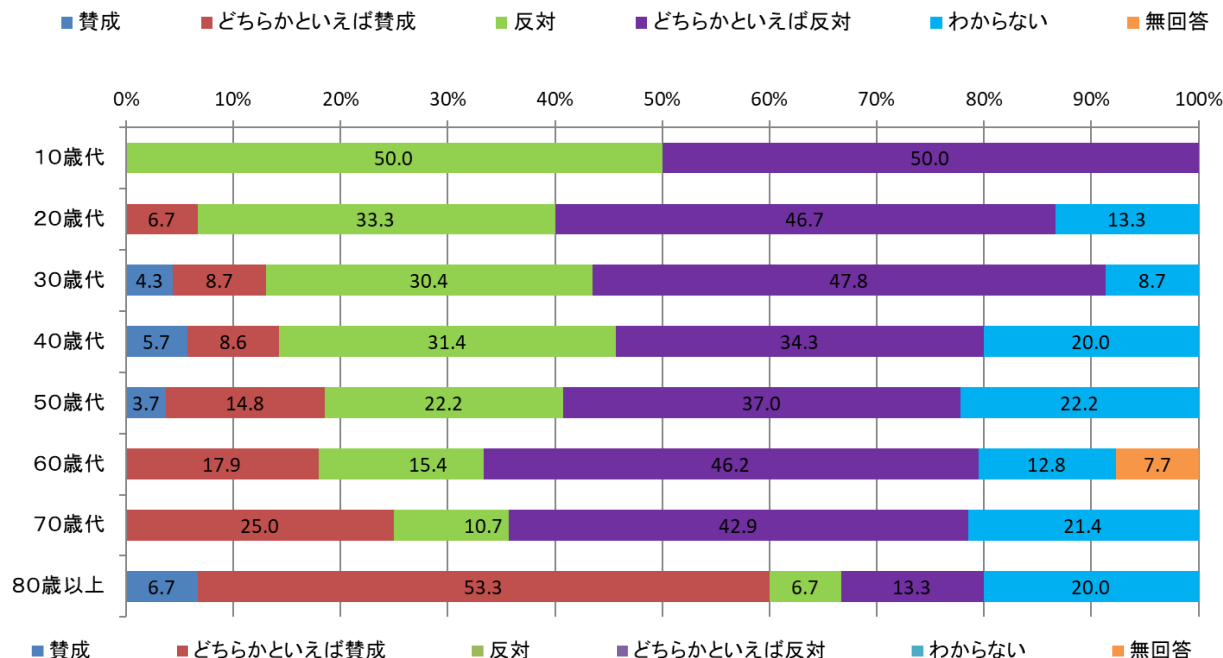


## 2 クロス集計結果

問13 あなたは、「男(夫)は仕事、女(妻)は家庭」という考え方について、賛成ですか、反対ですか。

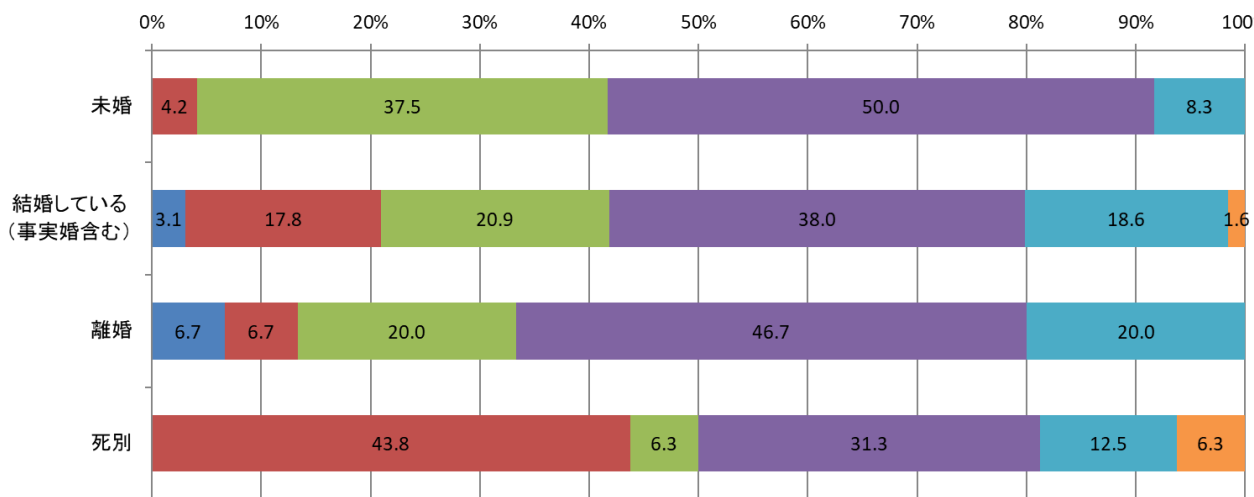
### ③ 年代別

「20歳代」から「80歳以上」にかけて徐々に『賛成層』の割合が高くなっていることや『反対層』の割合が徐々に低くなっていることから年代層が高くなるにつれて「男(夫)は仕事、女(妻)は家庭」という考え方に賛成という町民が多くなっていることがわかる。



### ④ 婚姻状況別

「死別」、「結婚している（事実婚を含む）」で『賛成層』の割合が高い傾向がある。一方で、「未婚」、「離婚」で『賛成層』の割合が低い傾向がある。

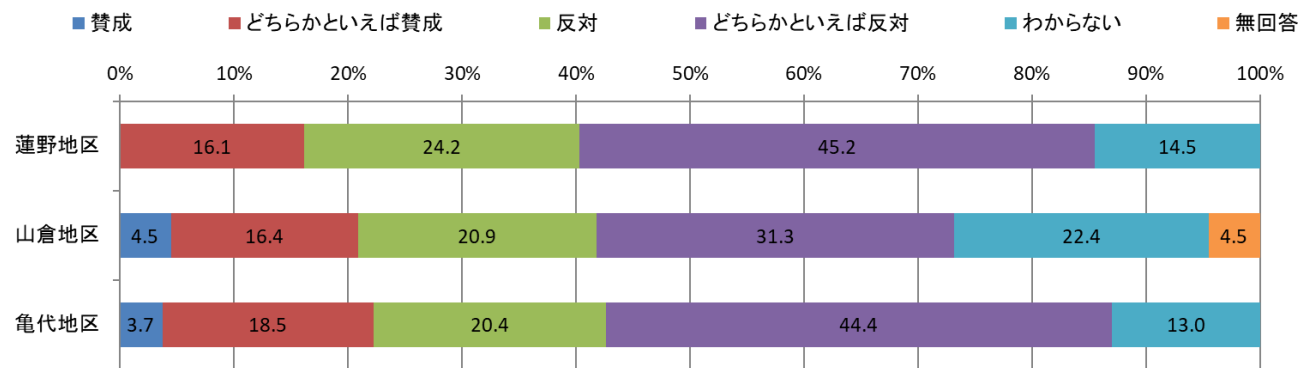


## 2 クロス集計結果

問13 あなたは、「男(夫)は仕事、女(妻)は家庭」という考え方について、賛成ですか、反対ですか。

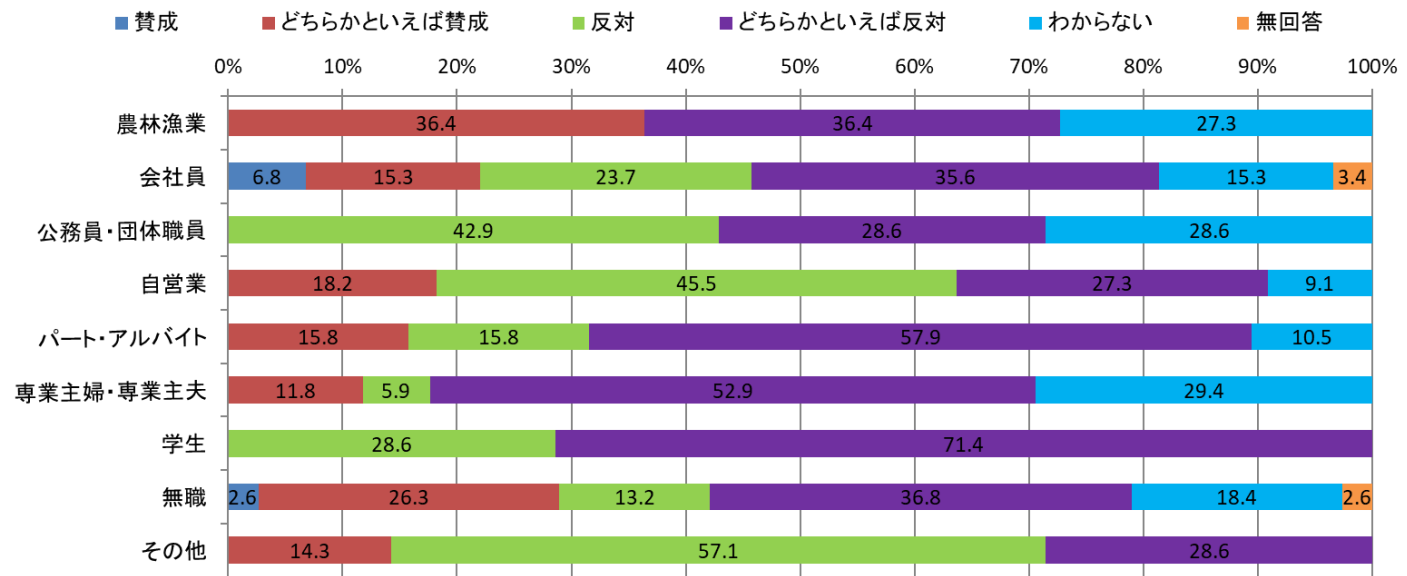
### ⑤ 地区別

「山倉地区」、「亀代地区」で「蓮野地区」と比較するとわずかではあるが『賛成層』の割合が高くなっている。



### ⑥ 職業別

「農林漁業」、「無職」で『賛成層』の割合が高くなっている。  
一方で、「学生」、「公務員・団体職員」で『反対層』の割合が高くなっており、『賛成層』が0%となっている。



問13 あなたは、「男(夫)は仕事、女(妻)は家庭」という考え方について、賛成ですか、反対ですか。

(参考) 前回調査比較(R元)

**新規の設問のため、前回データ無し**

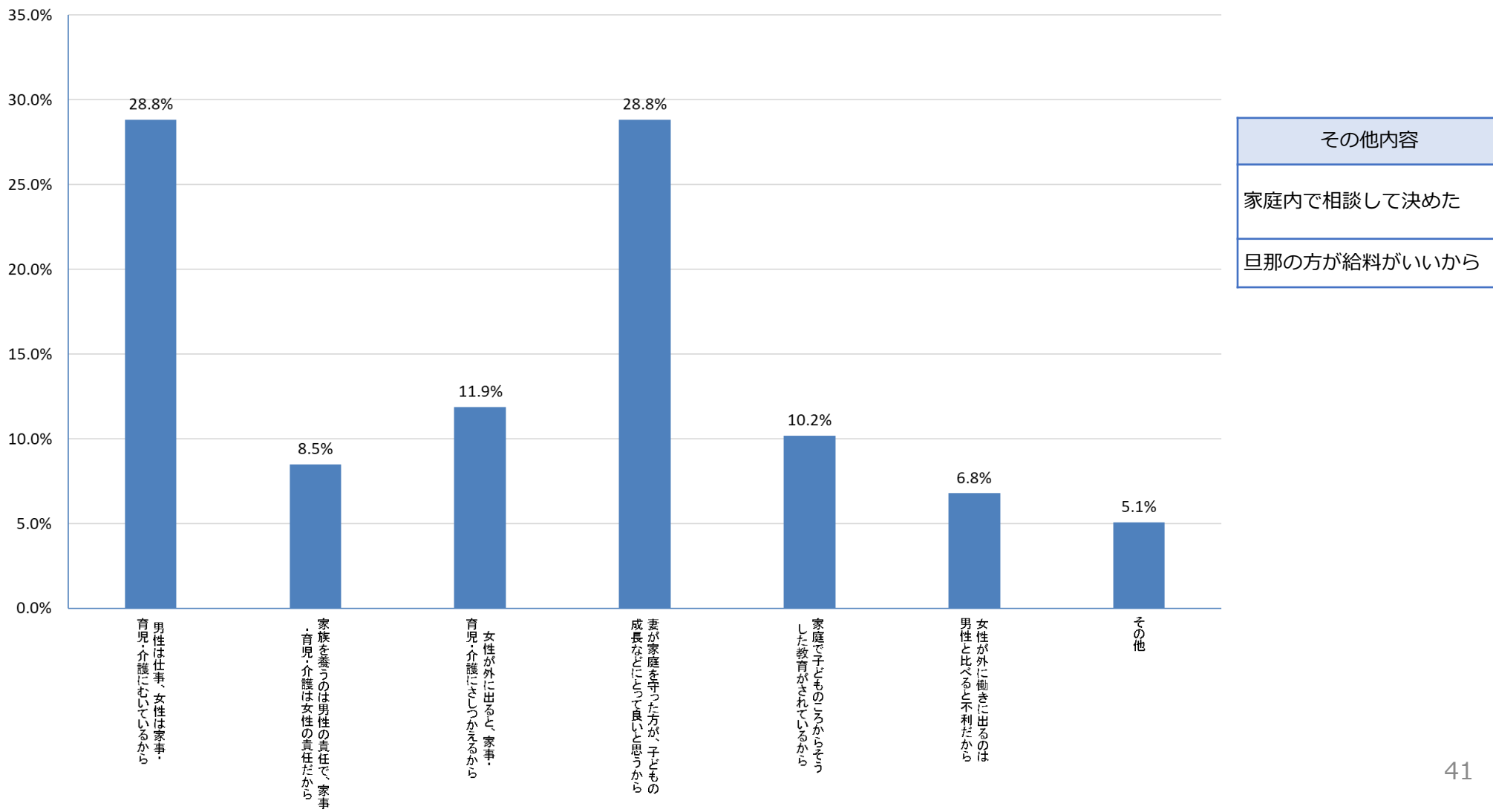


## 2 クロス集計結果

問13-1 <問13で1、2を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ① 全 体

「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから」、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が最も多く28.8%で、次いで「女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしつかえるから」が多くなっている。

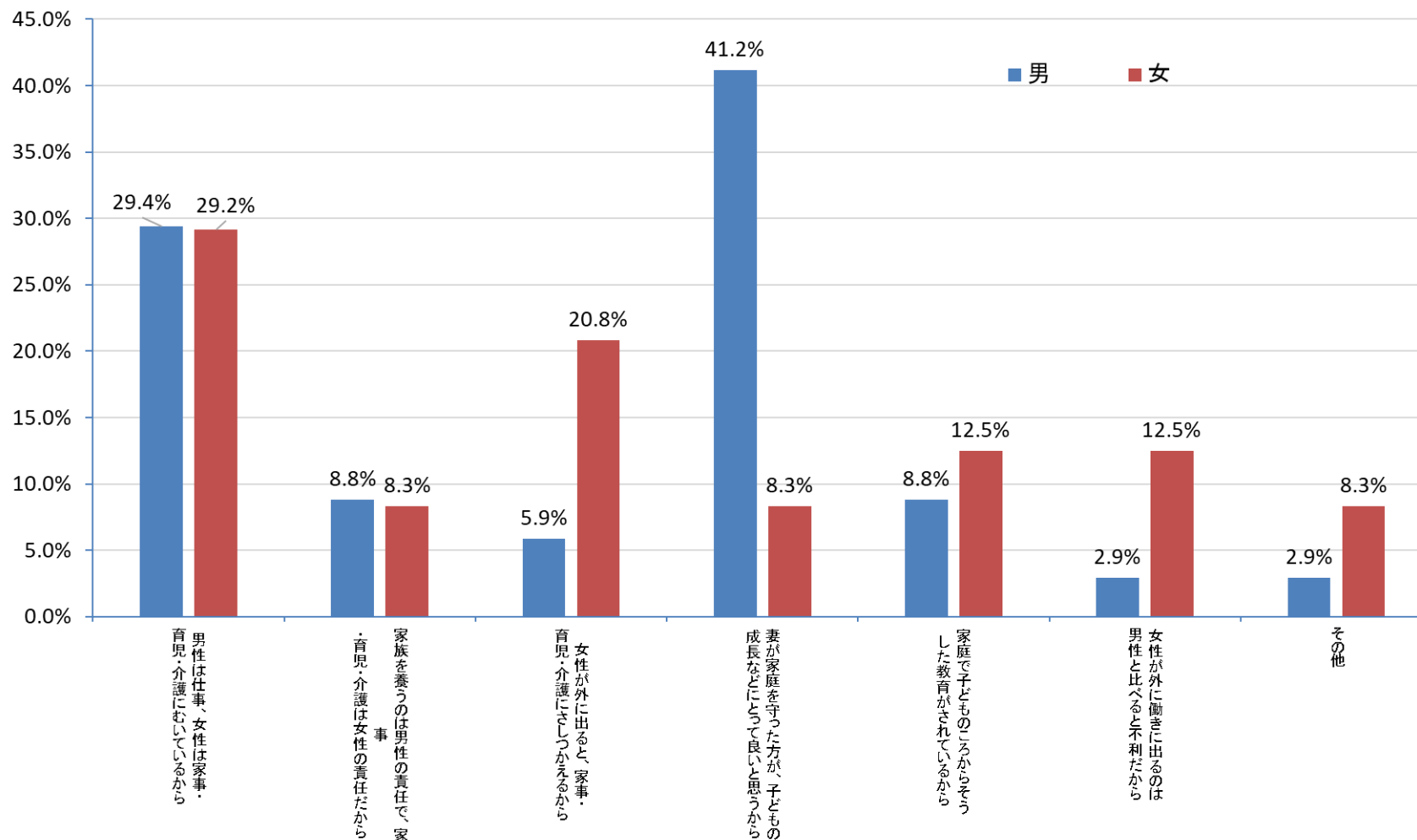


## 2 クロス集計結果

問13-1 <問13で1、2を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ② 性別

男性と女性を比較すると「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」で男女の割合の差が突出して大きくなっており、男女間の意識の違いが大きいことがわかる。「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから」も割合が高くなっているが、男女の男女の割合の差は少なくなっている。

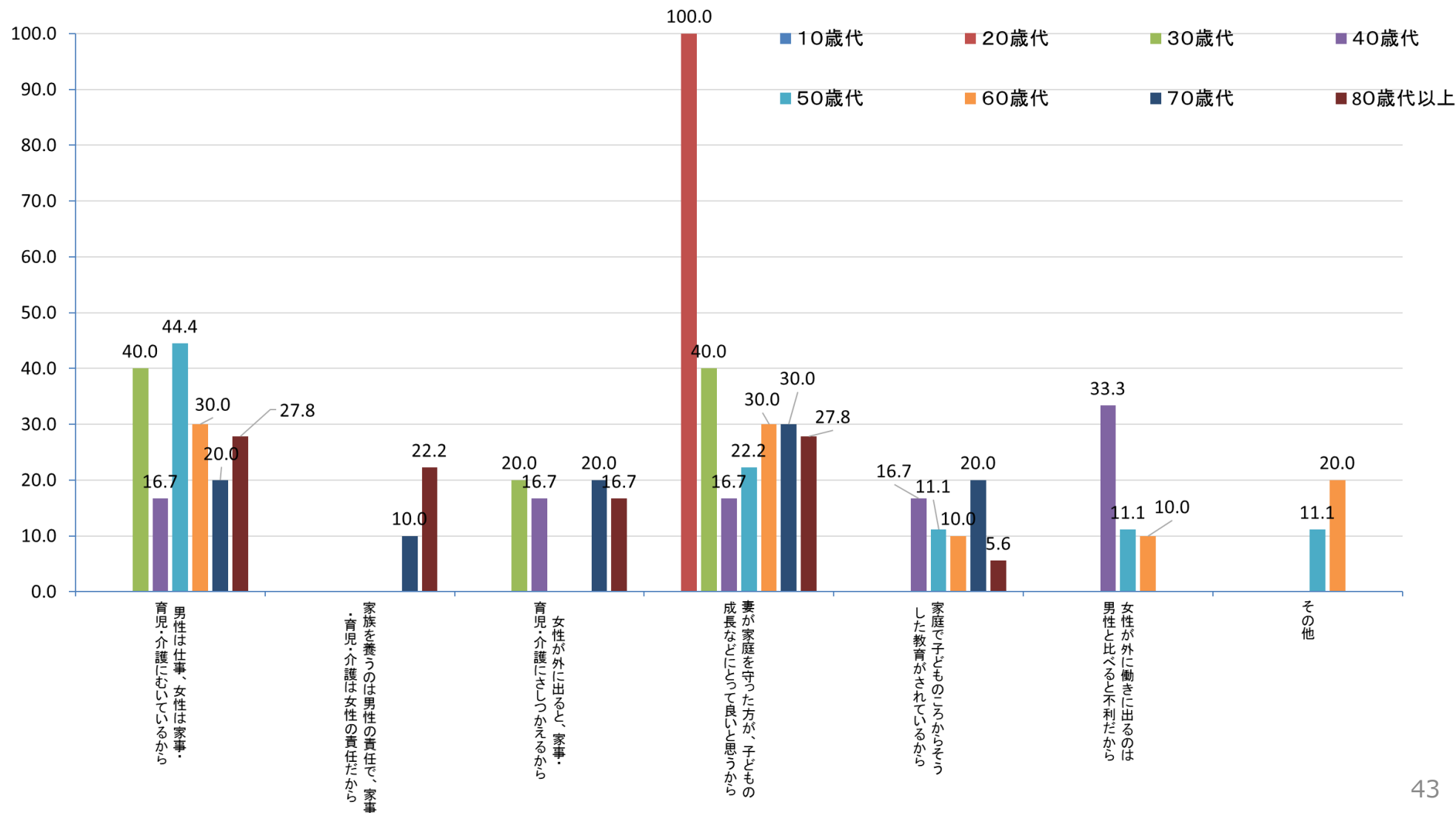


## 2 クロス集計結果

問13-1 <問13で1、2を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ③ 年代別

「20歳代」で「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が突出して高くなっている。また、「30歳代」、「50歳代」で「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから」が高くなっている。

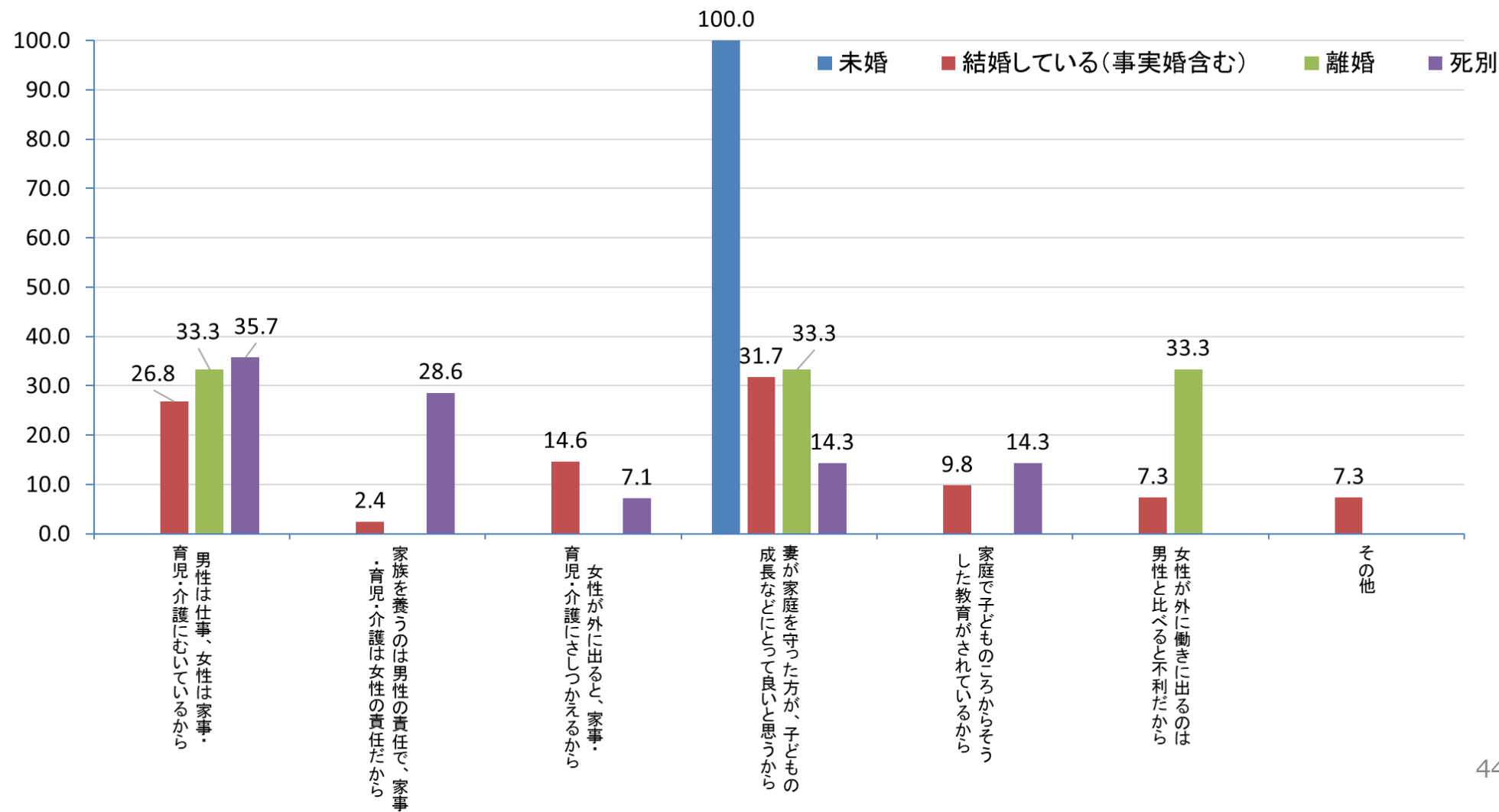


## 2 クロス集計結果

問13-1 <問13で1、2を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ④ 婚姻状況

「未婚」で「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が突出して高くなっている。  
また、「結婚している（事実婚含む）」、「離婚」、「死別」で平均して「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから」が高くなっている。

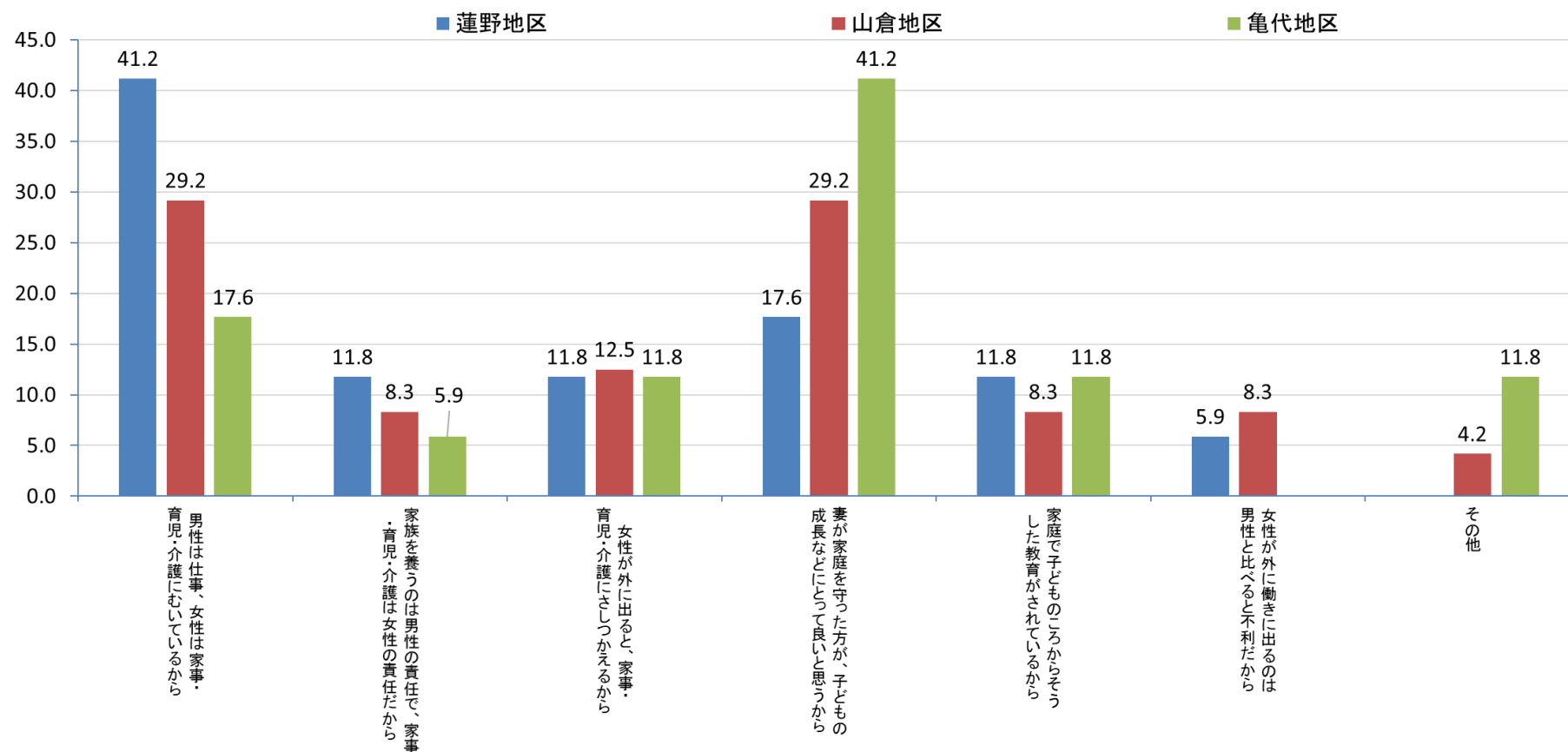


## 2 クロス集計結果

問13-1 <問13で1、2を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ⑤ 地区別

「蓮野地区」は「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから」が高くなっており、「亀代地区」では「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が高くなっている。

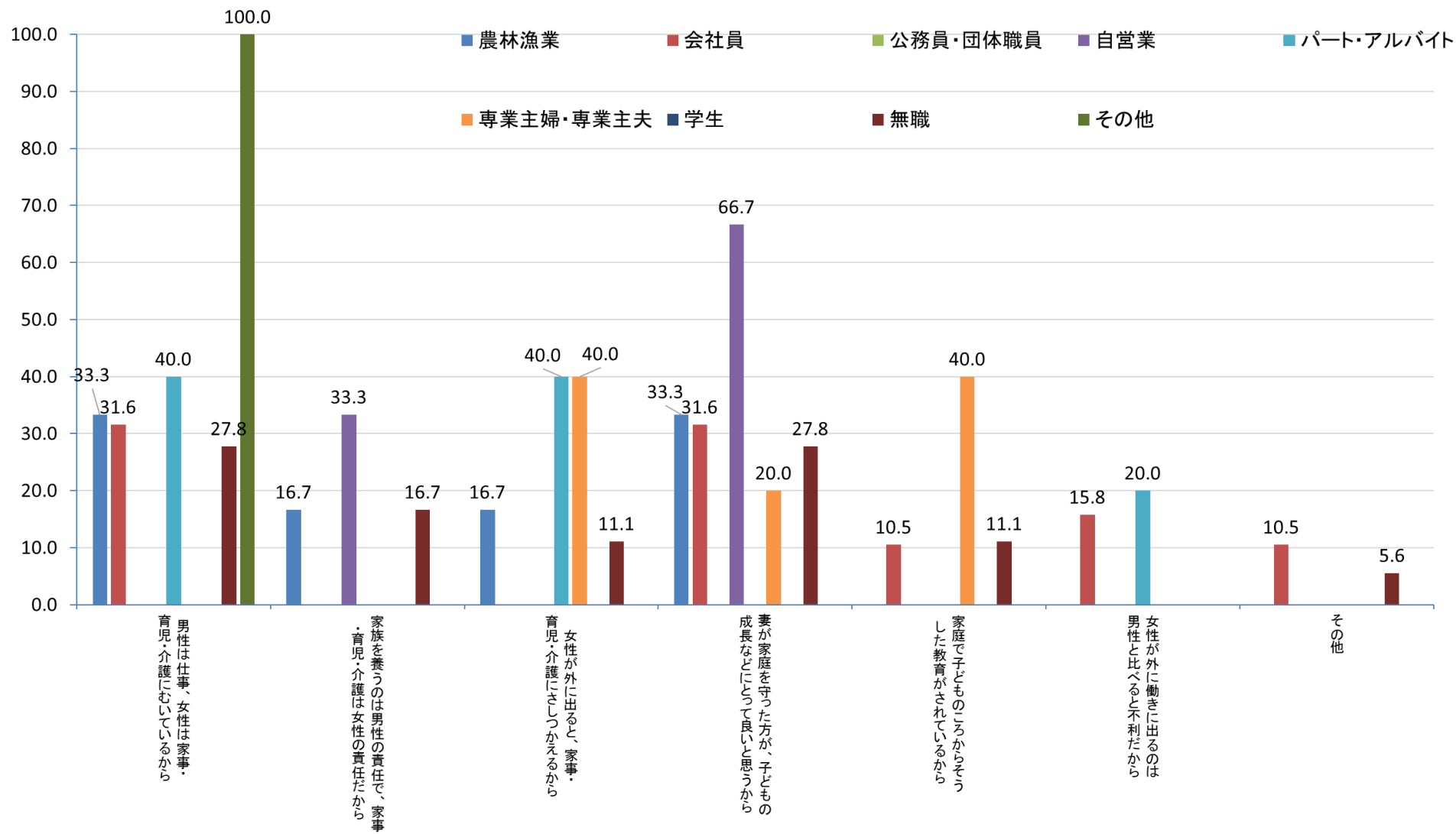


## 2 クロス集計結果

問13-1 <問13で1、2を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ⑥ 職業別

「自営業」で「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が高くなっており、「パート・アルバイト」、「専業主婦・専業主夫」で「女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしつかえるから」が高くなっている。



問13-1 <問13で1、2を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中からお選びください。

**(参考) 前回調査比較(R元)**

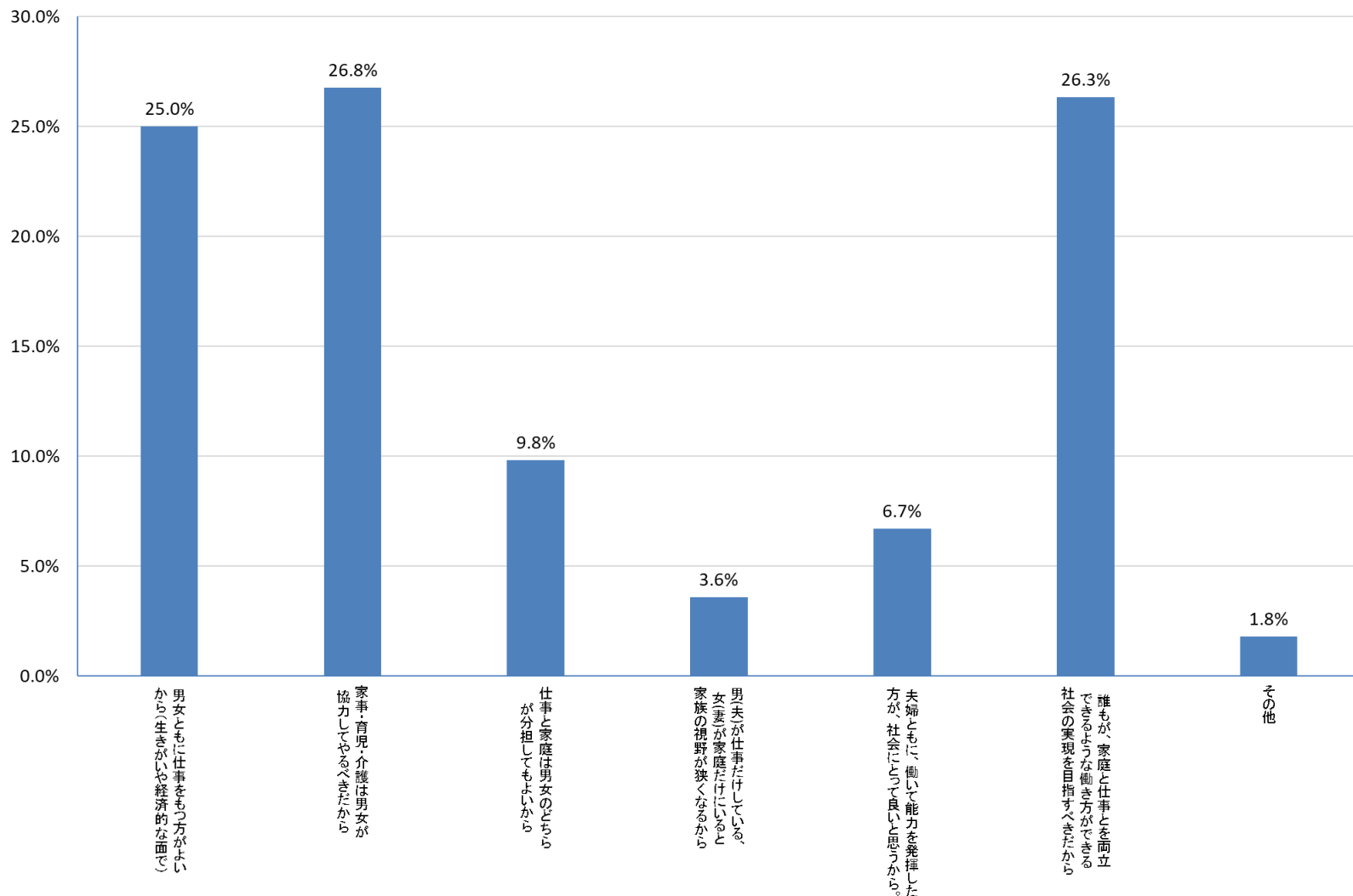
**新規の設問のため、前回データ無し**

## 2 クロス集計結果

問13-2 <問13で3、4を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中からお選びください。

### ① 全 体

「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」、「誰もが、家庭と仕事とを両立できるような働き方ができる社会の実現を目指すべきだから」が最も多く約27%で、次いで「男女ともに仕事をもつ方がよいから（生きがいや経済的な面で）」が多くなっている。



その他内容
生理的なことを考えたら一概には言えない
物事の固定観念、古い価値感では多様な家族(それが男女でなくても)を否定する事になる。それは差別に直結すると考えるから。
時代が古い考え
今の時代、男の収入だけで暮らして行けないから

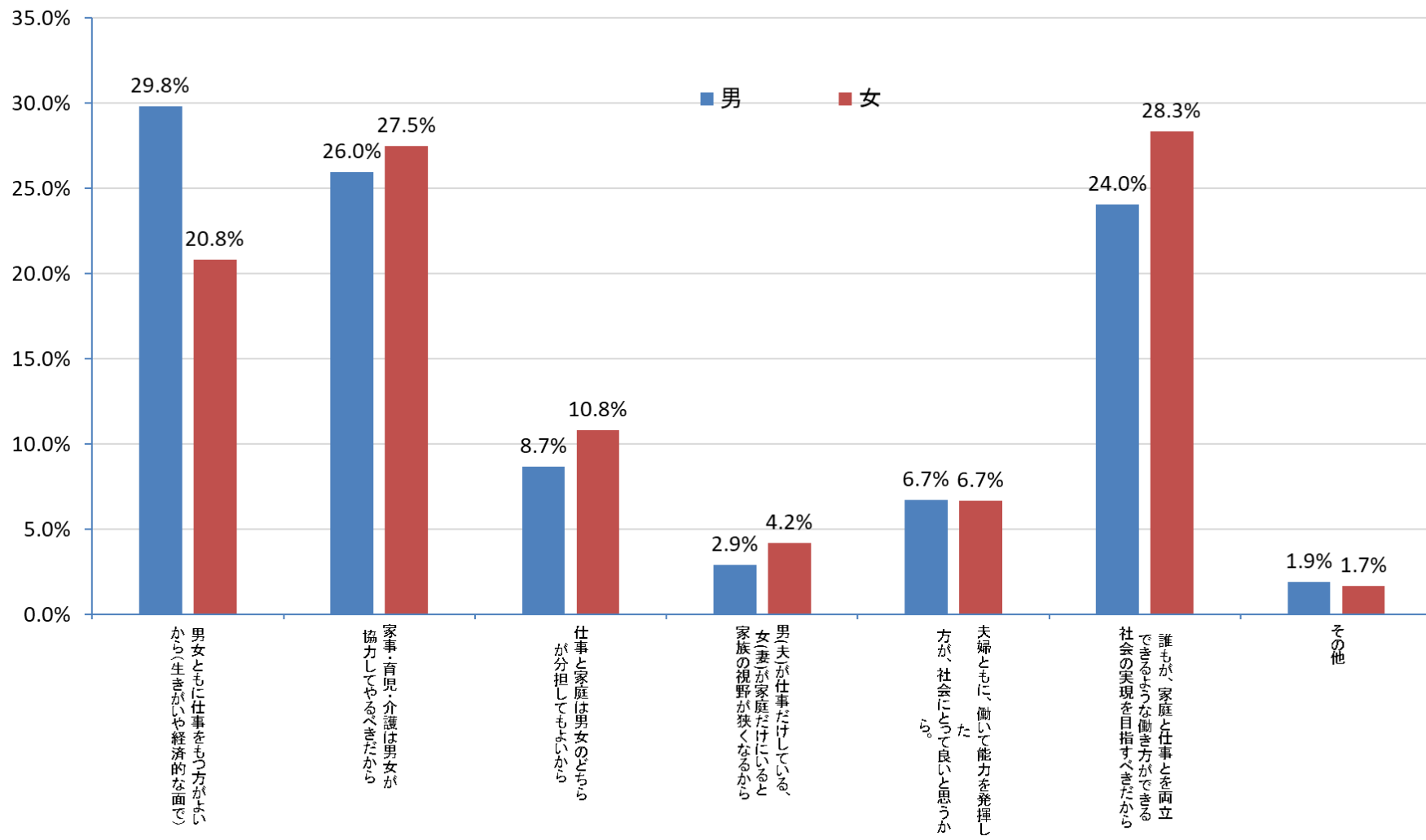


## 2 クロス集計結果

問13-2 <問13で3、4を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ② 性別

男性と女性を比較すると「男女ともに仕事をもつ方がよいから（生きがいや経済的な面で）」で男性の割合が高くなっており、男性の方が、男女ともに仕事をもつ方がよいと考える町民が多いことがわかる。また、「誰もが、家庭と仕事とを両立できるような働き方ができる社会の実現を目指すべきだから」で女性の割合が高くなっていることから、女性の方が家事と仕事を両立できる社会を目指すべきと考える町民が多いことがわかる。

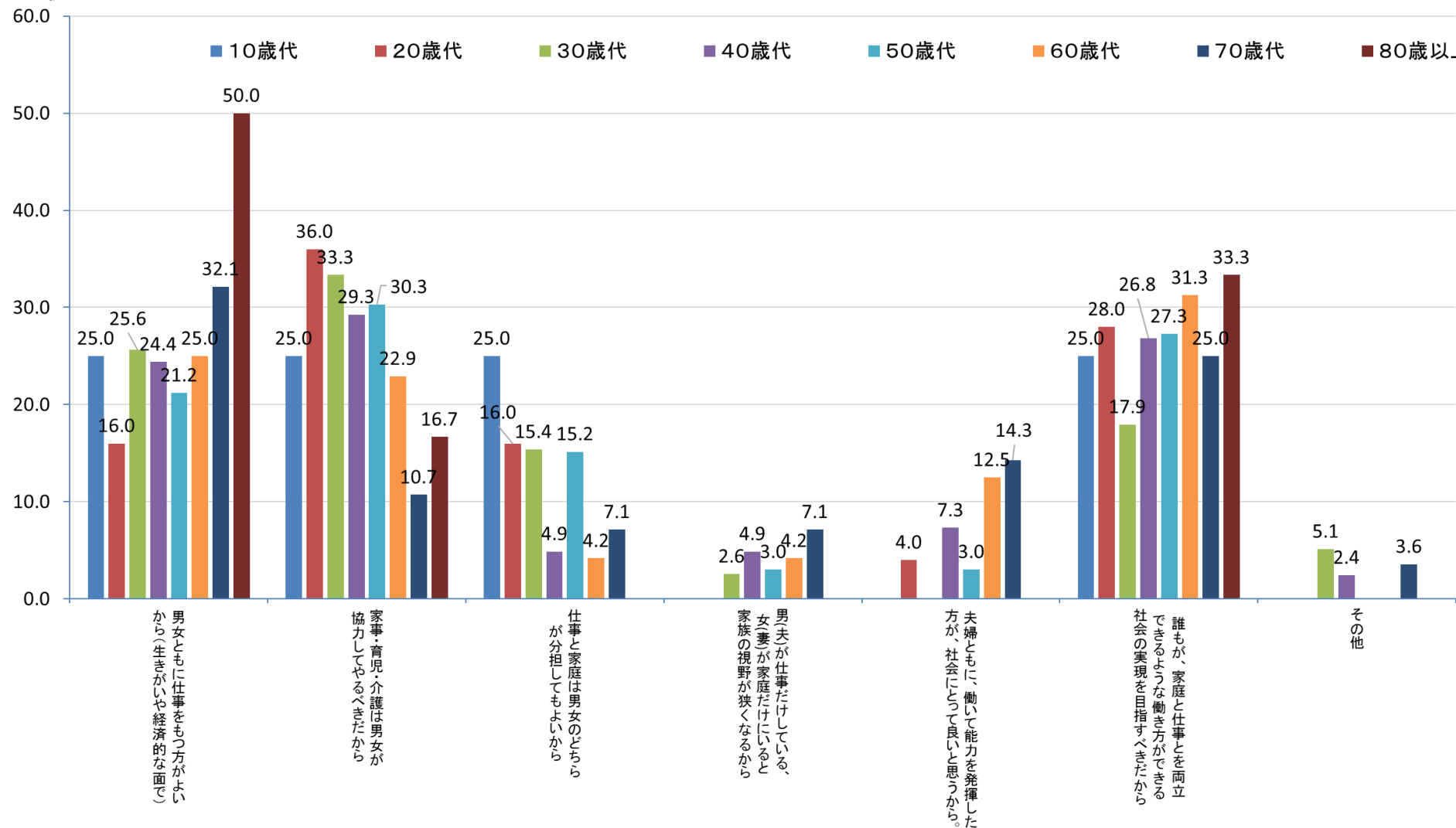


## 2 クロス集計結果

問13-2 <問13で3、4を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ③ 年代別

「80歳以上」で「男女ともに仕事をもつ方がよいから（生きがいや経済的な面で）」が突出して高くなっている。また、「20歳代」、「30歳代」で「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」が高くなっていることから子育て世帯で家事・育児・介護は男女が協力してやるべきと考える市民が多いことがわかる。

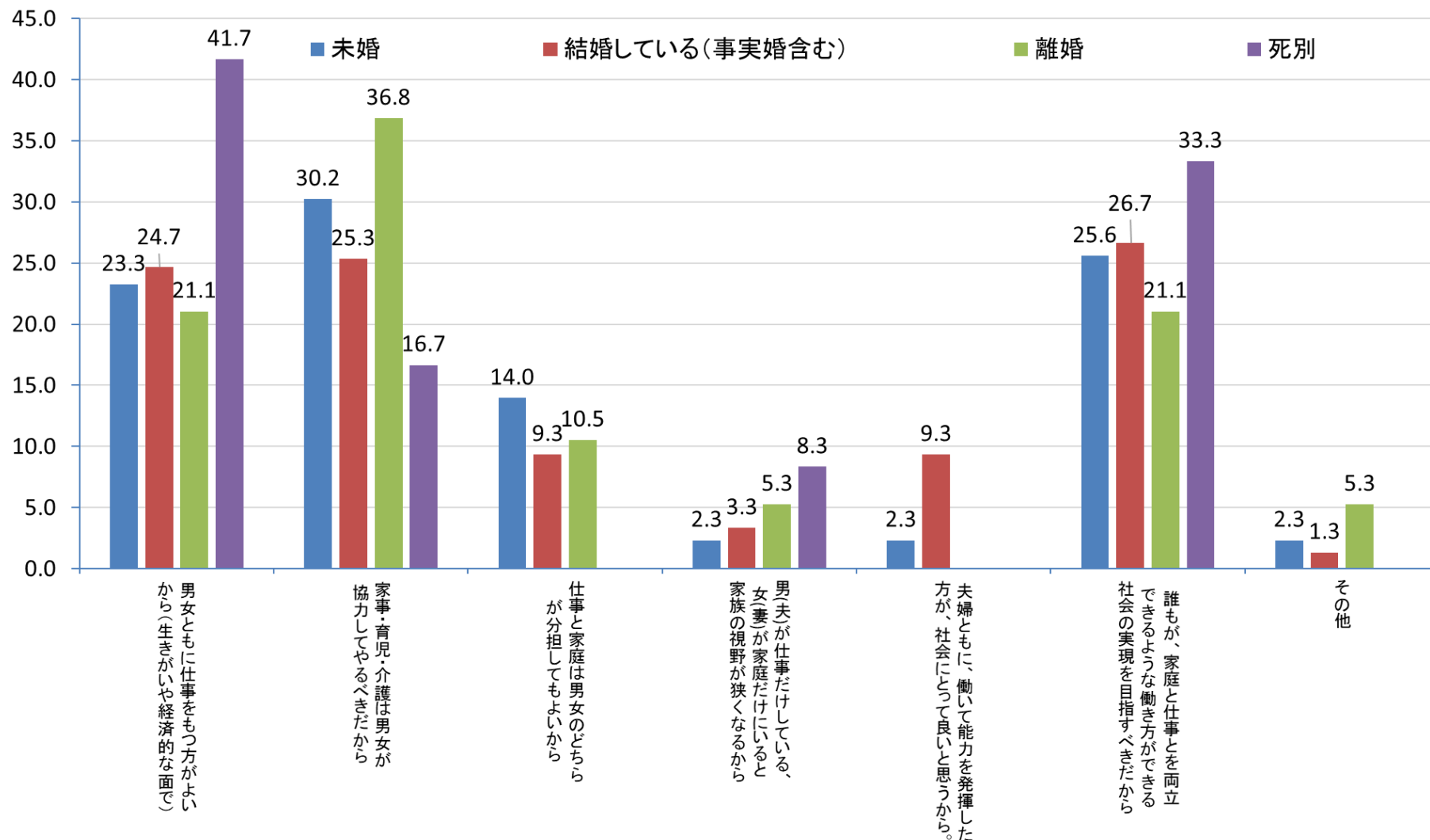


## 2 クロス集計結果

問13-2 <問13で3、4を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ④ 婚姻状況

「死別」で「男女ともに仕事をもつ方がよいから（生きがいや経済的な面で）」が高くなっており、また、「離婚」で「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」が高くなっている。

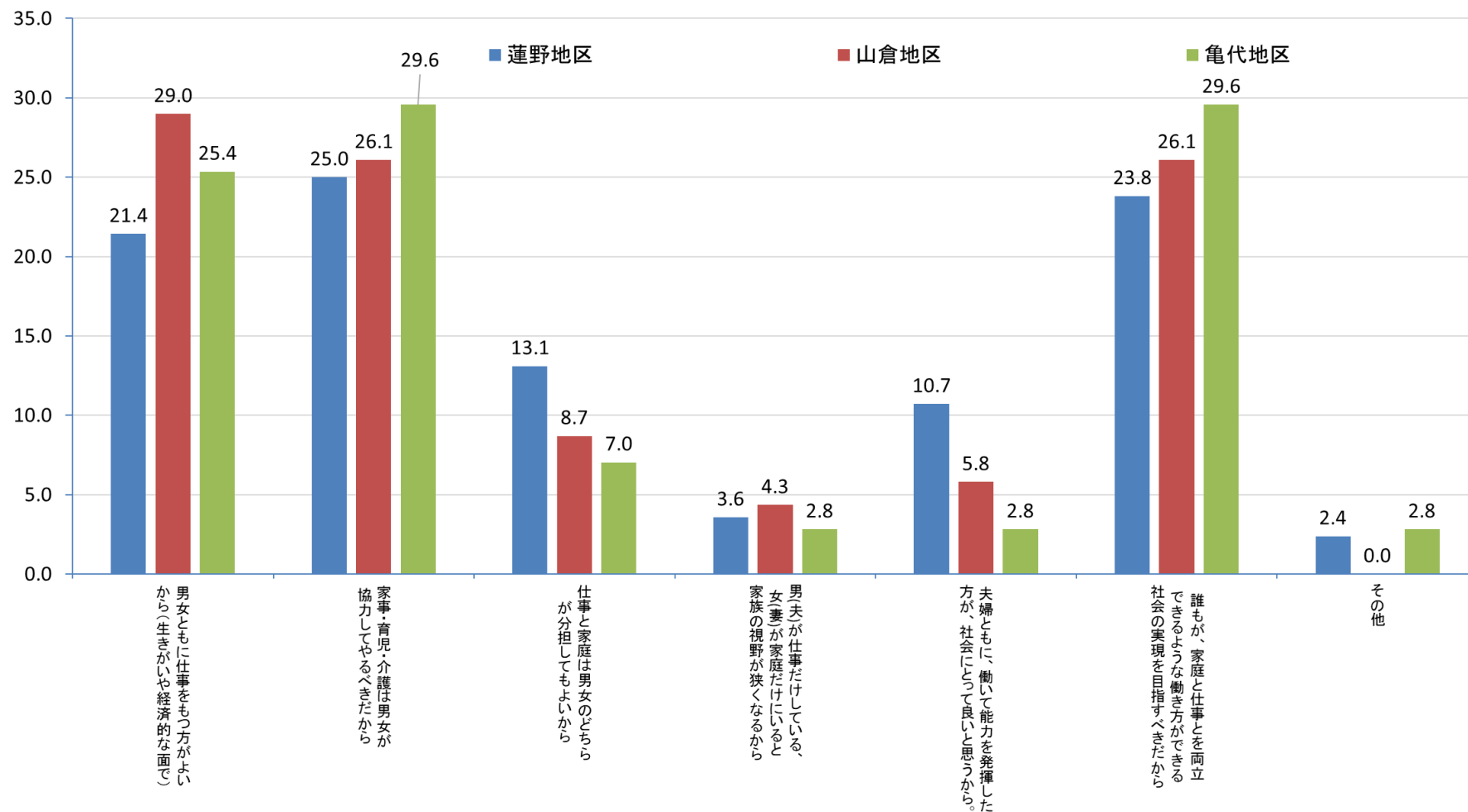


## 2 クロス集計結果

問13-2 <問13で3、4を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中から選びください。

### ⑤ 地区別

「山倉地区」は「男女ともに仕事をもつ方がよいから（生きがいや経済的な面で）」が高くなっており、「亀代地区」では「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」、「誰もが、家庭と仕事とを両立できるような働き方ができる社会の実現を目指すべきだから」が高くなっている。

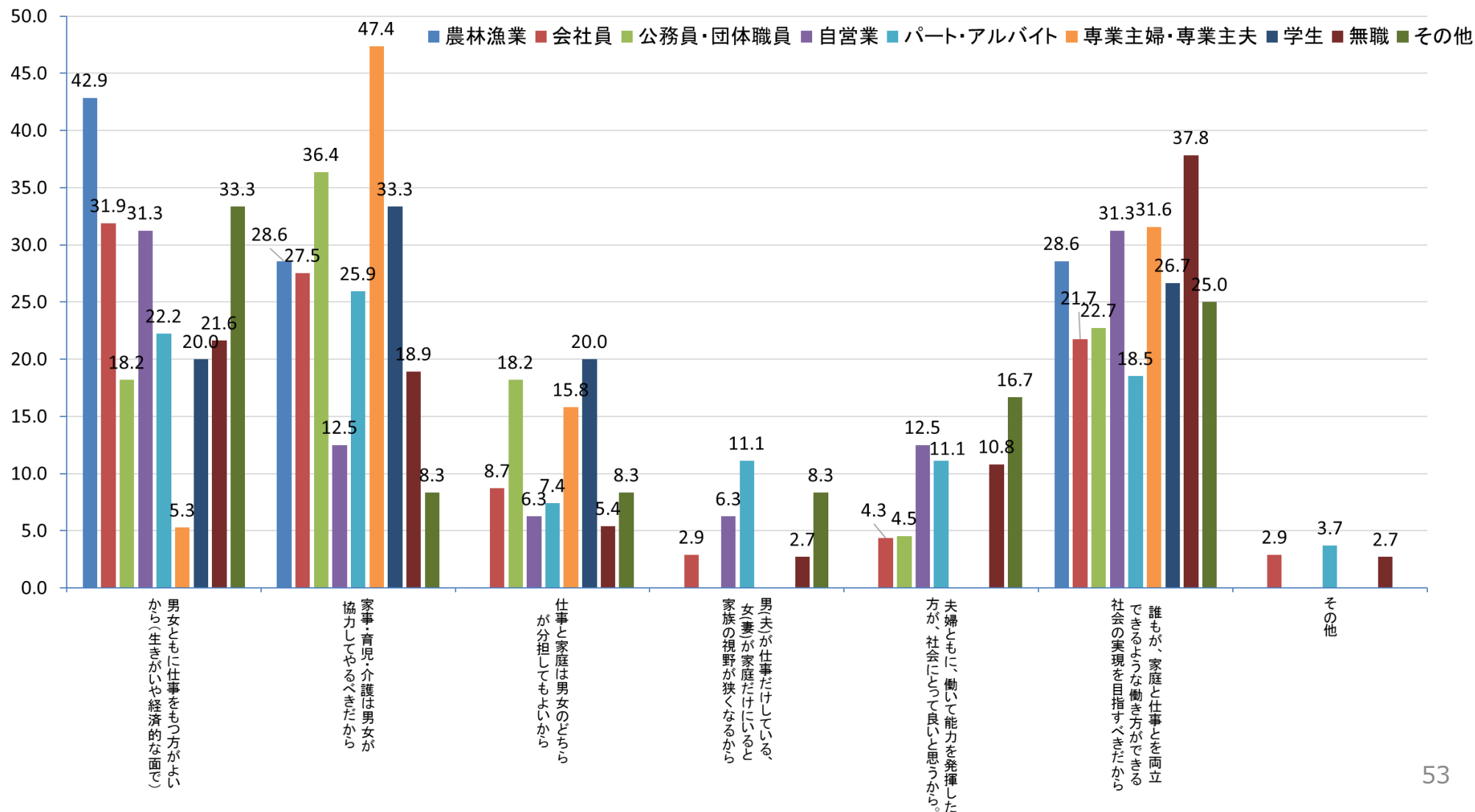


## 2 クロス集計結果

問13-2 <問13で3、4を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中からお選びください。

### ⑥ 職業別

「専業主婦・専業主夫」で「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」が高くなっており、「農林漁業」で「男女ともに仕事をもち方がよいから（生きがいや経済的な面で）」が高くなっている。



問13-2 <問13で3、4を回答した方だけ> その理由について、あてはまる番号を次の中からお選びください。

**(参考) 前回調査比較(R元)**

**新規の設問のため、前回データ無し**

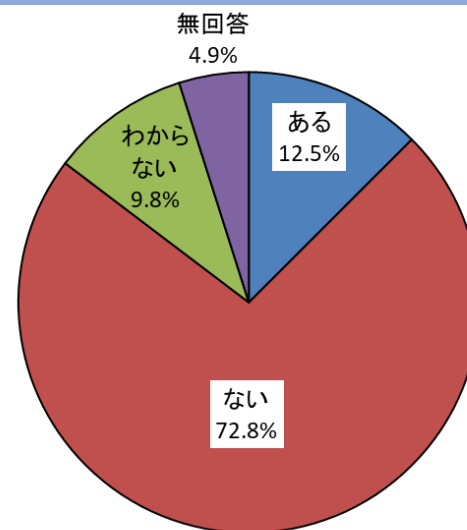
## 2 クロス集計結果

問14 男性が育児、炊事などの家事の役割を主体的に行うことに抵抗感がありますか。

【目標値（R4年度末）：基準値(14.6%)より減少させる】

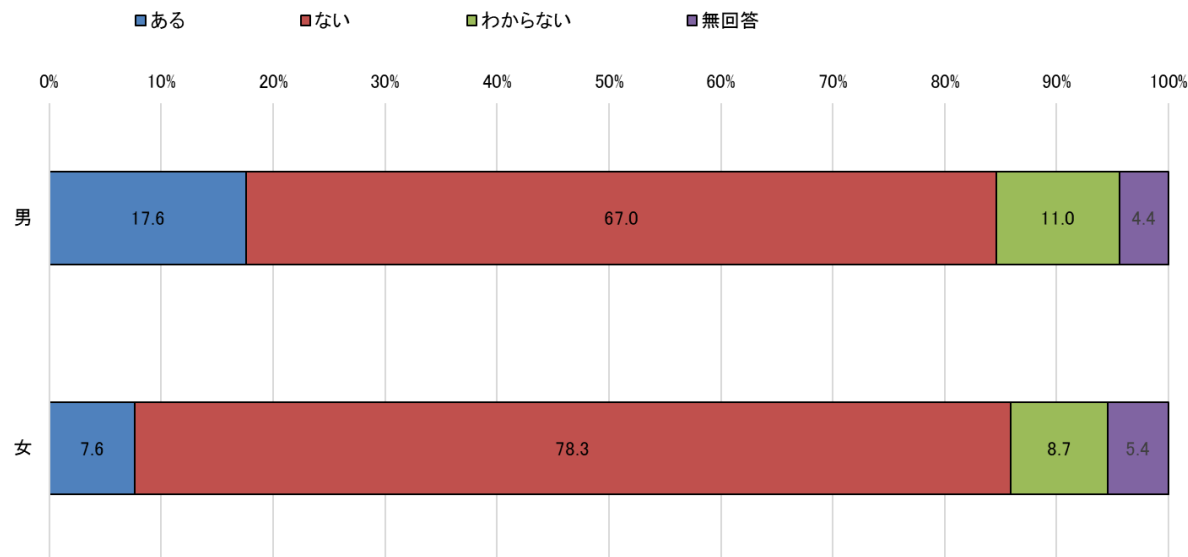
### ① 全 体

「ない」が約70%と過半数となっている。  
しかし、「ある」が12.5%となっていることから  
男性が育児、炊事などの家事の役割を主体的に行う  
ことに抵抗感がある町民が10人に1人いることがわ  
かる。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると男性の方が抵抗感が  
ある町民の割合が2倍以上高くなっていること  
から、男女間に意識の違いがあることがわか  
る。



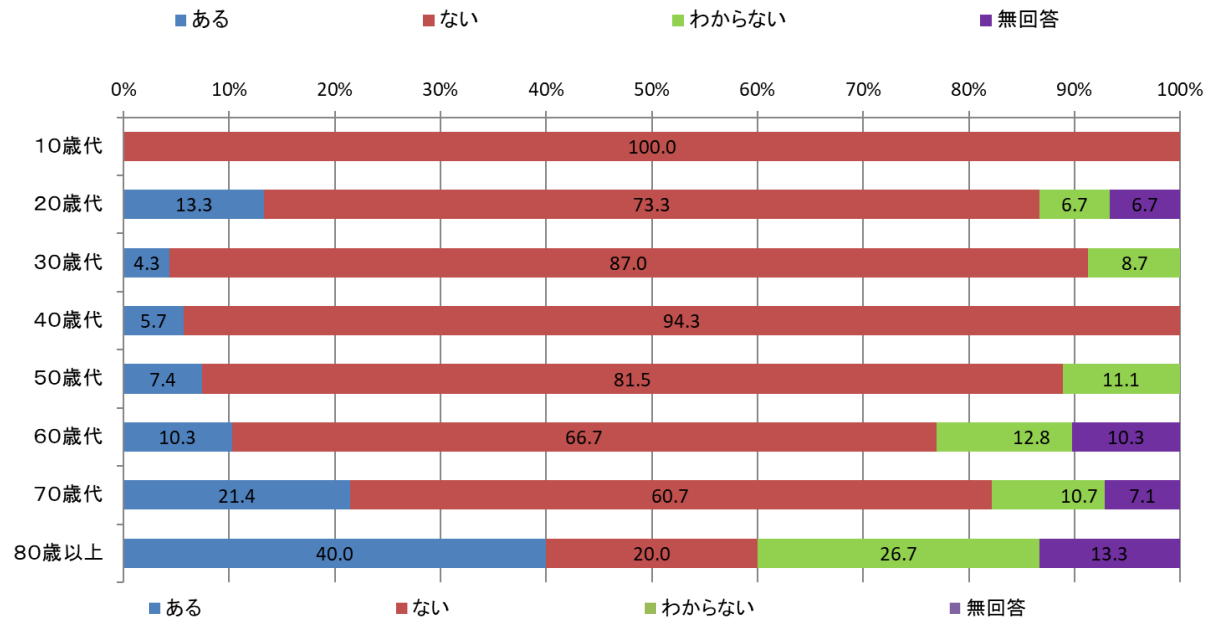
## 2 クロス集計結果

問14 男性が育児、炊事などの家事の役割を主体的に行うことに抵抗感がありますか。

【目標値（R4年度末）：基準値(14.6%)より減少させる】

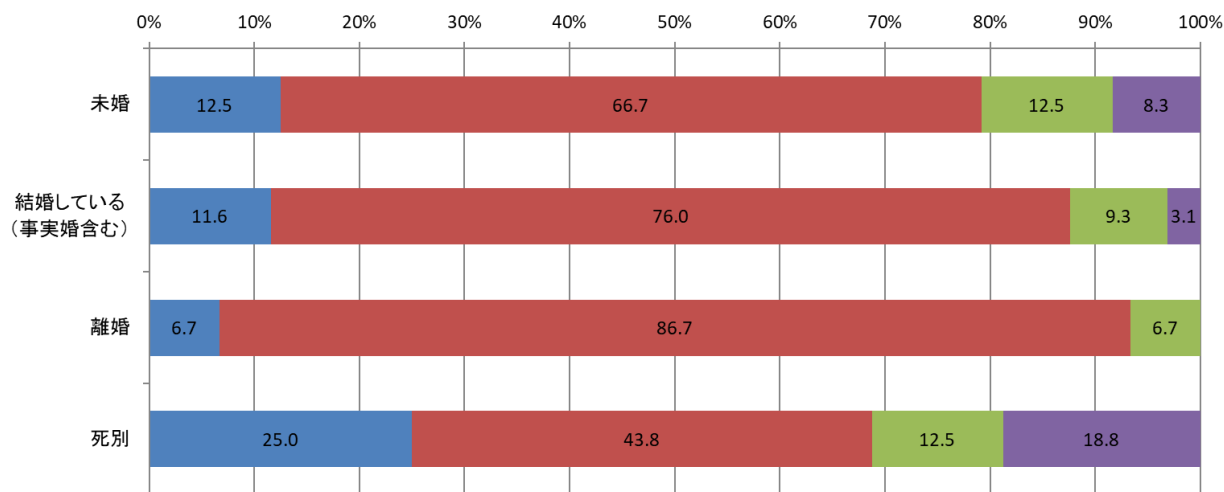
### ③ 年代別

「30歳代」から「80歳以上」にかけて徐々に「ある」の割合が高くなっていることから年齢層が高くなるにつれて男性が育児、炊事などの家事の役割を主体的に行うことに抵抗感がある町民が多いことがわかる。



### ④ 婚姻状況別

「死別」で抵抗感が「ある」の割合が高い傾向がある。  
一方で、「離婚」で抵抗感が「ある」の割合が低い傾向がある。





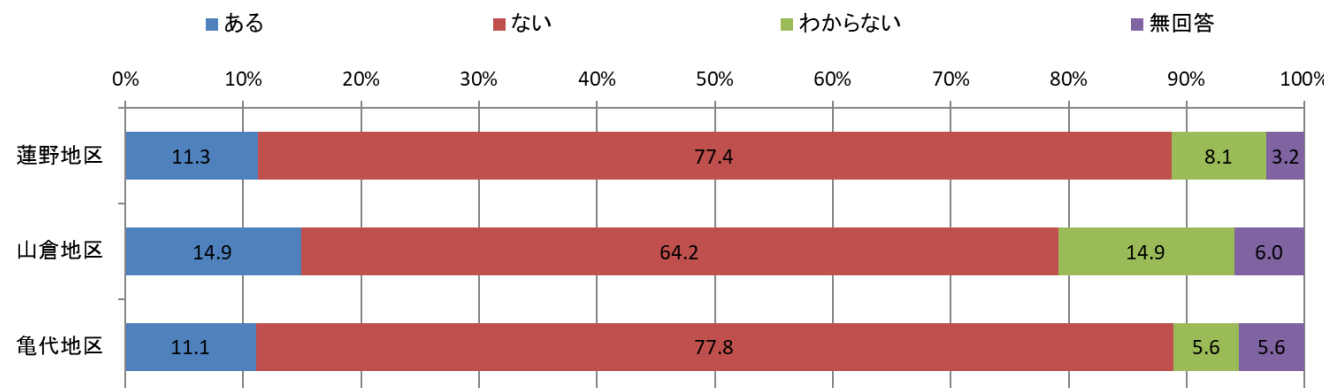
## 2 クロス集計結果

問14 男性が育児、炊事などの家事の役割を主体的に行うことに抵抗感がありますか。

【目標値（R4年度末）：基準値(14.6%)より減少させる】

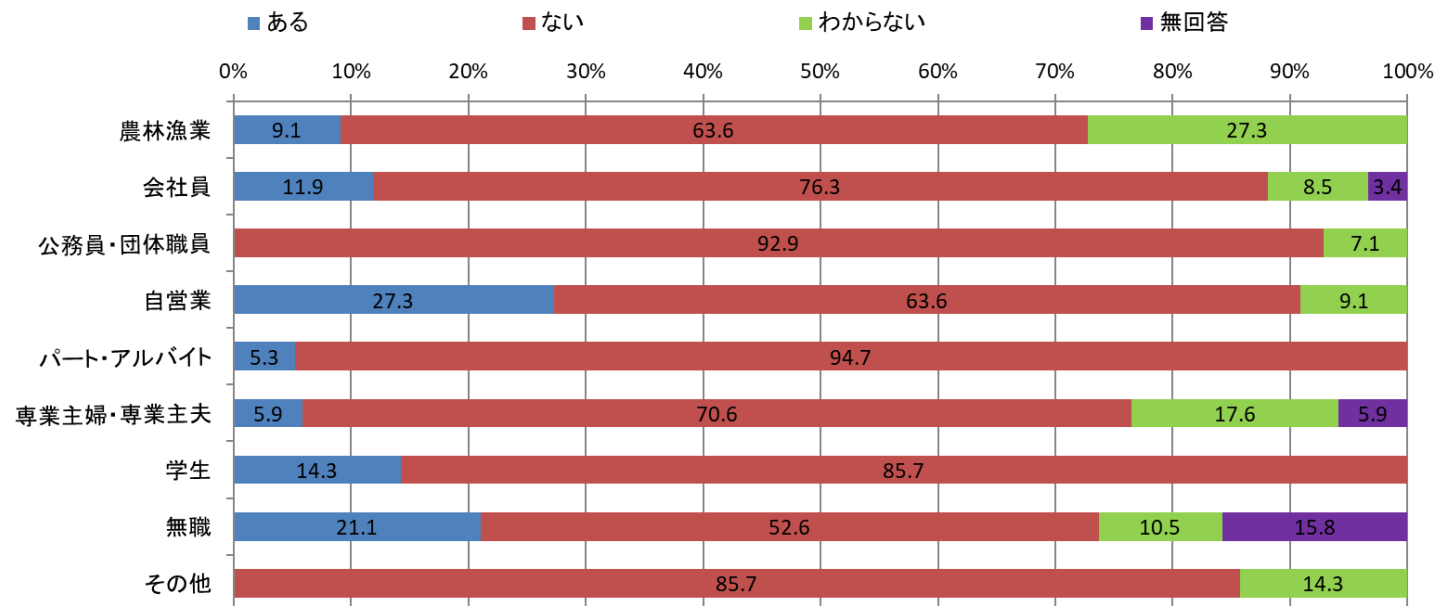
### ⑤ 地区別

「山倉地区」で抵抗感がある割合が高くなっており、「蓮野地区」、「亀代地区」では抵抗感のある割合は同程度となっている。



### ⑥ 職業別

「自営業」、「無職」で抵抗感がある割合が高くなっている。一方で、「パート・アルバイト」、「専業主婦・専業主夫」では抵抗感のある割合が低くなっており、「公務員・団体職員」では抵抗感がある割合は0%になっている。

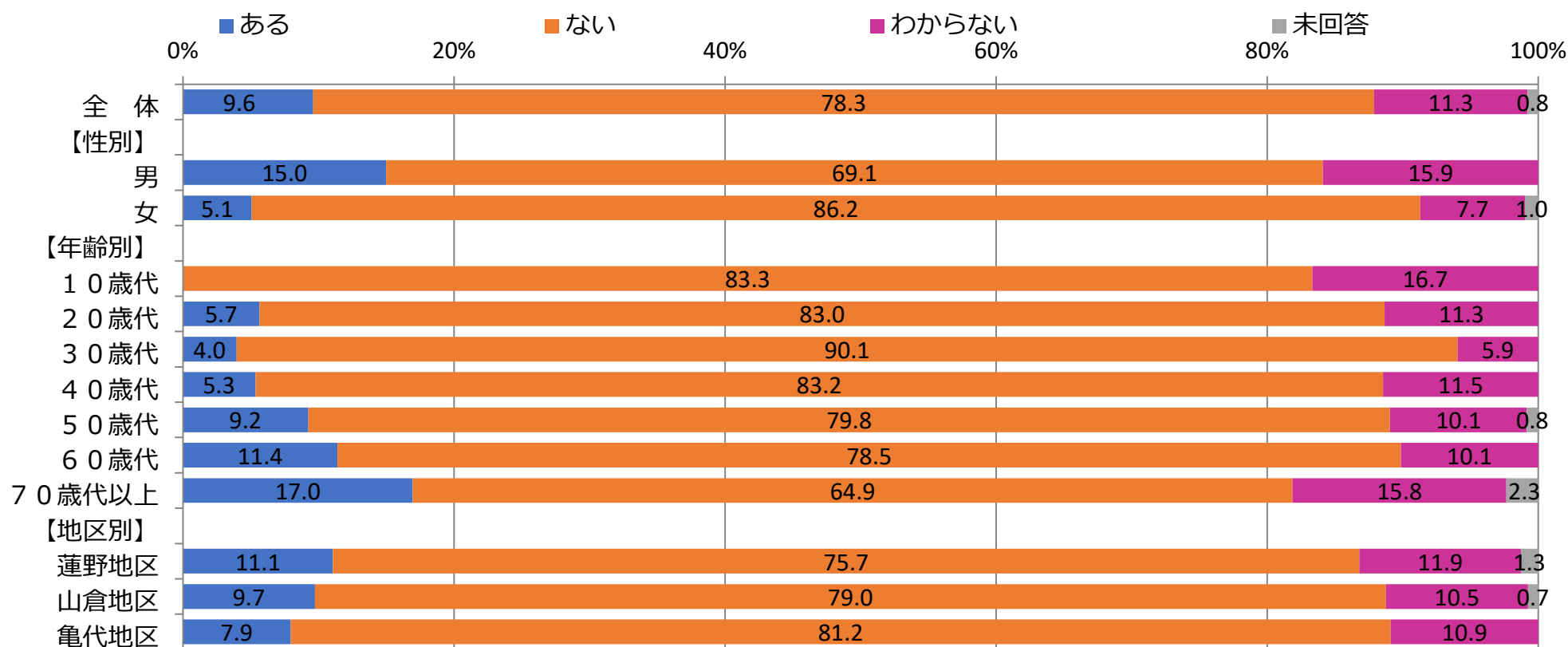


## 2 クロス集計結果

問14 男性が育児、炊事などの家事の役割を主体的に行うことに抵抗感がありますか。

【目標値（R4年度末）：基準値(14.6%)より減少させる】

### （参考）前回調査比較(R元)



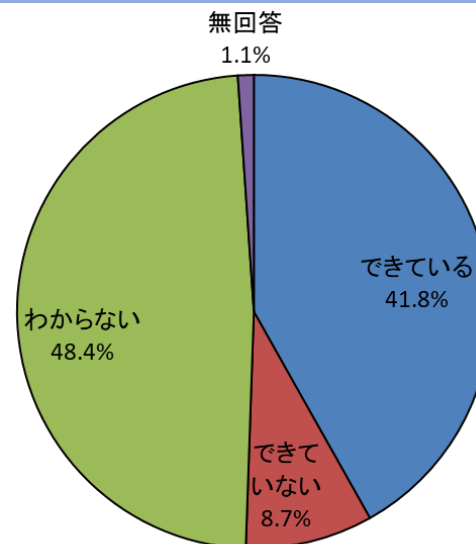
## 2 クロス集計結果

問15 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮できていますか。 【目標値（R4年度末）：基準値(34.0%)より増加させる】

### ① 全 体

「できている」が41.8%であり、前回調査時（R元）の35.1%と比較するとわずかではあるが増加している。

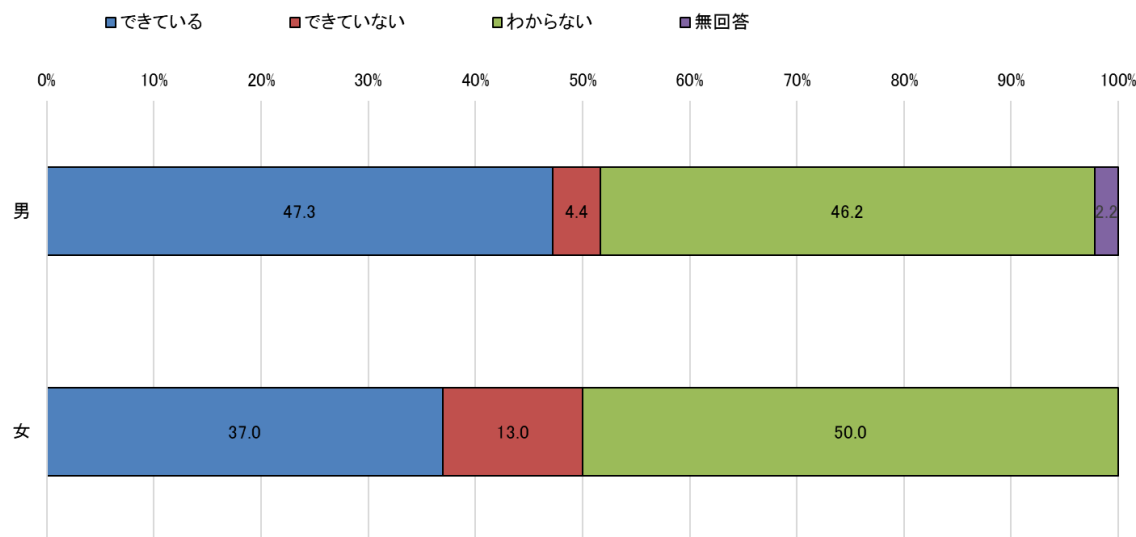
また、「できていない」が8.7%であり、前回調査時（R元）の16.4%と比較すると約2倍減少している。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると女性の方の自身の性のあり方にとらわれることなく個性と能力を発揮できていないと回答した割合が約3倍以上高くなってる。

一方で、男性の方が自身の性のあり方にとらわれることなく個性と能力を発揮できていると回答した割合が10%以上高くなっていることから男女間で意識の違いがあることがわかる。

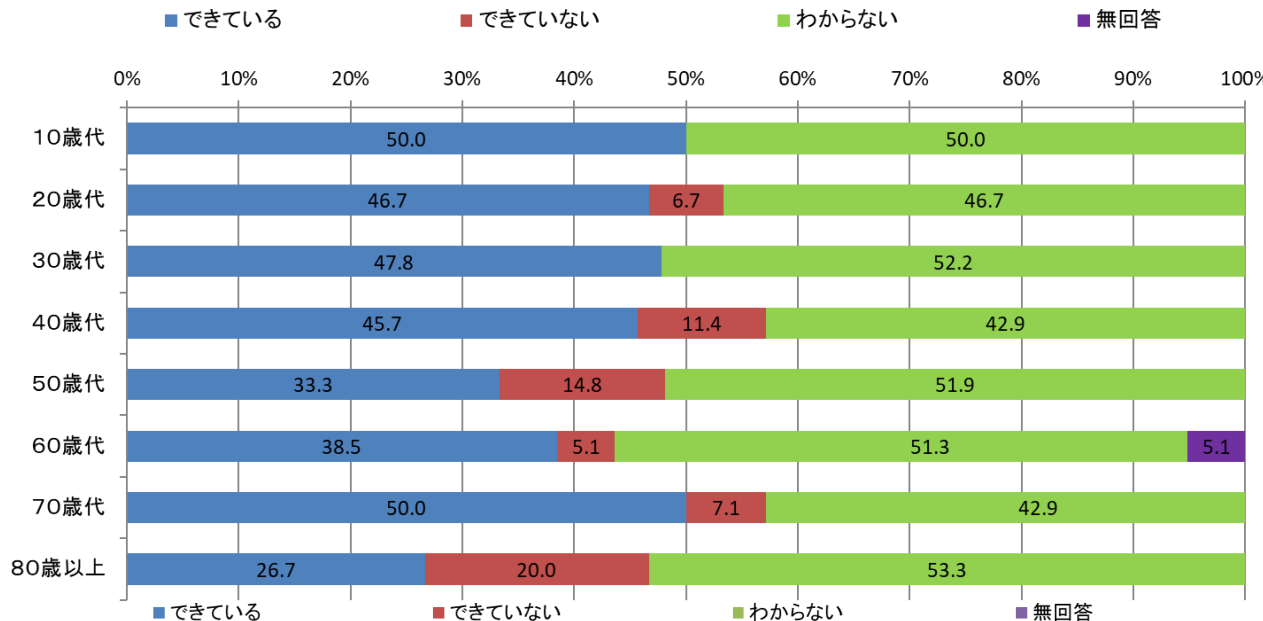


## 2 クロス集計結果

問15 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮できていますか。 【目標値（R4年度末）：基準値(34.0%)より増加させる】

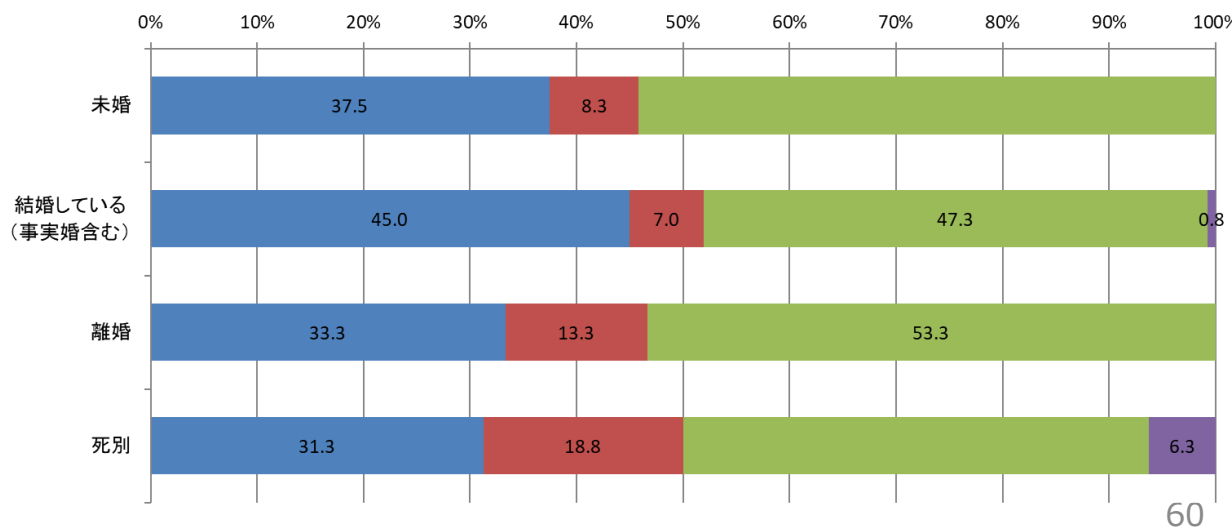
### ③ 年代別

「80歳以上」でもっとも自身の性のあり方にとらわれることなく個性と能力を発揮できていない割合が高くなっており、次いで「50歳代」で割合が高くなっている。



### ④ 婚姻状況別

「結婚している（事実婚含む）」で自身の性のあり方にとらわれることなく個性と能力を発揮できている割合が高くなっている。一方で、「死別」で個性と能力を発揮できていない割合が高くなっている。

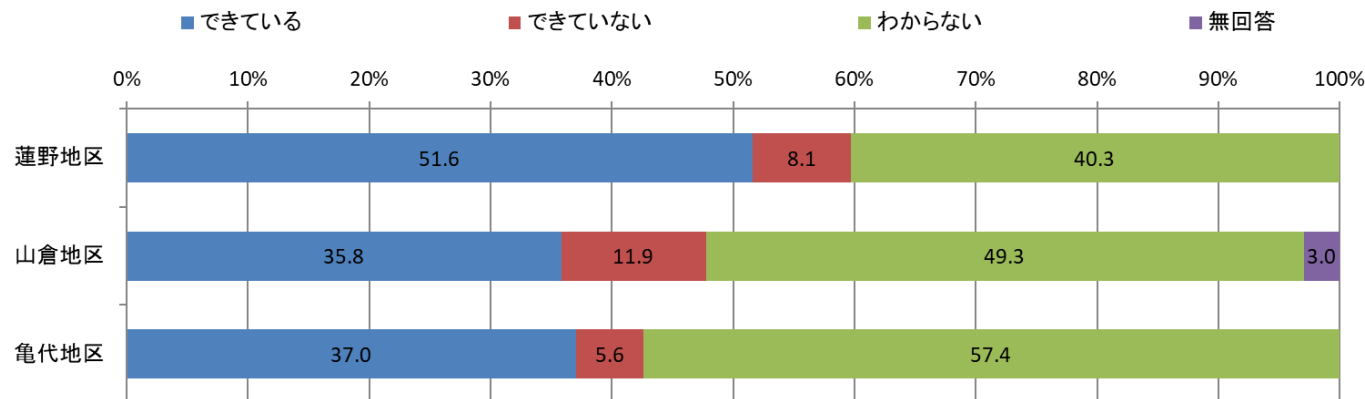


## 2 クロス集計結果

問15 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮できていますか。 【目標値（R4年度末）：基準値(34.0%)より増加させる】

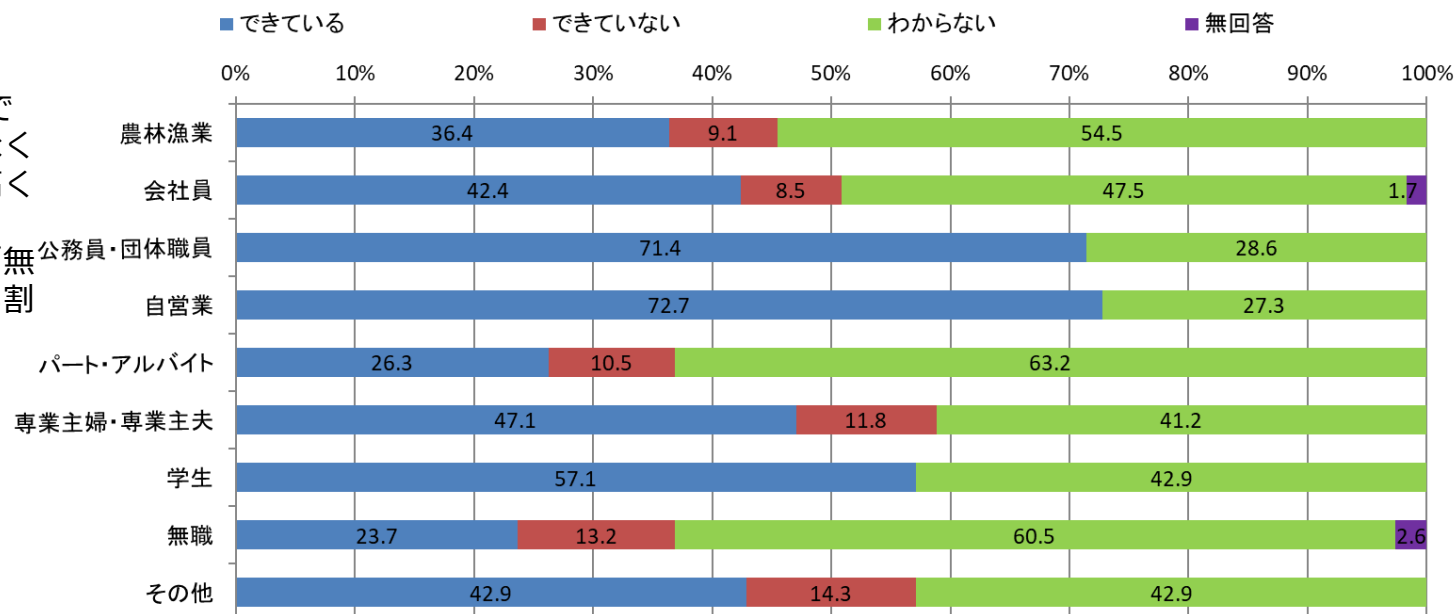
### ⑤ 地区別

「蓮野地区」で自身の性のあり方にとらわれることなく個性と能力を発揮できている割合が高くなっている。  
一方で、「山倉地区」で個性と能力を発揮できている割合が低くなっている。



### ⑥ 職業別

「公務員・団体職員」、「自営業」で自身の性のあり方にとらわれることなく個性と能力を発揮できている割合が高くなっている。  
一方で、「パート・アルバイト」、「無職」では個性と能力を発揮できている割合が低くなっている。

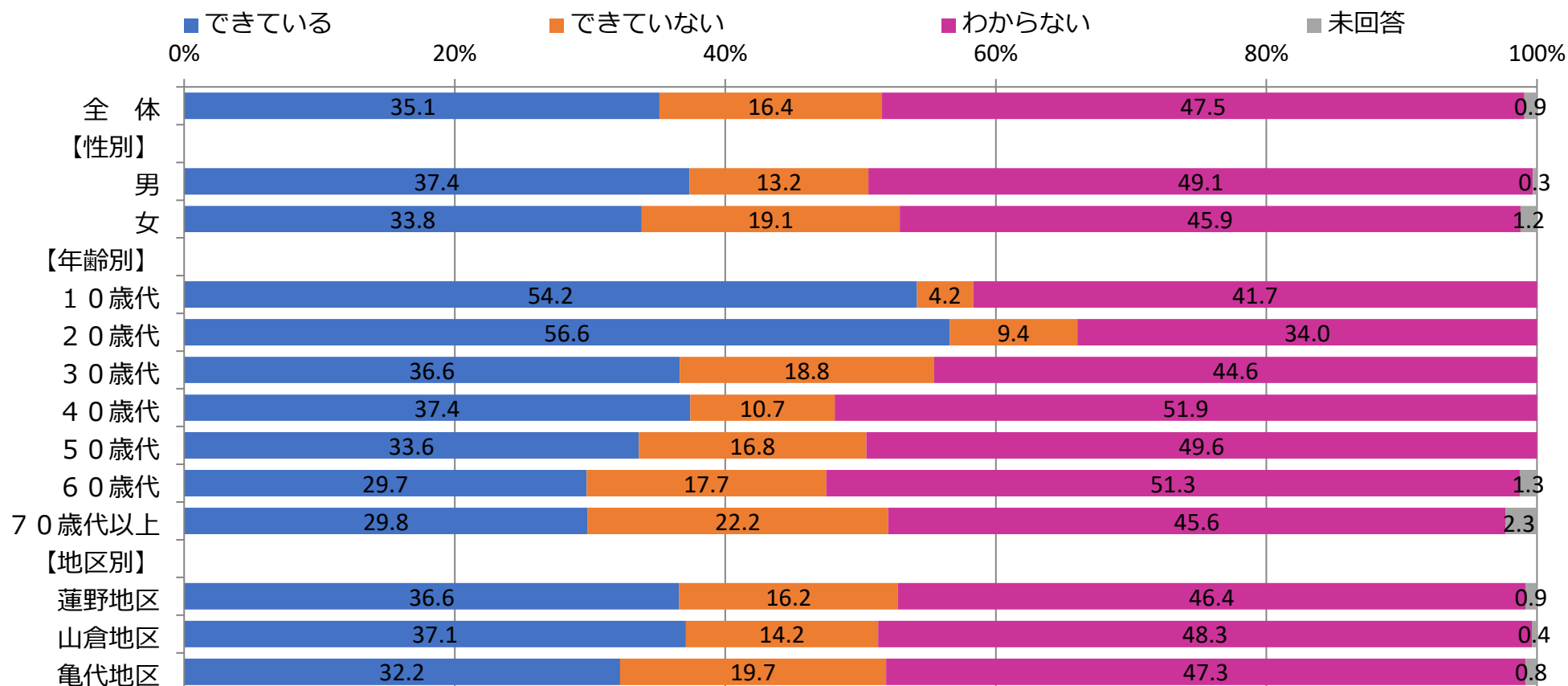


## 2 クロス集計結果

問15 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮できていますか。 【目標値（R4年度末）：基準値(34.0%)より増加させる】

### （参考）前回調査比較(R元)

R元設問：あなたは、性別にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮できていますか。

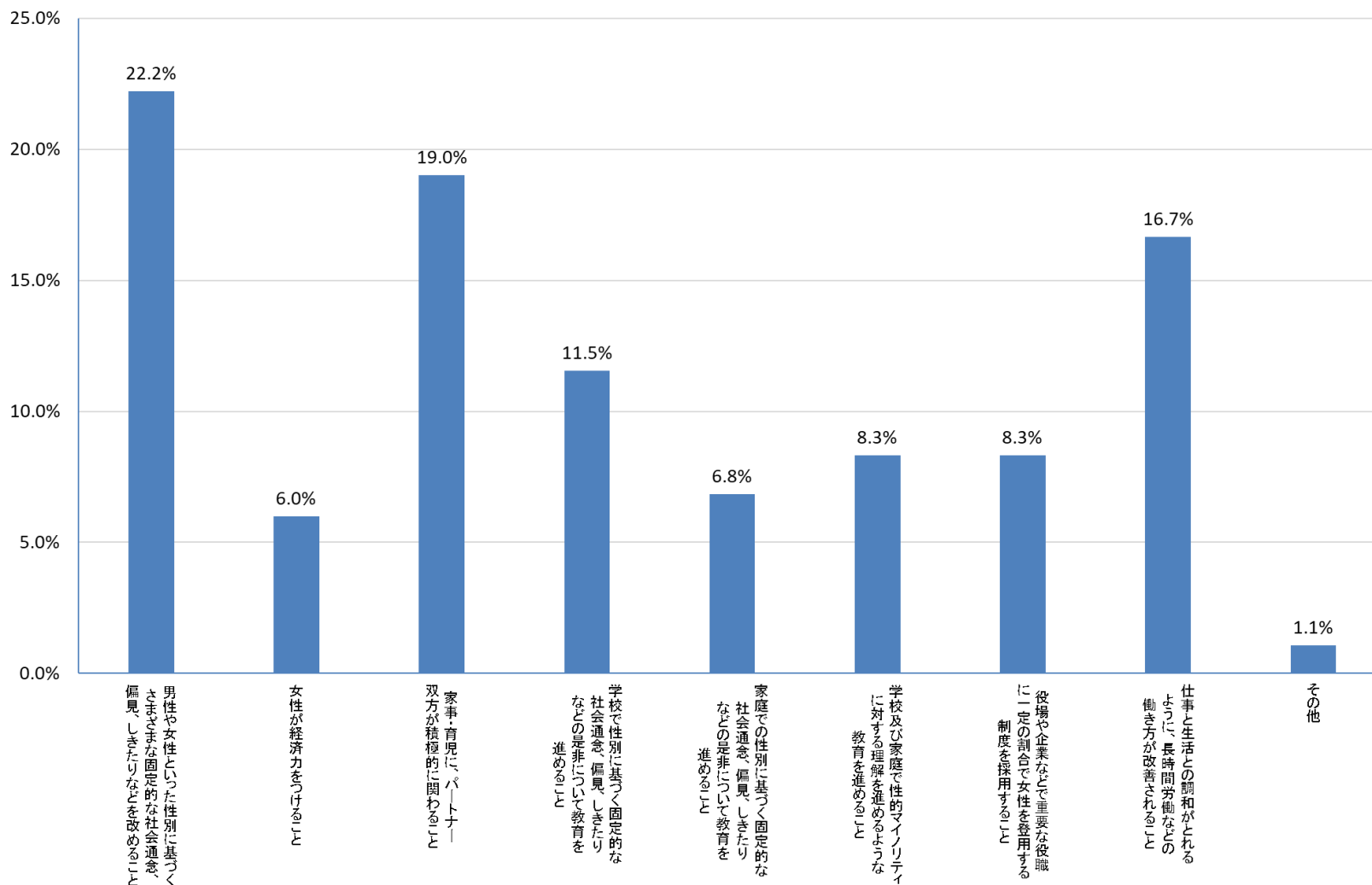


## 2 クロス集計結果

問16 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力をより一層発揮できるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

### ① 全 体

「男性や女性といった性別に基づくさまざまな固定的な社会通念、偏見、しきたりなどを改めること」がもっとも高くなっており、次いで、「家事・育児に、パートナー双方が積極的に関わること」、「仕事と生活との調和がとれるように、長時間労働などの働き方が改善されること」が高くなっている。



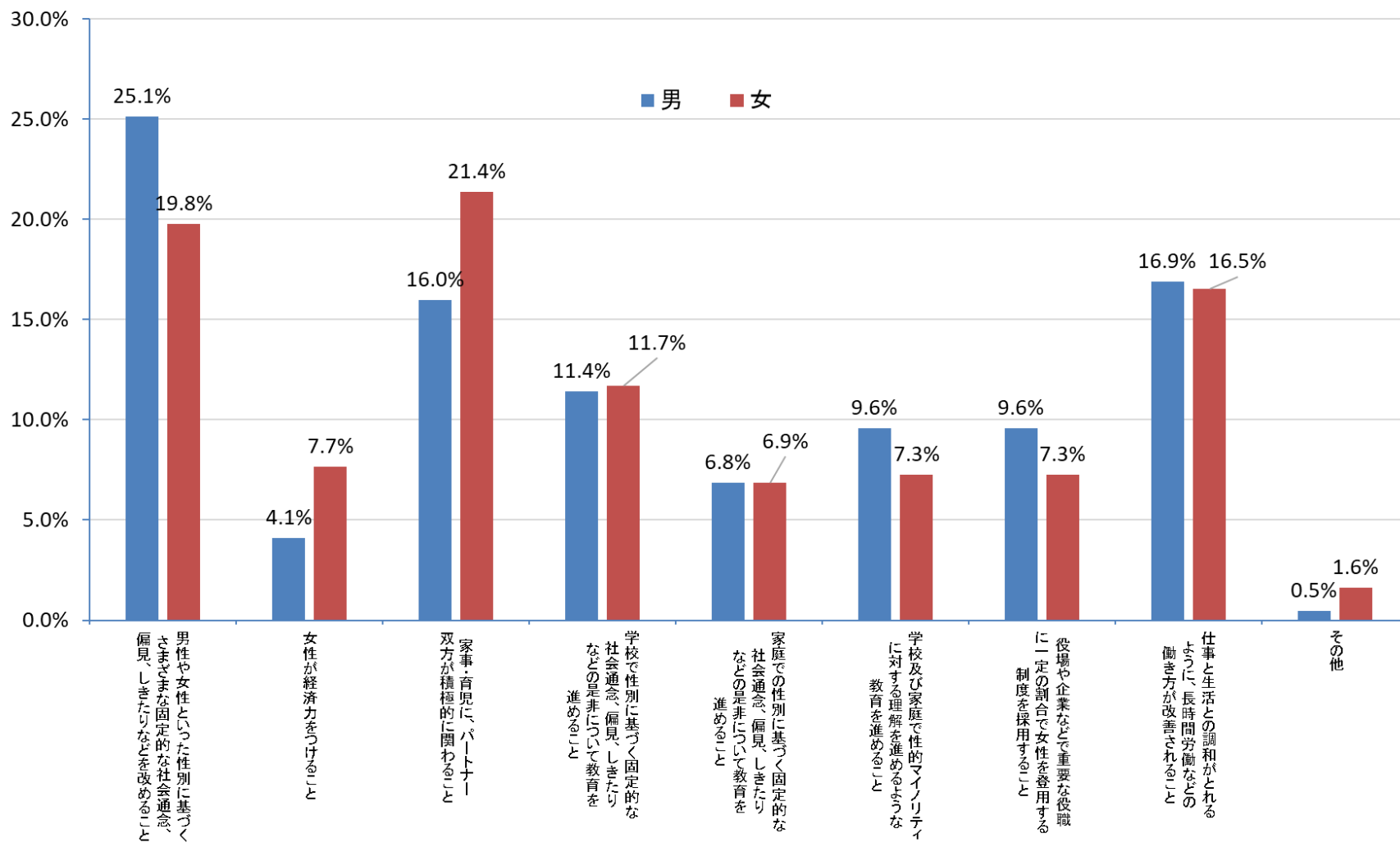
その他内容
男、女など性別にとらわれることなくもっと個人を大切にすることが大事だと思う。
性別よりは、あくまでも能力重視
平等と公平の差を理解すべき!!
性別による固定観念、偏見を無くす教育、ジェンダー、性教育の拡充、人権について大人を中心に学ぶことが必要と強く考える。
能力に応じ、女性も社会に進出するべき

## 2 クロス集計結果

問16 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力をより一層発揮できるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

### ② 性別

男性と女性を比較すると「男性や女性といった性別に基づくさまざまな固定的な社会通念、偏見、しきたりなどを改めること」で男性の割合が高くなっており、「家事・育児に、パートナー双方が積極的に関わること」で女性の割合が高くなっている。



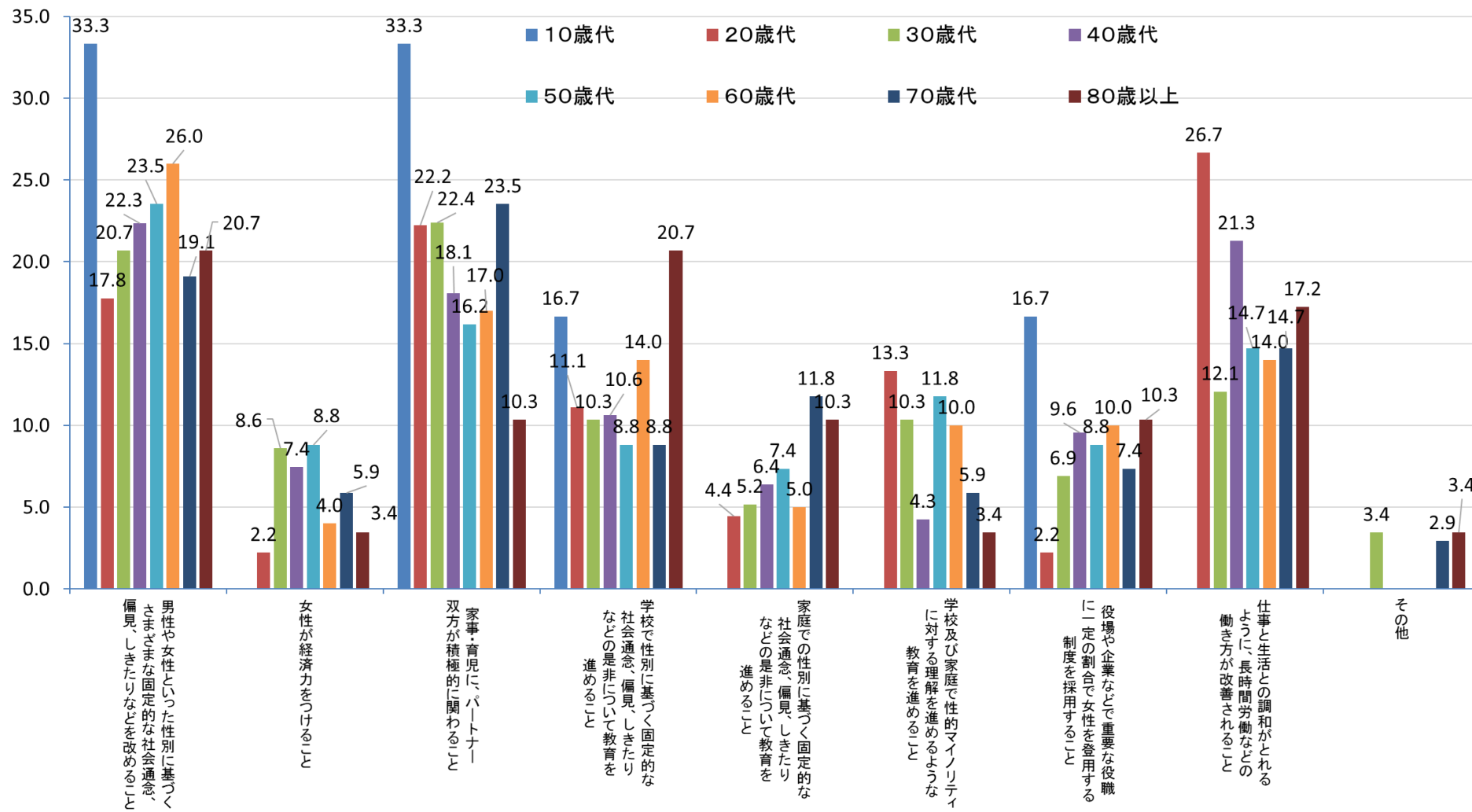


## 2 クロス集計結果

問16 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力をより一層発揮できるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

### ③ 年代別

「20歳代」で「仕事と生活との調和がとれるように、長時間労働などの働き方が改善されること」が高くなっている。  
また、「60歳代」で「男性や女性といった性別に基づくさまざまな固定的な社会通念、偏見、しきたりなどを改めること」が高くなっている。

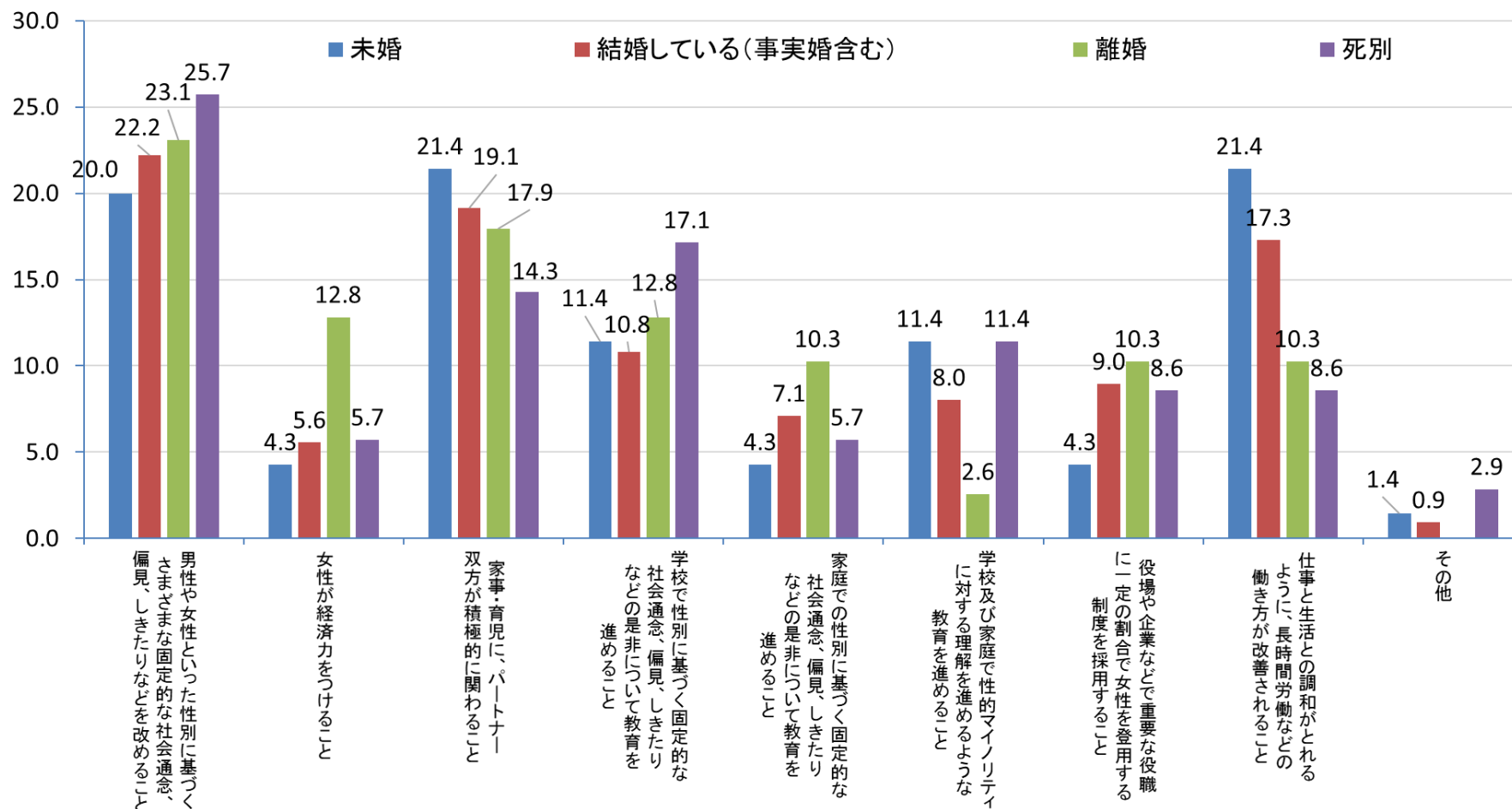


## 2 クロス集計結果

問16 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力をより一層発揮できるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

### ④ 婚姻状況

「死別」、「離婚」、「結婚している（事実婚含む）」で「男性や女性といった性別に基づくさまざまな固定的な社会通念、偏見、しきたりなどを改めること」が高くなっており、「未婚」で「仕事と生活との調和がとれるように、長時間労働などの働き方が改善されること」が高くなっている。



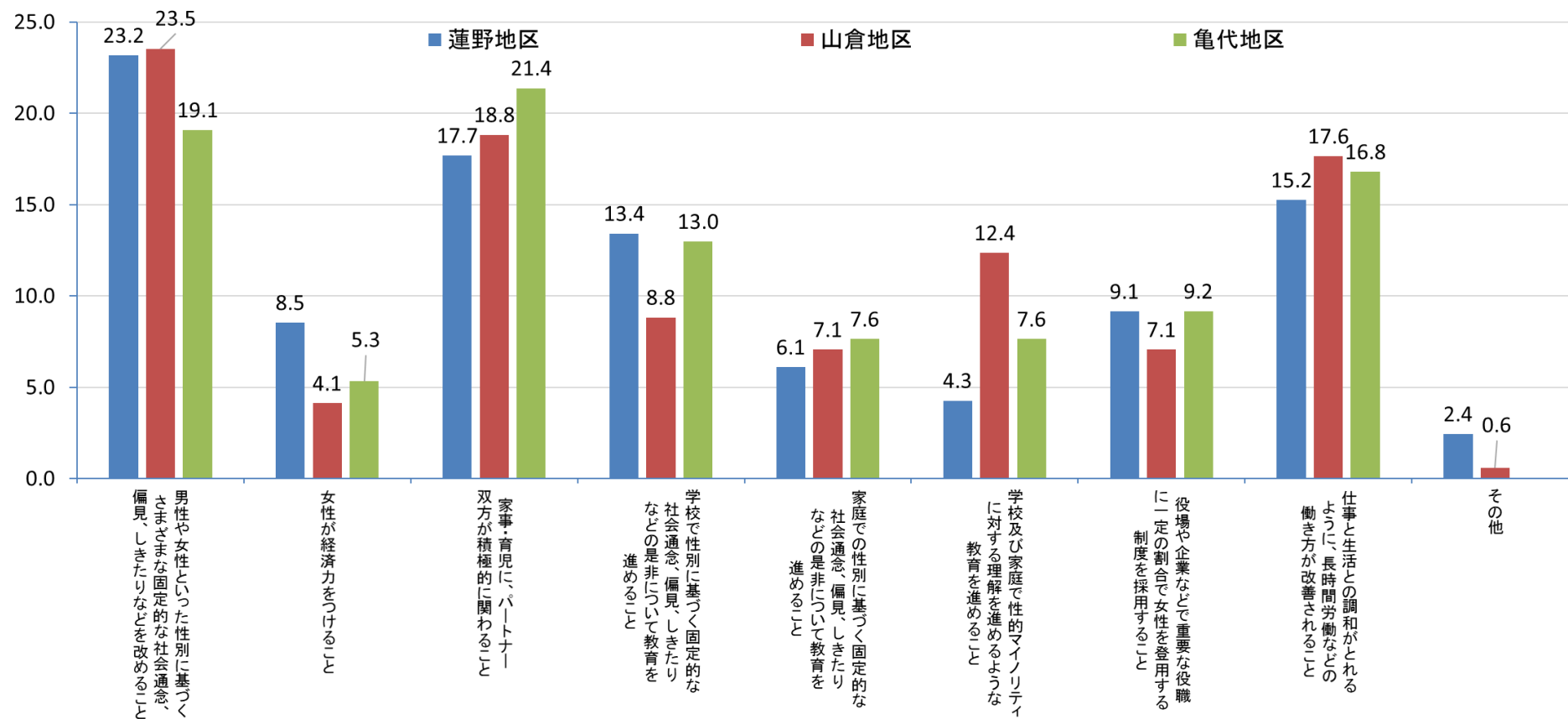
## 2 クロス集計結果

問16 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力をより一層発揮できるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

### ⑤ 地区別

「山倉地区」、「蓮野地区」は「男性や女性といった性別に基づくさまざまな固定的な社会通念、偏見、しきたりなどを改めること」が高くなっている。

また、「亀代地区」は「家事・育児に、パートナー双方が積極的に関わること」が高くなっている。

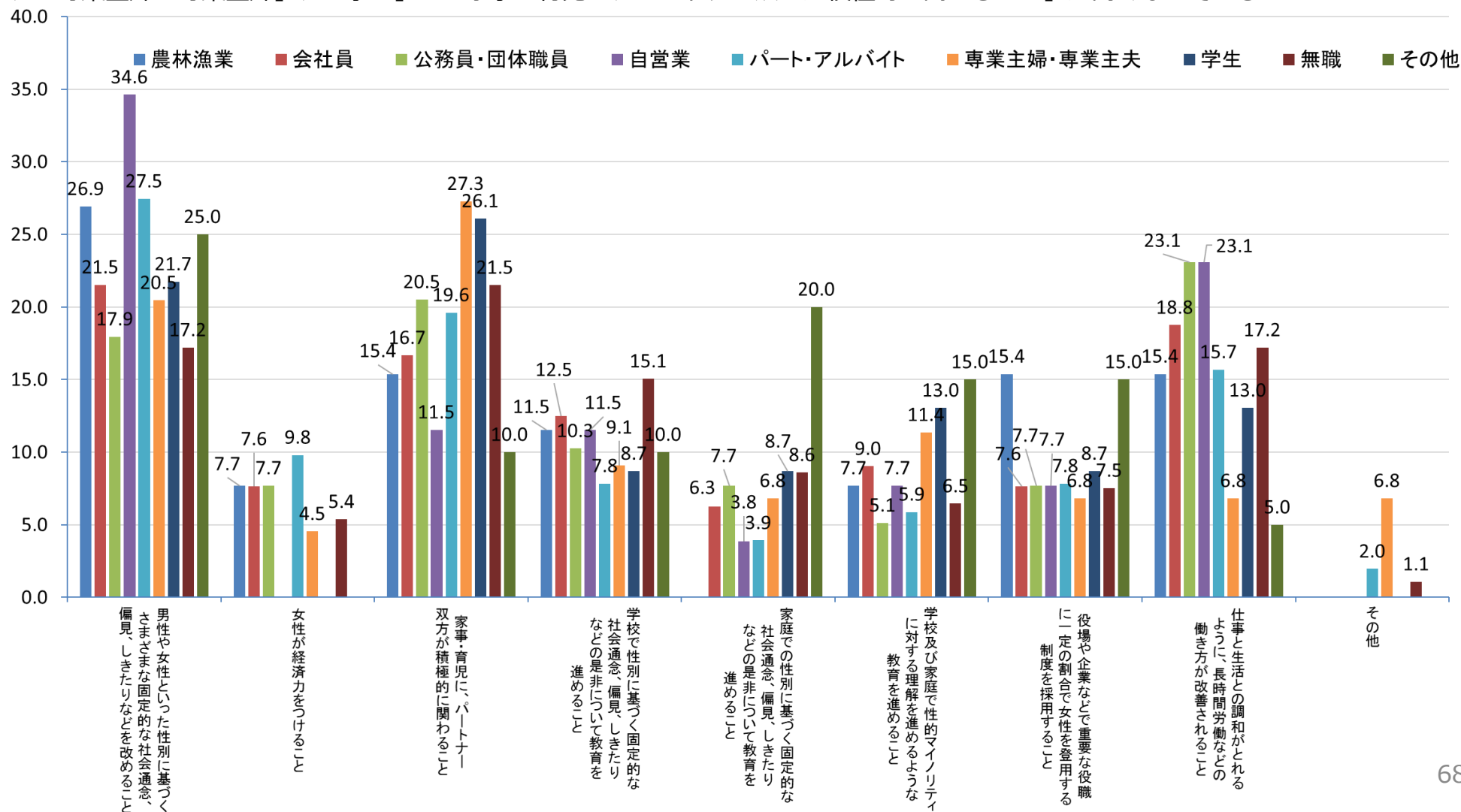


## 2 クロス集計結果

問16 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力をより一層発揮できるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

### ⑥ 職業別

「自営業」は「男性や女性といった性別に基づくさまざまな固定的な社会通念、偏見、しきたりなどを改めること」が高くなっている。  
また、「専業主婦・専業主夫」、「学生」は「家事・育児に、パートナー双方が積極的に関わること」が高くなっている。



## 2 クロス集計結果

問16 あなたは、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、その個性と能力をより一層発揮できるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

**（参考）前回調査比較(R元)**

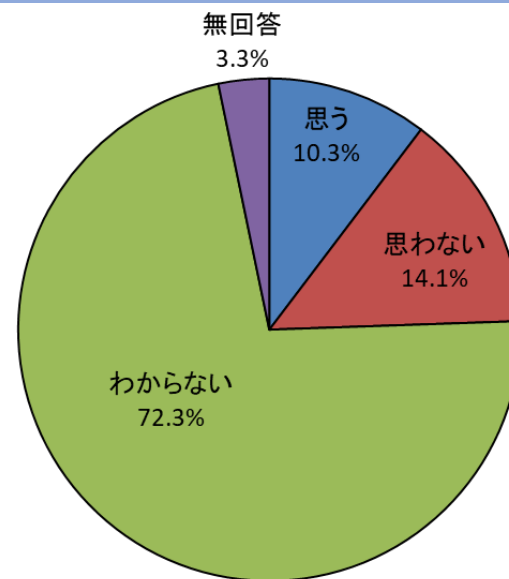
**新規の設問のため、前回データ無し**

## 2 クロス集計結果

問17 聖籠町は、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、個人がその個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に力を入れていると思いますか。

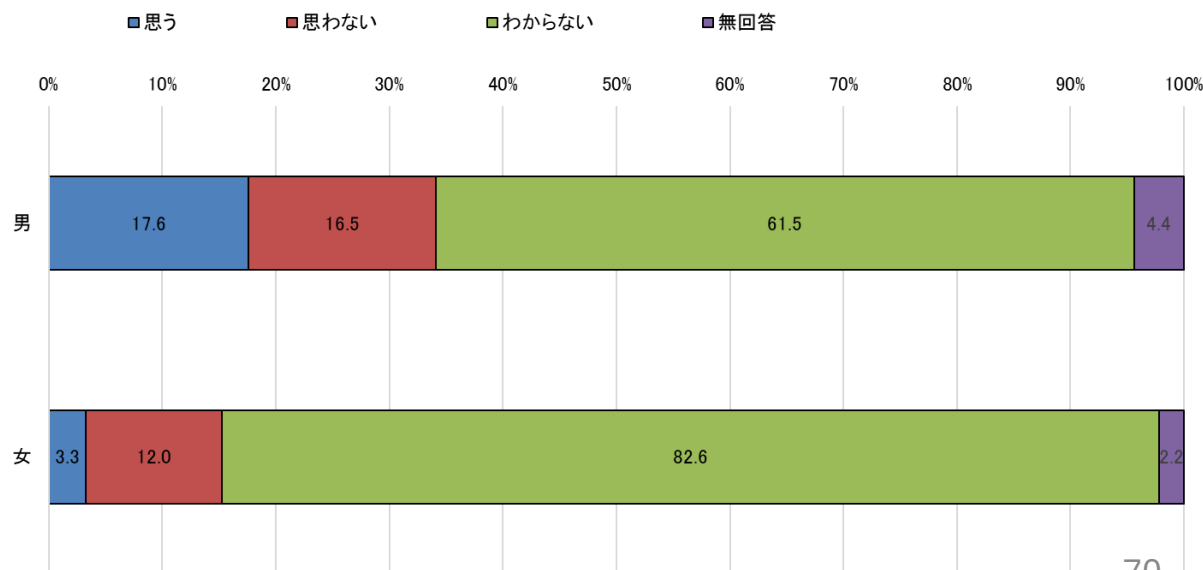
### ① 全 体

「思う」が10.3%であり、「思わない」が14.1%で町は自身の性のあり方にとらわれることなく、個人がその個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に力を入れていると思わない町民の方が多い。また、「わからない」が72.3%で過半数である。



### ② 性 別

男性と女性を比較すると男性の方が町が力を入れていると思う人の割合が多くなっている。一方で、女性で町が力を入れていると思う町民の割合は3.3%と非常に低くなっている。

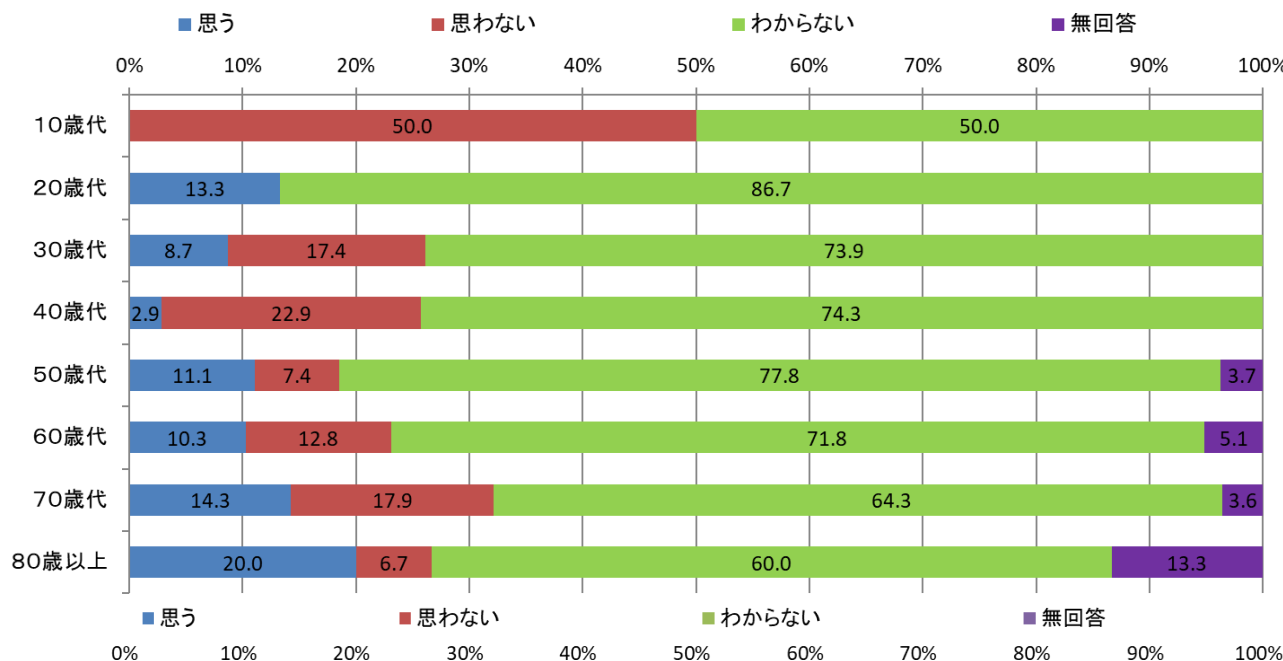


## 2 クロス集計結果

問17 聖籠町は、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、個人がその個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に力を入れていると思いますか。

### ③ 年代別

「思う」と回答した町民は「40歳代」から「80歳以上」にかけて徐々に高くなっている。一方で、「20歳代」、「30歳代」でも「思う」と回答した町民の割合が高くなっている。



### ④ 婚姻状況別

「未婚」で「思う」と回答した町民の割合が高くなっている。一方で、「死別」で「思う」と回答した町民は0%となっている。

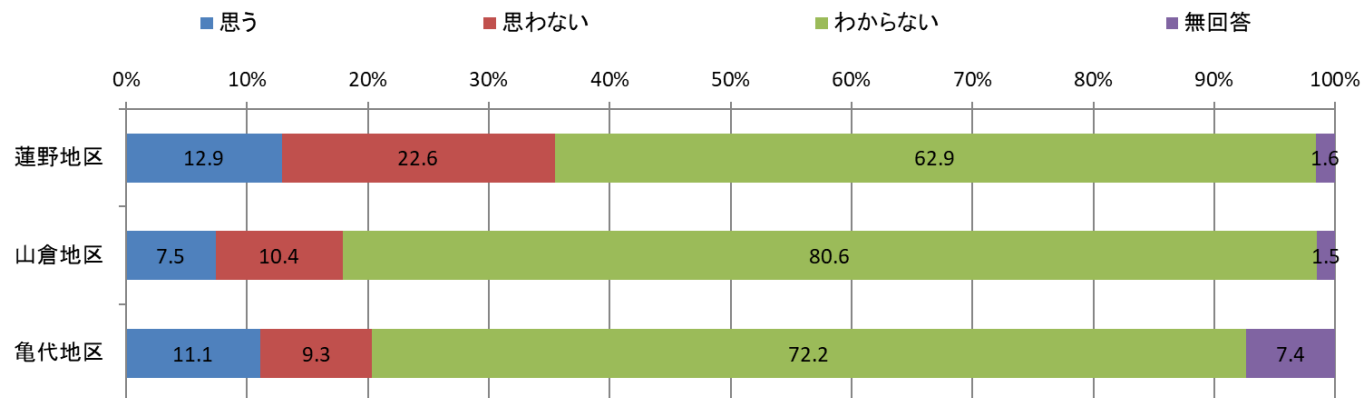


## 2 クロス集計結果

問17 聖籠町は、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、個人がその個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に力を入れていると思いますか。

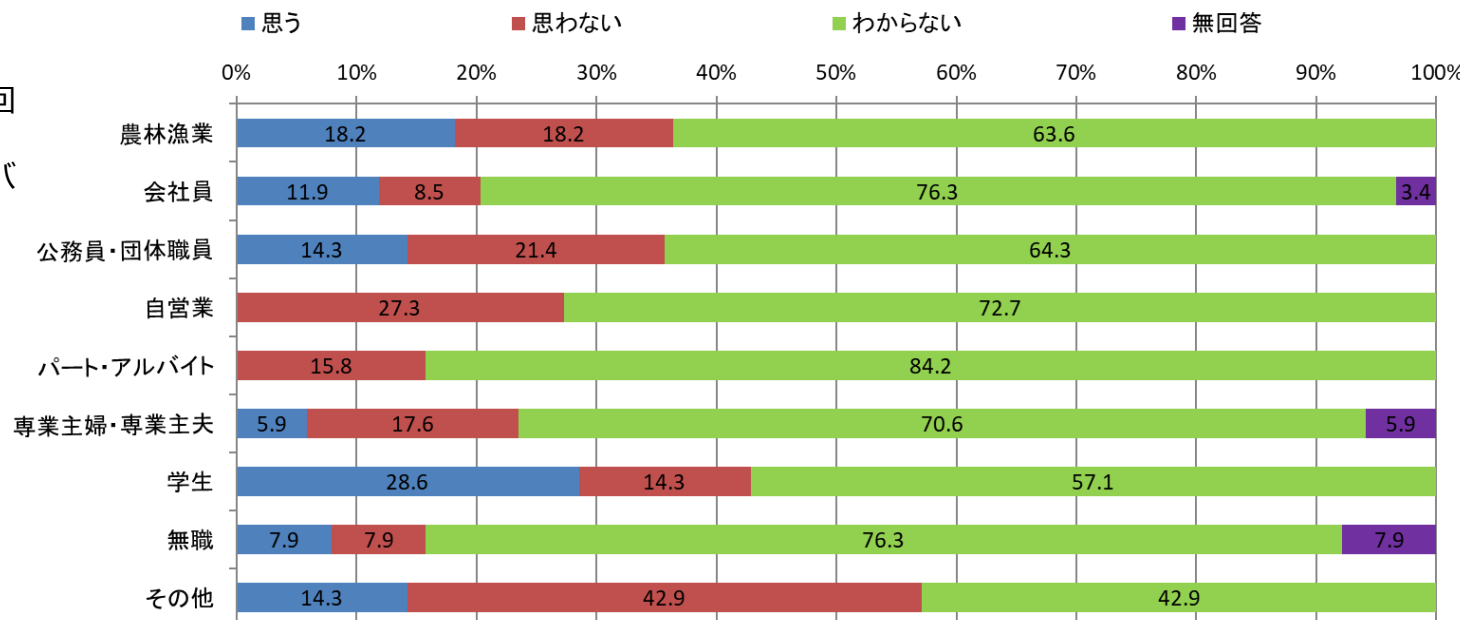
### ⑤ 地区別

「蓮野地区」、「亀代地区」で「思う」と回答した割合が高くなっている。一方で、「山倉地区」で「思う」と回答した割合が低くなっている。



### ⑥ 職業別

「学生」、「農林漁業」で「思う」と回答した割合が高くなっている。一方で、「自営業」、「パート・アルバイト」では「思う」と回答した町民は0%となっている。



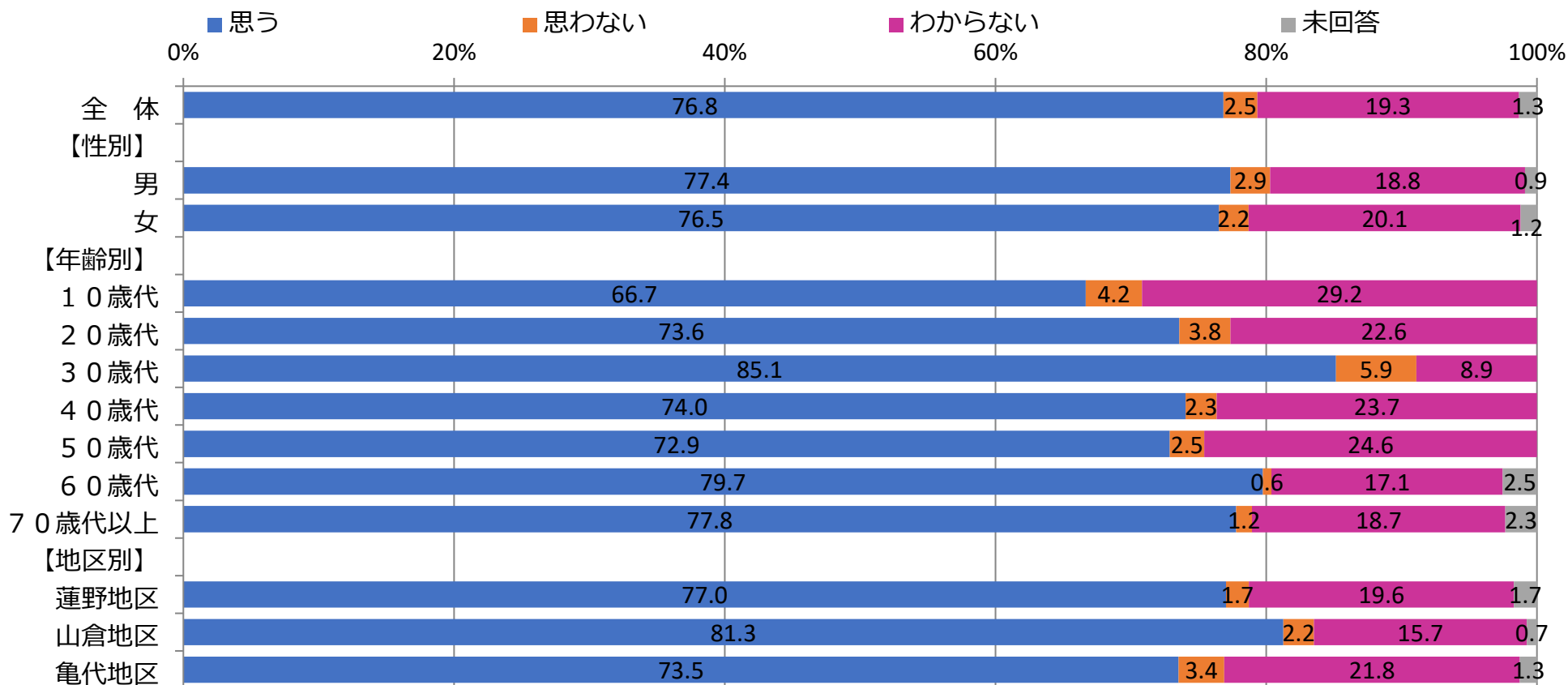


## 2 クロス集計結果

問17 聖籠町は、自身の性のあり方（性別等に関連する生き方）にとらわれることなく、個人がその個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に力を入れていると思いますか。

（参考）前回調査比較(R元)

R元設問：聖籠町は、性別にとられず、個人がその個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に力を入れていくべきだと思いますか。



3 意見

意見	性別	年齢層	職業等
男女共同参画に関する研修などがあれば参加したい	男	20歳代	学生
女性、男性、関係なく、そういう偏見をもつ上司をいなくし、誰でも楽しく、明るい職場作りが大切だと思います。	男	20歳代	会社員
性の多様性が注目されている昨今で、そもそも男女二元論での議論は正しいか？とは感じる。また、マイノリティや女性の生きづらさ、抑圧について、男性の生きづらさ、有害な男らしさについてもっと発信や議論が進む事を望みます。	女	30歳代	パート・アルバイト
大人は固定概念や世間体を気にしてしまうため、子どもの頃から教育としてこれらの意識づけをしていく必要があると感じます。	男	30歳代	公務員・団体職員
女性の地位向上はこれからも進めるべきだと考えますが、男性についても守られるべきではないかと思うこともあります。例えば、人それぞれ状況は異なるかと思いますが、離婚の際に男性は女性に比べて不利なことや、非がなくとも立場の弱い状況になりがちです。今となっては性別は関係ないのかもしれませんが、男性が守られ、女性が向上する。そんな社会を望みます。	男	30歳代	会社員
結果を踏まえてぜひ町政に活かしてもらいたい。子どもたちの教育に取り入れるのは早期に、それを教える大人たちの意識改革はより早急にすべき。全年代が分かりやすいリーフレットを作成し全戸配布してはどうか。	女	30歳代	パート・アルバイト
アンケート最終ページの男女共同参画の意味についての部分で知ったのだが、その年代で考え方が違うので、これからだんだんそう言う社会になると思う。	男	40歳代	会社員
私は聖籠町出身ではないので、地域の偏見やしきたりについてはよく分かりませんが、ひとりひとりの自立する気持ちが低い時があるように感じられます。 家族が介護・育児について話し合い、それぞれ自分の出来る事をやり、町のサービスに頼る時は頼る。周囲の目ばかり気にして頼ることができない人はたくさんいるように感じます。 聖籠町は他の市とは違い、町民の人たちにとっては身近に感じられる役所だと思います。高齢化に対してどのように対応していくか、期待しています。	女	40歳代	会社員
聖籠町は男女のあり方が昔のままだと思います。「問16の6」性的マイノリティという言葉がわかりづらい。広く知れ渡った言葉を使った方が良い。	男	40歳代	自営業
どんなことも、大人が子どもに見せていくことで、子どもは受け入れやすくなると思います。社会や街での動きとともに学校教育で平行して活動していただけると変わっていくのではないのでしょうか。性についての勉強についても親子で小さな時から学ぶこともとても大事だと思います。	女	40歳代	自営業
聖籠町は何事も昔から〇〇〇だった。昔からやっている事だからしょうがない。昔から在住している人の意見を大切に。昔から地位のある人の意見を大切に。 この姿勢をくずさない町。 「本人が望めば、あらゆる分野での活動に参画することが可能な社会を実現する」を目標にしてるなら、なぜ、母親達の声はどこにも届かず、いつもなかった事になるのでしょうか？意見をしても、昔から…。何かを決めるとしても昔から在住している地位のある男性たちに決定される。 何十年前から現在まで、母達の意見を聞き流してきた町が、ねじ伏せてきた町が、「男女共同参画」を推進してるなんて信じられません。形だけのものなら言わないでいただきたい。	女	40歳代	会社員

3 意見

意見	性別	年齢層	職業等
一般の会社等で女性が仕事を続けていく場合、出産という大きな問題があると思います。どれだけ柔軟に産後の職場復帰に対応出来るのかが、男女平等の実現に向けて重要な課題の一つなのだろうと思います。	女	50歳代	会社員
町で実施されていることは知っているが、具体的にどのようなことをされているか知らない。	女	50歳代	会社員
「交通安全母の会」が良い例で、役場担当から女性を選任するよう指導がありました。先ずはそのようなところから改善が必要では無いでしょうか。	男	50歳代	会社員
我々の年代は「男は男らしく、女は女らしく。」という親の教育を受けてきた人が多いと思います。文明やテクノロジーの発達で、仕事や生活面においても、男女の思考、体格差やその他においても得意、不得意を補う事ができる時代になってきました。身近なところでも（例えばスーパーやコンビニのトイレなど）時代が変わってきている事を感じる場面も見受けられます。行政やマスコミが道をつけて行くものなのか？正直、今の段階ではよくわかりません。	男	50歳代	会社員
問17で、「1、思う」としたが、不十分だと思う。	男	50歳代	公務員・団体職員
今後、男女という垣根は関係なく、その人個人の個性を大事にするべきだと思う。男だから女だからという考えは、すてるべきだと思う。1人1人、出来る事を全うする。そのうえで国の為、世界の為に今後の世界を良くするため1人1人が考え、行動して行かなければいけない。自分1人が良ければ良いのではなく、個人の個性をのばしつつ、世の中も良くなっていければ良いと思う。SDGs等、考えなければいけない事はやまほどあります。	女	50歳代	パート・アルバイト
自身がもっと若い時に、このような考えや周りの考えがあったら、仕事、家事が違っていたのでは…と感じます。今後、女性が家事、育児にとられることの少ない社会に期待します。	女	50歳代	パート・アルバイト
今は、女性も高校生は、スラックスを履く時代です。	男	50歳代	公務員・団体職員
聖籠町で男女共同参画計画が実施されていることを知らなかったのが、今回のアンケートをきっかけに調べてみました。女性にとっては出産、育児が大きく関わってくることと感じます。平等にはならない。	女	50歳代	会社員
聖籠町で数年前から取り組んでいるということを知っていませんでした。具体的な行動目標や結果状況が定期的に報告されていたのでしょうか？ 今後、気をつけて見るようにします。	女	50歳代	会社員
質問があまりにも漠然としているのでわからない。	男	60歳代	無職
もっと具体的な質問でないと答えられない。	男	60歳代	会社員
男性らしく、女性らしくではなく、〇〇〇さんらしく、という会話がふつうにできればいいと思う。	男	60歳代	無職
男女共同参画と言いながら、町ではまだ何も変わっていない様な気がする。そんな兆しすら感じない。町のアンケートなのであえて言うなら町役場から積極的に変革を示していただきたいと思います。	男	60歳代	その他

### 3 意見

意見	性別	年齢層	職業等
<p>生活する上で共働きは当然すぎる位、必要でした。</p> <p>職場があった事は大変にありがたい事で自分の生き甲斐であり良い経験で、一番はなにより学びの場でした。</p> <p>性別等に関しては、それぞれがそれぞれでいいと思うので一度きりの人生自分の思うように生活するべきだと思います。皆地球の仲間。楽しく。1日を。理解する人もそうでない人も皆楽しかった～という1日をすごしていけたらと思います。</p> <p>生まれてきてくれただけでも何百万点だと思います。困ったら助けを求められる社会であってほしいです。</p> <p>子供も大人も、そしてなにより今まで頑張って来た私達年輩者も、男女にとられる事なく、安心して生活できます事を。働ける場を多く設け、老人が安心してすごせる聖籠町を望みます。</p> <p>男女を過度に意識しすぎる事がそもそも差別につながったりするのかと。それぞれがそれぞれでいい、そのままでいい。ばばの思うところです。</p>	女	70歳代	無職
<p>私は今78才です。昔から女は女、男は男として育ってきました。</p> <p>女は子供を育てて、あいまを見て働いた。男の人は子守なんてなんにもしなくて、女にまかせておけばいいという感じです。</p> <p>女は子供を育てて農業を手伝って生きてきました。</p> <p>私達農家の人はおばあちゃんという強い味方がありましたから、おばあちゃんに子供を見てもらい、お父さんのあとについて働きました。百姓は女も働くものだ、子供のころより育てられてきましたから、おばあさんがいたことには本当に力になりました。おばあちゃんさままでした。</p>	女	70歳代	無職
<p>問12の、相談のための窓口があることは知っているが、連絡先は知らない。</p> <p>問13の、1から5の選択肢に当てはまらない。男でも女でも出来る方が行えば良い。男と女と分ける考えがおかしい。慣習の「はだか祭り」など、女性でも出来るか？分けるところは分け、分けなくてもよい所は共同で行う所が良いのでは？</p> <p>「本人が望めば、あらゆる分野での活動に参画することが可能な社会を実現する」とあるが、現在は参画可能ではないのか？</p>	男	60歳代	会社員
<p>先進国の中でも、日本は、女性の社会進出が遅れている。今回の衆議院議員選挙においても、顕著である。</p> <p>政治、経済界においても、女性の登用を積極的に図ることが必要である。</p> <p>役場においても、女性の課長職が多くなることを期待する。</p>	男	60歳代	その他
<p>問13-1について、小学校の5年生くらいまでは、妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思う。</p> <p>問13で2を選択しているが、問13-2の6「誰もが、家庭と仕事とを両立できるような働き方ができる社会の実現を目指すべき」だと思う。</p>	男	60歳代	農林漁業
<p>男性、女性でも、個性や能力がいかせれば町の為にもいいと思います。</p>	女	60歳代	無職
<p>聖籠町での各種委員会がありますが、以前よりは女性の比率も高くなっています。しかし、委員会によっては活発に発言する女性もいますが、ひと言も言わずに何年も委員になっているという事も聞いています。ただ女性の比率を高めれば良いという事にはならないと思います。発言できる女性を選ばないといけないのではないかと思います。</p>	女	60歳代	その他

3 意見

意見	性別	年齢層	職業等
1. 機会は平等に窓口を設けるべき!! 2. 但し評価は能力、特性に応じた公平であること。 3. 単なる数値上の平等は本質を外れている。(役職に登用の%など!!)	男	70歳代	無職
働き方改革を進めている町側の姿勢が見えて、これからの行政のあり方に応援したい。	男	70歳代	無職
1. 子供が幼児期には母親がそばに居ることは、とても大切なこと(生きものすべての基本だと思う) 2. 子供の一番先に覚えた言葉が「今日もお母さんおそいね」だったと云った職場の男性がいた 3. 男女共同参画は、社会的視野にみれば賛成、でも家庭個々の側から見たら果たして諸手を挙げて賛成できるのか? 4. 社会参画していれば当然、男女を問わず夜の会合にも出ざるを得ない、そんなことが長く続けば当然家庭内に冷たい風が吹くであろうと思う。 5. 以上のような事を考えて、ある時期は子供のいる女性は勿論、家庭経営は、夫婦で係わることが大切かと思う。  よく子育て中の女性は孤独で…と云われてるが、吾子を胸に抱いて授乳させ一日一日変化してゆく姿を見る程、女性にとってうれしく幸せ感を一杯に思えることはないと思う。 昭和1桁生まれの人間の時代遅れの思いと云われるのか?  問17については、実態が全く分からない。女性を役職につけることを参画と云うのか?	女	80歳以上	専業主婦・専業主夫